

田園環境都市ビジョン 基礎資料

大谷北部・中部地区



2023年3月

小山市

田園環境都市ビジョン 基礎資料 | 大谷北部・中部地区

目次

I 調査の趣旨と調査概要	1
1 目的	
2 本調査の「風土性調査」としての性格付け	
3 地域での各種調査	
4 調査報告	2
5 田園環境都市ビジョン基礎資料の作成	
II 踏査および文献調査による報告	3
1 大谷北部・中部地区の概況	
2 地域の自然について	4
3 地域の自然への人の働きかけについて	13
4 地域と人々の心身の結びつき	24
5 景観から読みとれるその他のこと	29
III 簡易社会調査による報告	35
1 目的と実施概要	
1-1 目的について	
1-2 実施概要について	
1-3 座談会形式のグループインタビューについて	
1-4 アンケート調査について	
2 結果整理の手法について	36
3 各調査の結果報告	37
3-1 グループインタビューの記録	
3-1-1 大谷北部地区	
3-1-2 大谷中部地区	
3-2 アンケート調査結果（概要と考察）	67
4 参考資料	80
4-1 キーワード抽出	
4-2 地区別の世帯数・人口の変化	
5 調査結果の整理	84
参考・引用文献	86

I 調査の趣旨と調査概要

1 目的

小山市では、生態系の頂点に立つコウノトリが定着・繁殖するラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」を擁する、都市と田園環境が調和したまちとして、小山市の現在の環境を将来にわたり維持向上させていくため、これからのまちづくりを「田園環境都市 小山」と呼び、SDGs の実践と一体化したまちづくりに取り組もうとしている。

本調査は、上記背景を踏まえて、踏査（現地調査）、地域の聞き取り調査、文献調査を実施して基礎資料を作成し、小山市における持続可能な社会実現に向けた「田園環境都市 小山」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市 小山」を浸透させて各種取組みの深化を図るものである。

2 本調査の「風土性調査」としての性格付け

本調査は、地域の風土性（風土の性質、成り立ち）に着目して行った。「気候風土」から「企業風土」まで、人々になじみのある風土は、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけてかたちづくられる（詳細はII章を参照）。

こうした風土の調査は、地域に暮らす市民とともに地域の自然と人間の関係のこれまでを知ることにつながる。そして、そこから地域の持続可能なあり方を考えてゆくことが可能となる。また、ある専門分野の中で行われる地域研究とは違い、調べる対象は自然から社会、文化まで幅広く、それ

ら風土の要素を分析し、要素間の関係を調べた結果を総合・統合することで風土の成り立ちが読み解けてゆくため、地域の実像を浮かび上がらせることに結びつき得る。

このように、持続可能なまちづくりに市民と行政が共同で取り組む際に依って立つ基盤と考えられる風土性調査として、本調査は実施することとした。

3 地域での各種調査

令和4年12月1日から令和5年2月28日までを調査期間として、踏査（現地調査）、簡易社会調査2種（聞き取り調査、アンケート調査）、文献調査を組み合わせて行った。以下に、概要を示す。

3-1 踏査

小山市大谷北部・中部地区及びその周辺で踏査を行い、後述する文献調査を適宜組み合わせ、調査地区の地理や動植物の生態、地域の歴史や民俗に関する情報を収集し、地理的条件が土地利用、都市環境・田園環境それぞれの市街地・集落の構成にどのように生かされ、建築物や土木構造物の形態等にどう影響しているのか調査した。また、これらと地域の人々の生活や生業との関係性や、どのように地域の産業や文化等を生みだし発展させ、現在の風土形成にいたっているかについて調査を行った。

踏査は、必要に応じて市担当者と業務受託者が共同で実施した。

I 調査の趣旨と調査概要

3-2 簡易社会調査1 — 地域の聞き取り調査

当該地区の将来のまちづくりに資するキーパーソンを対象に、グループインタビューとして聞き取り調査を行った。

とともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市 小山」を浸透させて各種取組みの深化を図るための基礎資料として、本報告書を作成した。

3-3 簡易社会調査2 — アンケート調査

現地調査と聞き取り調査をもとに、調査地区在住の市民が知る情報等をさらに少しでも多く集めることと、「田園環境都市 小山」の具現化に向けた取組みの周知を目的として、地域の現状や課題それらに対する意見等を尋ねるアンケート調査を行った。

3-4 文献調査

各調査に必要な情報収集のため、当該地区に関連する各種文献について調査を行った。なお、市は業務受託者へ市史や調査対象地区に関する資料を貸与もした。

4 調査報告

風土性調査の結果を調査地区在住の市民に伝える報告発表を下記日程、会場において行った。

- ・ 日程 令和5年3月13日(月) 18:00-19:30
- ・ 会場 小山市健康医療介護総合支援センター
研修室

5 田園環境都市ビジョン基礎資料の作成

上記4で行った報告と当日の質疑応答の結果を踏まえて、「田園環境都市 小山」を具現化させる

II 踏査および文献調査による報告

1 大谷北部・中部地区の概況

小山市の基本地形と大谷北部・中部地区の位置

大谷地区は、地区全体としては明治22年(1889)の町村制施行に際し中久喜、犬塚、土塔、泉崎、横倉、横倉新田、雨ヶ谷、雨ヶ谷新田、向原新田、田間、塚崎、武井、野田、泉新田の14村が合併した大谷村をもととする。地区の面積30.39km²は市の面積の約17.7%を、人口43,700人は市の人口の約26.1%を占めている(令和3年4月1日現在。「令和3年度版小山市統計年報」より)。

大谷北部・中部地区では、近世の旧村が元文5年(1740)にこの地区で本格化する新田開発とも関係して入り組んでいた上に、現代の土地区画整理事業や大規模住宅団地開発などが重ねられて、町名や大字が複雑に分布する。また、市街化区域と市街化調整区域に概ね二分され、都市環境と田園環境が共存している。そのように自然的な面と歴史が引き継がれ、現代性が加えられる中、自治会単位や任意団体単位でのコミュニティ活動が活発に行われている。

地形と地名

宝木台地の上は、南にゆるく傾斜している。台地上の各所に集まった水は、この傾斜に沿って流れながら幅200-300mの南北にのびる浅い谷を刻んだ。大谷地区の東西にはそれぞれ西仁連川(江川)と大川がつくる谷があり、「大谷」の地名はこうした地形からつけられたと考えられている。

宝木台地自体が、今から約258年前から1万1700年前にかけての完新世と呼ばれる時代に、川の流れに運ばれた土砂が積もってできたものである。その後、約2万年前の地球がきわめて寒冷に

なり広い範囲に氷河が発達した時期に海面が下がり、陸と海の高差が大きくなったことで川が地表を削る力が強くなり、現在の思川低地と鬼怒川低地がつくられ、その間が削り残されて宝木台地となった。

加えて、宝木台地は火山の噴火から地表にもたらされる火山灰などに覆われてもいる。そのように川に運ばれた土砂や火山灰が重なる中を地下水が流れ、台地の上で湧き出し、浅い谷をつくっている。小山市域最古の遺跡の一つ、大谷北部地区の大字中久喜にある八幡根東遺跡では、ちょうど約2万年前の石器が出土しているが、この遺跡や西側に近接した八幡根遺跡は水が湧き、谷が始まる地点に面している。こうした地点は、その後も神社(大字犬塚の弁財天神社、犬塚の金山神社等)を祀るなど大切にされてきた。

都市環境と田園環境

大谷北部・中部地区は、中世には中久喜城下から鎌倉へ街道が通され、近世には中久喜、犬塚、土塔が結城道の宿場とされた。今日では、国道50号や小山環状線などが通されて道路交通網の一端を担っている。

大谷北部・中部地区の中央部は、小山地区から東側にのぼされた市街化区域内に入り、おおよそは市街地とされて都市的な環境がかたちづくられてきた。一方、その北側、東側、南側は中央部を囲んで市街化調整区域に指定され、城跡や寺社といった歴史的な要素を含んだ田園的な環境が保たれる。さらに、市街化区域の内側にある浅い谷に開墾された農地が残る箇所がある(写真上)。また、大字中久喜の南端で西仁連川が刻んだ谷と合流する西側の谷のように、農地として使われている他に低湿地で地盤が軟弱であり、大字犬塚と中久喜

(小山東ニュータウン)の東西の市街化区域の間に市街化調整区域として残された例もある。

このように田園環境に取り巻かれた大谷北部・中部地区の都市環境は、田園環境が有する食料安全保障、生物多様性保全、低炭素化などの環境機能、

公益的機能の恩恵に預かっている。また、都市環境の側は農作物の消費や市民参加型の都市農業などに関する潜在需要を有し、双方には補完的関係が結べる可能性がある。

2 地域の自然について

本調査における風土の定義

風土とは、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけることでかたちづくられる、人々が生きる環境のことをいいます*。

* 園田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁

それは、いってみれば人々が生きる身近な世界、生活世界でもあります**。

** アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

図1 風土の定義

実際に地域を見て歩く踏査と、地域について書かれた書籍や論文に学ぶ文献調査を組み合わせ、地域の風土性について調査を行った。この調査は、はじめに「地域の自然について」、次に「地域の自然への人の働きかけについて」、続いてそのようにかたちづくられた「地域と人々の心身の結びつき」について、そして「景観から読みとれるその他のこと」を調べて記述する流れで実施した。

以下、その結果を市民への視覚的な説明にも用いられるようにスライドショーとして整理したものを、順に掲載する。なお、図1には再び風土の定義を示した。

出典 | 園田稔編『神道』(弘文堂、1988年、総372頁)。
アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』(那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁)

II 踏査および文献調査による報告



小山市の市街化区域と大谷北部・中部地区の位置関係を確かめる | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (最新改定 2023)

市街化区域と市街化調整区域に概ね二分されます。

出典: 総務省 | e-GOV | 数字計画法 <https://laws.e-gov.go.jp/document/lawId=343AC000000100> (2022-12-09 参照)

図4 小山市の市街化区域(図中の黄色い囲み)と当地区の位置関係を確かめる。

大谷北部・中部地区は、概ね市街化区域と市街化調整区域に二分される。



田間から大字横倉新田の住宅地を見る。2021/11/12

市街化調整区域から市街化区域を見た景観の例。

図5 田間から大字横倉新田の住宅地を見る。2021/11/12

当地区では全般に、市街化区域と市街化調整区域の土地利用の違いが明瞭である。

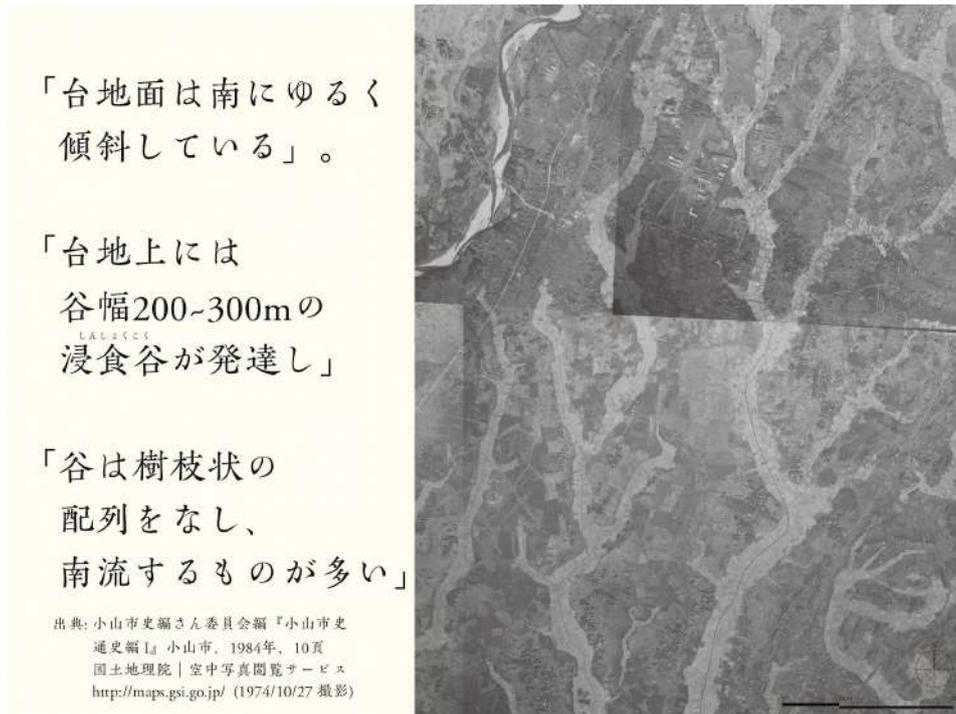


図8 空中写真(1974年撮影)を用いて当地区の地形を見る。色の薄い樹枝状の箇所が谷。

出典 | 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023年)

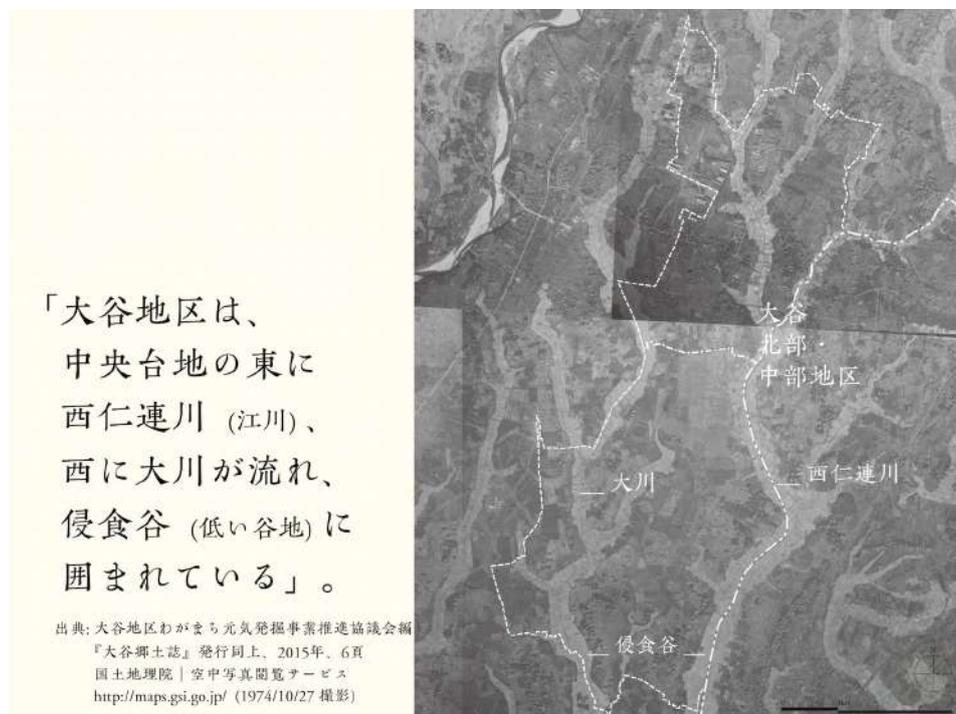


図9 概ね西仁連川と大川がつくる谷に挟まれた範囲が、当地区となる。

出典 | 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023年)

II 踏査および文献調査による報告



図 10 明治期の低湿地の分布図に地区の範囲を重ねる。谷底には主に水田がつけられた。

出典 | 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、6頁
 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023年)



台地上での侵食谷の発達過程を表わした概念図 (廣瀬 2023)

思川と鬼怒川に削り残された宝木面の上でも、
 雨水がより低い箇所へと流れつつ谷を刻みました。

参照: 田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127(10)、2021年、635-648頁

図 11 台地上での侵食谷の発達過程を表わした概念図 (廣瀬 2023年)

参照 | 田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127(10)、2021年、635-648頁

地域の自然について

ただし、台地は、
火山噴火によって地表にもたらされる
大小の破片状の物質、
火山灰や火山礫などに覆われてもいます。

約3.2万年前の赤城火山の爆発から形成された
鹿沼土（鹿沼降下軽石）もその中に含まれます。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、7-10頁

図12 台地は、火山灰などに覆われてもいる。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、7-10頁



河川堆積物や火山灰などが地層を成してできた
台地を地下水が流れ、所々で湧出し、それも谷を。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、7-10、31-32頁

図13 台地上の湧水は谷をつくり、谷が始まる箇所には神社が祀られてきた。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、7-10、31-32頁
国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス <http://maps.gsi.go.jp/>（廣瀬改変 2023年）

II 踏査および文献調査による報告



図 14 栃木県の表層地質と河川流域、およその地下水流動系の重なりを見る

出典 | 栃木県小山市年開発部区画整理課編『犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌』小山市、1998年、74頁
 地質図 Navi <https://gbank.gsj.jp> (廣瀬改変 2020年)



図 15 当地区で湧出する地下水流動系の上流域に当たる釜川および中禅寺湖を見る

出典 | 栃木県小山市都市開発部区画整理課編『犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌』小山市、1998年、74頁

II 踏査および文献調査による報告



図 16 大川べりから男体山をはじめとする日光の山々を望む。大字雨ヶ谷。2021/11/12

図 14-16 に抜粋して引用した文章を通して読めるよう、以下にまとめて引用する。

「台地には、数多くの湧き水点が見られる。豊かな地下水が噴出、清水となり湧水池となっている。丘陵地帯を流れる河川は、降水量の 60%が河川を流れる水、10%が地下水、30%は蒸発するという」。

「栃木県水理地質学的研究によると、今市扇状地—宇都宮へ流れ下った地下水は宇都宮付近の釜川、宝木用水の河川などに涵養されながら上三川工業団地に流れ、そこで下館方面と石橋方面へ分流し、石橋から国分寺へ下った分流水は、更に、結城方面と小山方面へ分かれているという。『小山市地史環境調査報告書（その 1）〔小山の地質及び思川自然環境〕小山市教育委員会発行より』」。

この二つの段落は、下記「犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌」の「犬塚の十景観—犬塚公園の湧き水」の項に、区画整理に際して市民が保存運動を展開した結果守られた金山神社裏の湧き水について説明するために書かれたものである。

出典 | 栃木県小山市都市開発部区画整理課編「犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌」小山市、1998 年、74 頁

大字土塔には、「いずんぼ」という名の小さな池があったという。以下、当地の公民館報より引用する。

「この池は、いつも清水が湧き出て水の枯れることがありませんでした。雨が少なく田植えが出来ないような時でも、この池から流れる水により、田植えが出来たという、まことにありがたい水神様の池でありました。昭和の初めごろ、その辺り一面に、レンゲの花や菜の花の咲き競うさまは、まさに平和郷であり、魚釣りや水遊びなど、子供たちには格好の遊び場であり、オアシス的存在でありました」。

前述の明治期の低湿地図と照合すると、この池は祇園城外堀とされた谷の東西を湿地が挟む地点に位置したようである。当地が水田ではなく湿地として残されていたのは、水源地であったからではないか。

出典 | 「土塔二公民館報 昭和 62 年 6 月 30 日号」土塔二自治会

3 地域の自然への人の働きかけについて

地域の自然への人の働きかけについて

「これまでに

小山市域最古の住人=先土器時代人達の足跡は、
八幡根東 (中久喜) 遺跡・本郷前 (出井) ほか
数遺跡から発見されている」。

「八幡根東遺跡における石器出土層準は、(中略)
およそ2万年前(中略)にあたりと考えるよい」。

出典:小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I』小山市、1984年、143-144頁

図 17 小山市最古の遺跡の一つが、大谷北部・中部地区に分布する。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、143-144頁



図 18 「大川」が流れる侵食谷。大字中久喜より大字犬塚 (谷底)、犬塚を見る。2021/11/12

II 踏査および文献調査による報告



「(前略) 桑・大谷地区では、いまなお谷頭湧水が」
 「多くは台地縁辺の小開析谷の谷頭近くに立地」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I』小山市、1984年、155頁 / 「栃木県埋蔵文化財調査報告第189集 八幡根遺跡」栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団、1997年、16頁

図 19 八幡根遺跡と周辺の地形などの関係を確認する。大字中久喜。2021/11/12

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、155頁

「栃木県埋蔵文化財調査報告第189集 八幡根遺跡」栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団



図 20 旧石器時代、縄文時代から近世まで、遺構・遺物が多数ある大字横倉。2023/02/25

出典 | 和田清七・入江信恵ほか「大谷村郷土誌」1933年、2頁

II 踏査および文献調査による報告



図 21 中久喜城跡 (大字中久喜) より「鎌倉街道」伝いに犬塚の市街地を望む。2023/02/25。

この道は、以下図 22 の奥大道 (鎌倉街道中道) の枝道と考えられる。



図 22 古代の東山道の宝木台地上の経路に、中世の鎌倉からの街道が接続された。

川の氾濫からでき、もとは湿地が広がっていた低地に比べて、台地は道を通すのにより向いた。

II 踏査および文献調査による報告



主要街道の分布 | 出典: 奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究—近世下野国の場合』大明堂、1977年、総168頁

周辺地域との関係においては、結城道が重要に。

出典: 小山市教育研究所『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年、総138頁

図 23 結城道の宿場は、当地区では中久喜の他に犬塚、土塔に置かれた。

出典 | 奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究—近世下野国の場合』大明堂、1977年、総 168 頁



小山地方の城の配置 | 出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、694-717頁

一帯では、川や樹枝状の侵食谷を堀にして城郭が。

図 24 小山地方の城の配置および地形との関係(主に河川、谷の堀としての利用)を見る。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、694-717頁

II 踏査および文献調査による報告



須賀神社。宮本町。2021/12/24
ごすてんのうしゅ

牛頭天王社跡地。大字中久喜。2023/02/25

「牛頭天王社を中久喜城の北山に祀ったという(後略)」
「牛頭天王社来由」に小山落城に伴う一時的な退転であったとの記述が。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、798頁 / 「本祇園牛頭天王社北山」文政5年(1822) ※『小山市史 史料編 - 近世 I』史料50

図 25 中久喜城の北側には、須賀神社(牛頭天王社)が祀られた。現在は、碑が残される。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、798頁
「本祇園牛頭天王社来由」文政5年(1822)

地域の自然への人の働きかけについて

「彼の平将門の乱には
藤原秀郷が中久喜に居館し、
凱旋後京都の牛頭天王を中久喜の地に招じて
戦捷に報いた。
これが小山町の郷社、須賀神社の前身だと
言い傳へられてゐる」。

出典：『大谷村郷土誌』大谷村、1933年、3頁

図 26 昭和8年(1933)の地誌に、藤原秀郷と中久喜城、牛頭天王社の関係が書かれる。

出典 | 『大谷村郷土誌』大谷村、1933年、3頁

明治13年(1880)から
19年(1886)にかけて
制作された
低湿地の分布と
土地利用がわかる
この図ど、
現在の地形図を
重ねます。

その上に大字と
町名を載せました。

出典: 国土地理院 | 地理院地図
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)

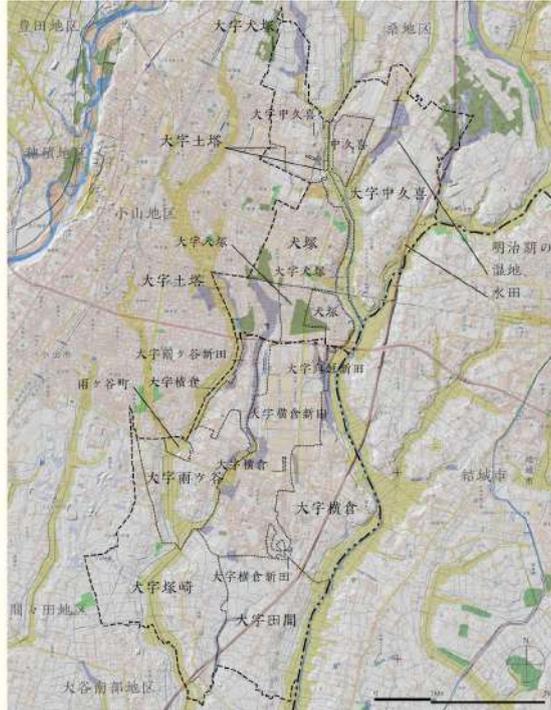


図 27 台地の上の谷にできた低湿地は、ほぼ水田(図の黄土色)とされた(紫色は未利用)。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023 年)

地域の自然への人の働きかけについて

元文5年(1740)、幕府の勘定組頭の命により
「小山市域内の原地新田は、主に大谷地区(中略)
横倉・雨ヶ谷・田間・野田などに開発された」

「原地とは百姓が薪の採集、あるいは家畜の飼料
および堆肥などにするため、草刈場として
利用している荒地で、これを開発(後略)」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、345頁

図 28 元文期の新田開発について確認する。犬塚では、元禄期(1688-1704)以前に実施。

出典 | 小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近世』小山市、1986年、345頁

地域の自然への人の働きかけについて

享保7年(1722)より、享保の改革の一環として
新田開発が奨励されます。

「このころまでにすでに開かれていたのは、
比較的水を制御しやすい場所(中略)
近世の新田開発では(中略)中世までに開発が
困難であったところへと開発が展開(後略)」

出典: 農業農村工学会「平野の拡張、新田開発」<http://www.jsidre.or.jp/tabata3-a/>(2023-03-12 閲覧)

図 29 近世の新田開発がどのようなところで行われたかについての説明を引用する。

出典 | 農業農村工学会「平野の拡張、新田開発」<http://www.jsidre.or.jp/tabata3-a/>(2023-03-12 閲覧)

地域の自然への人の働きかけについて

「これらの原地新田開発にあたっては、
他村より新たに百姓を入植させた形跡はなく
(中略)横倉村では(中略)耕作ができず(中略)
本村まで荒地がおびただしくなり(後略)」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、346-347頁

「享保改革による新田開発政策は幕府にとっては一時的な
年貢増収をもたらしたが、後進地域の農村では、その
強引さのため(中略)農村荒廃を促進する原因となった(中略)」

図 30 幕府による新田開発奨励策の負の面に関する指摘を引用する。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、346-347頁

II 踏査および文献調査による報告



空中写真。1947/10/27

空中写真・2021/05/24

横倉・雨ヶ谷の新田は、現在はほぼ市街地に変貌を

出典 | 国土地理院 | 空中写真閲覧サービス <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

図 31 1947 年と 2021 年に撮影された空中写真を比較して、土地利用の変化を見る。

出典 | 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023 年)



雨ヶ谷新田に残る農地。2023/02/19



空中写真。1947/10/27

明治期の低湿地データ・標準地図

「新田」で今も営まれる農地の例 (市街化区域内)。

出典 | 国土地理院 | 空中写真閲覧サービス/地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

図 32 大川が流れる谷の支谷にあるこの農地は、明治期は畑地、1947 年と現在は水田に。

出典 | 国土地理院 地理院地図、地図・空中写真閲覧サービス <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023 年)

地域の自然への人の働きかけについて

「自給自足の農業経営は
明治三十年頃を終期として漸次分業的になり
精米の如きすら大正の中頃から自家でなす者は
見られなくなった。
又副業として結城縞を織る機業きぎょうが盛大で
農繁期ちゅうふんきさへ晝夜ひらよとも梭はの音が聞こえたもので
あるのに明治の晩年から跡を断った」。

出典：『大谷村郷土誌』大谷村、1933年、7頁

図 33 明治期から大正期、昭和期にかけての当地区の農業の状況の変化を記した文章を引く。

出典 | 『大谷村郷土誌』大谷村、1933年、7頁

地域の自然への人の働きかけについて

「しかし此の頃から
干瓢かんぴょうが特産物としてもはやされ
当地の生活を少なからず向上させた。
純農村であったが、小賣商こうりしやう・仲買業者が
各字に二・三戸づゝ出来たが
何れも半商半農でなければ
経営が困難のやうである」。

出典：『大谷村郷土誌』大谷村、1933年、7頁

図 34 本県の干瓢生産は、壬生城主鳥居忠英の前任地江洲からの導入を起源とするという。

出典 | 『大谷村郷土誌』大谷村、1933年、7頁

栃木の食事編集委員会編『日本の食生活全集 09 聞き書き 栃木の食事』農山漁村文化協会、1988年、54、350頁

地域の自然への人の働きかけについて

「明治30年代頃には現在の小山市域のすべて村々では、多少なりとも絹織物、ここでは結城紬などが生産されており、とくに、現在の小山市東部の旧絹村、旧桑村、旧大谷村では盛んであったと指摘されている。(中略) 製糸工業の発達を促し (中略) 明治33年に小山製糸(株)が操業を開始した(後略)」

出典: 水島一雄「小山市旧小山村『犬塚』地区の変容」『犬塚土地区画整理事業竣工記念誌』栃木県小山市、2000年、18頁

図 35 当地区および市域での家内制手工業から工場制手工業への展開に関する文章を引く。

出典 | 水島一雄「小山市旧小山村『犬塚』地区の変容」『犬塚土地区画整理事業竣工記念誌』栃木県小山市、2000年、18頁

地域の自然への人の働きかけについて

「小山市における工場進出の過程を歴史的に(中略)次の3時期を指摘する」。

- | | | |
|-------|-----------------|---------|
| ・ 第1期 | 大正末から昭和初め | 原料志向型 |
| ・ 第2期 | 第二次世界大戦中 | 軍需工場ほか |
| ・ 第3期 | 1955年以降の高度経済成長期 | 機械・金属関係 |

出典: 田島康弘「大都市における工業化の進展と農村の対応—栃木県小山市開拓集落の場合」『地理学評論』48(10)、1975年、742-755頁
小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、615-632、817-822、975-985頁

図 36 原料志向型工業(図 35 に例示)に始まる本市における工場進出の過程を整理する。

出典 | 田島康弘「大都市における工業化の進展と農村の対応—栃木県小山市開拓集落の場合」『地理学評論』48(10)、1975年、742-755頁
小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、615-632、817-822、975-985頁

II 踏査および文献調査による報告



図 37 大字横倉新田では、工場誘致までに「入会山」に始まる上記の経過がたどられた。

図中の「入会山」は、肥料などを得るために定められた村ごとの共有地を指す。戦時中の 1943 年に富士産業株式会社（旧中島飛行機）に、この入会山は飛行場建設を目的として買収されたが、建設はされず、軍の農耕部隊が簡易開墾を行った。戦後、旧軍関係者に加えて緊急開拓事業により引揚者らが入植し、開墾は進められた。その後、「1953~1954 年の全国的な地方自治体財政の赤字と、それに続く工場誘致競争の中で、小山市も、1954 年 12 月 27 日、『工場誘致条例』を制定し」開拓地を中心に買収し、工業団地を造成する計画が立てられた。この計画には賛否があり、事業の完了までに 11 年を要した。

その経緯や背景についての細やかな調査と考察の結果が、下記の論文にまとめられている。

出典 | 田島康弘「大都市圏内における工業化の進展と農村の対応-栃木県小山市開拓集落の場合」『地理学評論』48 (10)、1975 年、742-755 頁 <https://doi.org/10.4157/grj.48.742>

4 地域と人々の心身の結びつき



氷川神社。大字塚崎。2023/02/19

塚崎の氷川神社には、祭礼の日と知らずに訪問を。
境内の清々しさや真新しいしめ縄、紙垂してが印象に。

図 38 祭礼の日の氷川神社を写す。大字塚崎。2023/02/19



星宮神社。大字雨ヶ谷。2023/02/19

直前に訪ねていた
星宮神社の境内も美しく。

図 39 星宮神社。大字雨ヶ谷。2023/02/19

当地の星宮神社の創立は、平安時代と伝えられる。祭神は、磐裂神である（当神社資料より）。

地域と人々の心身の結びつき

「中久喜自治会の小川悟郎会長を中心とした
地元ボランティア

『中久喜城跡環境美化グループ』。

昨年末から1、2週間に1度、
伐採や草刈りなどの
環境美化活動を行っている」

出典: 「再発見 しもつけの史跡 117 中久喜城跡 (小山・国指定)」 「下野新聞」 2021年8月19日、23面

図 40 祭礼のように継承される営みがある他、新しく始められるコミュニティ活動がある。

出典 | 「再発見 しもつけの史跡 117 中久喜城跡 (小山・国指定)」 「下野新聞」 2021年8月19日、23面



図 41 JR 水戸線を渡って中久喜城本丸、二の丸跡に至る。大字中久喜。2023/02/25

出典 | 「再発見 しもつけの史跡 117 中久喜城跡 (小山・国指定)」 「下野新聞」 2021年8月19日、23面

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



図 42 中久喜城本丸跡。大字中久喜。2023/02/25

「中久喜城は鎌倉時代から室町時代の城です」(小山市教育委員会「中久喜城はこんな城です。」より)



図 43 中久喜城大手跡。大字中久喜。2023/02/25

中久喜城は二つの谷が合流する南側に二重の土塁と塀を築き、北側の守りを寺院や侍屋敷を集めて固めるなど堅固な構造を擁した、中世の歴史を伝える貴重な遺構であるという(小山市教育委員会前掲書)。



オオムラサキ harum.koh 撮影, CC BY-SA 2.0

「蝶については、オオムラサキが、中久喜城跡・武井・南和泉の林で目撃できた」。

出典: 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、32、36頁

図 44 幼虫はエノキの葉、成虫はクヌギ等の樹液を摂取するオオムラサキの生活の場にも。

出典 | 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、32、36頁

地域と人々の心身の結びつき

「水田周辺草地の適切な管理によって、水田、畦畔、のり面、水路（土水路）、斜面林という多様な植生が狭い範囲に維持されていることが、チョウ類をはじめとする昆虫相を豊富に（後略）」

出典: 山本勝利他「農村景観構造に基づく生物生息空間の評価」『システム農学』23(1)、2007年、1-10頁

当地区の地形、土地利用と植生から考えると、史跡の管理がそれに結びつく可能性があるといえます。

図 45 水田や樹林の残る当地区では、史跡管理を生態系保全に結びつけることもできる。

出典 | 山本勝利他「農村景観構造に基づく生物生息空間の評価」『システム農学』23(1)、2007年、1-10頁

https://doi.org/10.14962/jass.23.1_1



フジバカマに訪花したアサギマダラ Σ64撮影, CC BY-SA 3.0

「アサギマダラも普通に見られるようになって(後略)」
「15個の団子を作り(中略)ススキ、ワレモコウ、フジバカマを(中略)供える」

出典: 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、36、69頁。上記説明文2行目は「十五夜」に関する記述から引用。これらの植物は人の利用や環境条件と関係する

図 46 アサギマダラの成虫が訪花を必要とするフジバカマは、当地で十五夜に供えた植物の一つ。

秋の七草の一つに数えられるキク科ヒヨドリバナ属のフジバカマは、天然由来の有機化合物で多くが有毒であるアルカロイドの一つ、ピロリジジナルカロイドを含有する。アサギマダラが属するタテハチョウ科マダラチョウ亜科などのチョウ類の成虫の特に雄は、ピロリジジナルカロイドを含む植物を訪れて吸汁し、ピロリジジナルカロイドを「自らのあるいは子供(卵)のための防御物質として、また性フェロモンの原料としても利用している」。

フジバカマは、増水時に冠水する河川の氾濫原などの自然草原を生育適地とする。こうした環境は、全国的に河川改修において水際線を人工構造物化することで少なくされ、また河川の高水敷がグラウンドや公園などとして整備されることでも失われている。しかし、陸と水のように二つの異なる生態系の接点が境目なく変化しながら続いている環境、エコトーン(移行帯)は多くの生物に必要な要素とされている。河川や農業水路の管理においてこのような点が大切にされることは、アサギマダラの生活に必要な植物の一つであるフジバカマの生育環境の保全につながると共に、十五夜に15個の団子と秋の七草を供える地域文化の継承に結びつく。

こうしたアサギマダラとフジバカマと十五夜の関係は、本来は自然と対となった地域文化の継承のあり方を考えるのに向く例として、ここに挙げた。

出典 | 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、36、69頁

本田計一「鱗翅目昆虫とアルカロイド」『化学と生物』36(6)、1998年、359-367頁

<https://doi.org/10.1271/kagakutoseibutsu1962.36.359>

服部保他「フジバカマ生育地の現状と保全」『ランドスケープ研究』63(5)、1999年、477-480頁

<https://doi.org/10.5632/jila.63.477>

5 景観から読みとれるその他のこと



弁財天神社。大字犬塚。2023/02/12

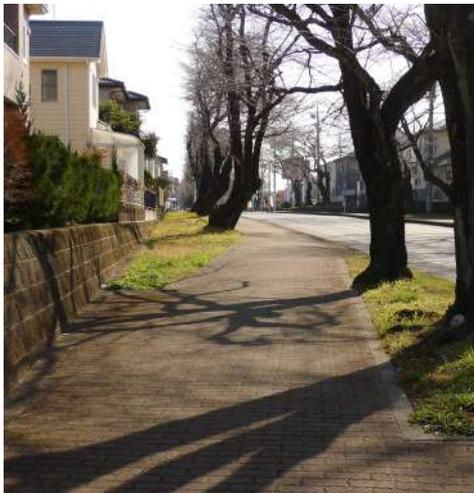


同神社前より北側を見る。以下同左

当地区最北部、大字犬塚の弁財天神社です。
台地上の湧水が多いという桑・大谷地区の特徴が
はっきりと残ります。

図 47 弁財天神社。大字犬塚。2023/02/12。当地区の各所の景観を北側から見てゆく。

西仁連川に合流する谷の支谷の始まりに祀られる。田園景観の中で守り継がれる重要な場所の一つ。



小山東ニュータウン。中久喜。2023/02/12



西山公園。以下同左

中久喜の小山東ニュータウンです。
公共空間の緑量が豊富な住宅地の
環境、景観が、維持されます。

図 48 小山東ニュータウン。中久喜。2023/02/12。写真右は、西山公園を写したもの。

II 踏査および文献調査による報告



小山市立第三中学校南側から大字中久喜を望む。犬塚。2023/02/12 犬塚公園。同左

谷を挟んで大字中久喜の平地林を望む景観 (左) と、市民の保存運動に応じて湧水池が残された金山神社に隣接する犬塚公園 (右)。犬塚の景観の例

図 49 小山市立第三中学校南側から見た大字中久喜 (左) と犬塚公園 (右)。2023/02/12

区域内外の緑地を含む景観を写す。犬塚公園に隣接する金山神社には、湧水池が残される(12 頁参照)。



松岸寺前。大字中久喜。2023/02/12

神明社と持福院。同左。2023/02/12

「一つの集落にこれほど多くの寺社がまどまっていることはまれで (中略) 戦国時代の中久喜城の城下町に相当 (中略)」。大字中久喜の例。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、722-725頁

図 50 松岸寺前 (左) と神明社、持福院 (右)。大字中久喜。2023/02/12

II 踏査および文献調査による報告



平成通り。大字土塔。2023/02/25

大字犬塚、犬塚と東へつながる平成通り。
幅員20mながら2車線で歩道幅員が広く、
荷捌きや買い物などに使える停車帯があります。

図 51 平成通り。大字土塔。2023/02/25

地域公共交通の充実に伴う価値向上が見込まれる道路。電線地中化も行われ、街路樹を大きく育てて空気清浄化、熱環境調整、炭素固定、鳥や昆虫の移動空間確保など多くの環境機能を持たせられる。



小山環状線、あけぼの公園北側。横倉新田。2023/02/19

音弥神社南側。同左。2021/10/05

横倉新田では、工場の立地による大規模な区画と、
水路の配置のために地形なりに通された
曲がり道のまじる住宅地が同居しています。

図 52 小山環状線、あけぼの公園北側（左）と音弥神社南側（右）。横倉新田。

工場のある大街区と原地形に沿う道の残る人間的規模の街区との空間体験の違いも、当区域の性格に。

II 踏査および文献調査による報告



関東職業能力開発大学校南側，大字横倉。2021/10/05

稲荷神社東側の集落景観。同左。2023/02/19

大字横倉の西部は市街化区域、
西仁連川に面した東部は市街化調整区域に当たり、
西部では田園環境から市街地へと変化を。

図 53 関東職業能力開発大学校南側（左）と稲荷神社東側の集落景観（右）。大字横倉。

大字横倉は、西部で市街化が進み、東部で市街化が抑えられている。東部は遺跡の集積地でもある。



雨ヶ谷新田の市街化された範囲。2023/02/19

雨ヶ谷新田に残る農地。同左

雨ヶ谷新田には、市街化区域内ながら
まとまった面積の農地が保たれる箇所があります。
土が露出した地面は、治水から低炭素化まで多様な環境機能を有します

図 54 雨ヶ谷新田の市街化された範囲（左）と残存する農地（右）。2023/02/19

市街化区域における台地上の谷の土地利用として、右の例は治水上有利であり、低炭素化や草原性、湿地性の生物の生息空間確保にもつながるなど、さまざまな環境機能を持つことが評価できる。

II 踏査および文献調査による報告



大川が流れる谷の西側の集落。大字雨ヶ谷。2021/10/05

星宮神社から東側を見る。同左。2023/02/19

かつての祇園城外堀の下流域に当たる谷を挟んだ
大字雨ヶ谷の東西の高台の家並みを写しました。
他の侵食谷と同様に、豪雨時には各所での水の一次貯留と併せて
効果的に治水に用いることが期待されます。

図 55 大川が流れる谷の西側の集落（左）と星宮神社から東側の景観（右）。大字雨ヶ谷

谷底が概ね農地とされ、台地の上にも農地が残り、本来の水その他の物質の移動が保たれる面がある。



氷川神社から見た西側、大川の流れる谷。大字塚崎。2023/02/19

同神社より東側の集落を見る。以下同左

大字塚崎は、大字雨ヶ谷の下流側に位置し、
大川が流れる侵食谷に面して平地林、社寺林、
屋敷林と緩やかな傾きの畑が広々と保たれます。

図 56 氷川神社から見た西側、大川の流れる谷（左）と東側の集落。大字塚崎。2023/02/19

農地が尾根と谷で連続的に営まれ、平地林と社寺林、屋敷林が残され、良好な田園環境が維持される。

II 踏査および文献調査による報告



平地林と農地ごしに集落を望む。大字田間。2021/11/12

血方神社。「血方神社太々神楽」を継承。同左。2023/02/19

大字塚崎と同じく、大字田間にも
ほぼ全域に田園環境が広がります。

食料安全保障から生物多様性保全、低炭素化まで環境機能を幅広く持つ
持続可能性などの公益的観点から評価できることの多い地区といえます

図 57 平地林と農地ごしに集落を望む（左）。血方神社（右）。大字田間。

農地の維持は重要であり、当区域に限らず消費から援農まで市民の様々な関与、参加が求められる。



八幡根遺跡西側下の水田。大字中久喜。2021/11/12

空中写真 2021/05/24 出典：国土地理院 | 空中写真閲覧サービス <http://maps.gsi.go.jp/>

農地には、持続可能な未来に役立つ思わぬ効果も。
額縁状に稲を刈った後、わだちに水がたまる田は、「雨も雪もとても多
いため、田んぼ全面には水をはらずにトラクターのわだち跡をつける」
佐渡市の簡易な「ふゆみずたんぼ」に近い効果を持つと考えられます。

出典：佐渡トキファンクラブ「トキのためのお米を食べる」 <https://toki-sado.jp/ikimonohagakumu/> (2023-03-12 閲覧)

図 58 八幡根遺跡西側下の水田（左）と 2021 年に撮影された当地の空中写真（右）

出典 | 佐渡トキファンクラブ「トキのためのお米を食べる」 <https://toki-sado.jp/ikimonohagakumu/> (2023-03-12 閲覧)

※稲刈り機のコース取りに関しては、小川悟郎・中久喜自治会長より情報を提供いただいた。

Ⅲ 簡易社会調査による報告

1 目的と実施概要

1-1 目的について

大谷北部・中部地区で暮らす人々の生活や意識をできる限り実情に近いところで把握すること。特に、過去と現在の生業や生活の様子、地域をどのように認識しているか、大谷北部・中部地区で暮らしながら、大切に守っていききたい地域の宝や、逆に解消したい困りごとなどについて、どのような考えを抱いているかなどについての把握を試みる。また、それらの関係性を読み解くことで、大谷北部・中部地区および小山市域全体での田園環境都市ビジョンの手がかりを得ることを目的とする。

1-2 実施概要について

令和4年11月から令和5年2月にかけて、下記の2種類の簡易社会調査を行った。

①座談会形式のグループインタビュー

②無作為抽出・郵送によるアンケート調査

大谷北部・中部地区で風土性調査を行うにあたり、まず9月3日の自治会長、副会長の打ち合わせにおいて総合政策課より事業の説明を行い、9月13日の大谷地区自治会長役員会では風景社より調査の説明とグループインタビューに関する相談を行った。

大谷地区での活動などの実情に合わせ、大谷北部、大谷南部ではなく、北部、中部、南部と3区分で地区を分け、今年度の風土性調査においては、大谷北部・中部地区を対象に行うことになった。

1-3 座談会形式のグループインタビューについて

(1) 特に考慮したこと

アンケート調査では、本調査で立てた目的達成のためには、設問や提示する選択肢が、住民が「日頃考えていること」「伝えたいこと」「語りたこと」に沿っているかどうかが重要になる。そこで、グループインタビューを先行して行い、そこで語られたことをもとに、アンケートの質問における選択肢を設定した。

(2) 実施時期と対象者について

大谷北部地区～昼の部と夜の部の2回を設定して、自治会長の方々のご都合の良い方に参加していただく形とした。

第1回：11月21日 10時～11時半

北部地区自治会長 男性2名・60代70代

第2回：11月21日 18時～19時半

北部地区自治会長 男性5名・60代70代

大谷中部地区～自治会長の皆様の集まりと、大谷公民館を拠点に活動している子育て世代のお母さんたちのインタビューを設定した。

第1回：11月14日 18時～19時半

中部地区自治会長 男性4名・60代70代

第2回：12月19日 13時半～15時

子育て世代・女性4名 40代

また、踏査（現地調査）の一貫として、2月25日に、中久喜地区を歩きながらご説明いただいた。案内していただいたのは、中久喜城跡を中心にまちあるきのモデルコースをつくる試みや、環境整備を行っているメンバーのおひとり。

(3) 全ての聞き取りにおいて、共通の質問内容

①自己紹介として～大谷北部・中部地区とのご縁、仕事や地域での活動など、仕事や余暇時間での、ご自身とご家族それぞれの生活圏について

②地区の昔と今。変わったこと変わらないこと

③地区で暮らすなかで感じる、解消したい困り事

④地区の有形無形のもので、大切に守り、未来につなぎたいもの

⑤都市部と田園部は、これからどんな関係を築いていくと良いか等、これからの小山市のまちづくりへの意見

以上に加えて、それぞれのグループの特性に即した質問(子どもたちの帰宅後や休日の過ごし方、農業の今と昔、など)を加えて聞き取りを行った。

(3) 回答数/回答率について

●回答数:596件(郵送:561 ネット回答:35)
うち集計締め切り後に届いた3通は無効とし593件の回答で集計を行った。

●郵送での回収率 22.5%

対象2,500について、宛先不明で返送されたもの5通を除外した2,495を母数とした。

合計593名の回答の集計結果を、「小山市大谷北部・中部地区アンケート調査 集計結果報告書(2023年3月22日改訂版)にまとめ、別添資料とした。

2 結果整理の手法について

1-4 アンケート調査について

(1) アンケート調査(紙の調査票)

無作為抽出による2,500世帯へ、依頼状および返信用封筒(受取人払い)とともに調査票を送付した。12月26日に発送し、年明けの1月31日締め切りとした。

(2) アンケート調査(インターネット回答)

紙の調査票でのアンケートと並行して、グループフォームを利用したインターネットでの調査も行った。

告知については、大谷北部・中部地区在住者のみの回答とするために、ウェブやSNSなどで不特定多数に向けた案内はせず、自治会の回覧及び、調査票とともに封入する依頼書にQRコードとともに「2人目以降からの回答について各世帯におきまして、紙のアンケートにご回答された方以外にもご協力いただける方は、右のQRコードよりスマートフォンやパソコンからもご回答いただけます」と記載した。

グループインタビューにおいては、下記の3種の記録を作成し、③を本報告書に掲載している。

①書き起こしデータの作成

②個人情報を残した形で、座談会の時系列に発言内容をまとめたもの

③個人情報を抜き、発言内容を、時系列ではなく、いくつかのテーマやトピックごとに編集した記録。発言内容に関連した史実や、少し曖昧な記憶に基づく参加者の話を裏付ける記録などを、脚註の形で、各種文献から転載し補足する。

アンケート調査については、単純集計と、主要な質問において属性との相関をみるクロス集計を行った。概要版を次章の調査結果に掲載し、全データは、別添資料(アンケート集計結果報告書)に掲載する。

グループインタビューと、アンケートの結果については、個々の検証に加えて、得られた情報の関連性などを読み解き、「4 調査結果の整理」に記載する。

3 各調査の結果報告

3-1 グループインタビューの記録

この章ではグループインタビューと個別インタビューで行った聞き取りの成果を掲載する。初めに、語られたことを概観するために各回記録の見出し一覧を掲載し、次に各調査で語られた内容を掲載する。

——大谷北部地区

1 | 大谷北部：自治会リーダーの方々 (1)

- 1：大谷北部地区との関わりと現在の概況
- 2：泉崎稻荷神社の祭り
- 3：丸山の弁財天神社
- 4：地域の親睦、地域の企業との連携
- 5：子どもたちとの関わり
- 6：この20年、30年の地区の変化
- 7：地域の困りごと～道路の状況
- 8：公園の役割について
- 9：地区の困りごと～自治会の存続について
- 10：田園環境と都市環境の調和について

2 | 大谷北部：自治会リーダーの方々 (2)

- 1：大谷北部地区との関わりと現在の概況
- 2：地名の由来について
- 3：この20年、30年の地区の変化
- 4：農業の変化～昔のカンピョウづくりと今の農業
- 5：集落間の繋がりや自治会の分け方など
- 6：地域コミュニティの親睦行事
- 7：田園環境と都市環境の調和について～農業の現状、土地改良区、区画整理

——大谷中部地区

1 | 大谷中部：自治会リーダーの方々

- 1：大谷中部地区との関わりと現在の概況
- 2：農業の変化～稲作と畑作、開墾、昔のカンピョウづくりと今の農業
- 3：地区の神社と歴史
- 4：横倉の遺跡
- 5：大切に守っていききたいもの～祭りやお囃子、公民館祭り
- 6：解消したい困りごと～平地林の消失
- 7：田園環境都市ビジョンについて～宅地開発

2 | 大谷中部：子育て世代の方々

- 1：大谷中部地区との関わり
- 2：子どもたちの過ごし方
- 3：桜小町 MAO について
- 4：地域学習サークル 20's
- 5：地域のコミュニティ
- 6：大谷中部地区の住みやすさ、住みにくさ
- 7：田園環境と都市環境の調和について～宅地開発
- 8：子どもたちの将来と親世代の将来

3-1-1 大谷北部地区

1 | 大谷北部：自治会リーダーの方々（1）

参加者：丸山自治会・泉崎自治会より男性2名

実施：2022年11月21日 10時～11時半

場所：大谷公民館

1：大谷北部地区との関わりと現在の概況

◎仕事の都合上、こちらへ住むことになって50年近く。転勤もあったが、自宅はずっとこの地区で定年までやってこられた。丸山という自治会だが、なぜ丸山と呼ぶのかは私もよく分かっていない。なぜ丸山と呼ばれているのか。隣に竹親会、南側に犬塚自治会、北側には出井地区、西側に星ノ宮に挟まれたところ。北は農業をやっている地区、UACJ並びに富士通に挟まれた南側は近年、道路沿いに住宅ができていく。北側のイオンと昔の遊園地の間が小山市の外周道路になっているが、その北側が農業地区で調整区域になっているのではないかと思う。自治会の加入者が約240戸。未加入の方も当然いて、アパート関係が複数棟あり、自治会として把握していないのが現状。

◎アパートは、単身世帯だけではなく家族で住んでいるところも多い。農家の人々が土地を提供して、ダイワハウスなりセキスイハウスがアパートを建てると、維持運用をその住宅会社に委託してやっているような、そういうところが複数棟ある。犬塚地区とか星ノ宮地区に比べれば少ないが。

◎泉崎という地名の由来について、泉崎の泉というのは、湧水でできた沼^{註1}が由来だという話を聞いたことがある。弁天池というところがあって、そこから湧く泉があり、周りは当然ながら大昔は田んぼと畑だったので、沼の水は大切

にされていた。その石碑的なものが、今の中央図書館の南側の敷地内にある。

◎石碑のようなものは、たまたますぐそばに住んでいることもあって分かるが、地域の方でも知らない方もいらっしゃるのではないか。文化的なものについてはPRしていく方が良く、自治会としてもしていきたい。いずれにしても、泉崎は小山地区、市内近くにあるので、昔のものがだんだん少なくなってしまったというのが現状かと思う。

--

註1：沼「白水崎弁天沼」

『大谷郷土誌』（大谷地区わがまちげんき発掘事業推進協議会平成25年（2013））の泉崎集落の沿革（P7）より転載～「言い伝えでは、当地と土塔の間にあった白水崎弁天沼の辺りに、コンコンと湧き出る泉（出水）があって、水田の灌漑用水、旅人の飲み水となった。泉の存在価値は大きく、その湧水地は土塔の方面から見て、泉の西方の地を指して、泉の先と呼び、そこから泉崎になったと考えられる。初見は、慶長8年（1603）下妻城主家臣の文書」

2：泉崎稲荷神社の祭り

◎泉崎の稲荷神社の祭りは、コロナ禍でも、できる範囲はなんとかやっていこうということで、11月23日の行事等についてもできる範囲で継続して進めてきた。こういったものは、継続で進めていければ、特にお子さんたちも含めて、お囃子とかそういった行事などでも積極的に参加していただくことによって、地域の皆さんとの交流、文化の継承を一つでも長く進められていくと思う。泉崎の稲荷神社の周辺は、以前はほとんどが田畑だったが、今は農業に携わる方も少なくなり住宅地になっている。そういった住宅地の方の転勤あるいはそこに移住された方にPRしていくためにも、夏祭り等でご参加いただきながら、地域の活性化も含めて、絆もどんどん深まっていくのではないのかなということで、自治会としてもやらせてもらっている。

◎夏祭りは毎年7月の最後の日曜日。神輿で町

内を練り歩くのはコロナで2年間休み、今年（2022年）に復活して町内を練り歩いた。ただ、声を出して「わっしょいわっしょい」といくのはまだ難しいので、トラックに神輿を積んで練り歩いた。子ども神輿と大人用がある。

◎お囃子会もあり、具体的な年数は分からないが長く続いている。7：3くらいで子供が多く参加している。今年（2022年）は、あちらこちらのお囃子が集まって、私の地区の城東公園の敷地内で披露会^{註2}があって、泉崎も参加した。今年初めての試み。

註2：小山商工会議所主催「おやまお囃子ステージ城東2022」2022年11月6日 城東公園内ステージ城東 出演：泉崎お囃子会、土塔一お囃子会、中久喜お囃子会、横倉新田お囃子会、上出井お囃子会、小山YEG太鼓隊

3：丸山の弁財天神社

◎自治会にしっかり関わるようになって日が浅いので詳しくは分からないが、丸山でも以前は地域の祭りもやっていたようだ。近くに、小山百景にも入っている丸山弁財天神社がある。池があって、池の周りはどういう経緯かわからないがコンクリートで固めて。池の中島のようなところに渡る橋があり、鳥居を新設して、橋を渡って真ん中に弁財天が置いてある。

◎自治会と神社との関わり合いは私もよく分かっていないが、大昔の流れからきている氏子の人たちの集まりで形成されているようだ。自治会との関わりも時代によって変遷があるようで、今は特になく、氏子さんが中心になって祭事を行っている。一般の人もお参りに来ているようで、地区の有志の方が毎月第1日曜日に清掃や草取りなどもずっと継続してやっていらっしゃるようだ。

◎太鼓なども自治会の公民館の中に置いてあり、泉崎さんがおっしゃったような子どもの神

輿が出るような祭りなども以前はやっていたようだ。大きな太鼓なども置いてある。私が知っている限りだと、今はやっていない。

4：地域の親睦、地域の企業との連携

◎丸山自治会としては、コロナの前の状況は維持できなくて、祭りもないが、かろうじて外でやるグラウンドゴルフを大人と子どもと一緒に楽しむという機会を設けている。子どもは育成会を中心に行っている。

◎それから、近くの企業、PSCさんと一緒に芋掘り大会をやらせてもらっている。企業が地元の農家から土地を借りてさつまいもの苗を植えて育てている。芋掘りは自治会さんも一緒にどうですか？と声が掛かって、丸山自治会とニュータウンの自治会が2日に分けて、芋掘り大会をさせてもらっている。令和元年（2019年）から始まって、今年（2022年）もコロナ禍ではあるが外での行事だからいだろうと実施して100名くらいの参加があった。ほとんど子どもで、みんな楽しんでた。

◎企業との関わりは、ここに住んでいて初めて。近くにいくつか企業がありますが、PSCさんは職種（産業廃棄物の収集運搬、中間処理）からも地域住民とのつながりを大切にされているからではないかと勝手に思っている。企業と地域のつながりは、例えば、一部施設を開放して体育館を使わせるとか、企業の何周年とかのお祭りなどに地域住民を招待するなど、そういう話も他ではあるかもしれない。

5：子どもたちとの関わり

◎年末には、育成会が企画してウォークラリーなどを絡めたクリスマス会を12月にやる予定。ウォークラリーは、子どもたちが丸山地区を知るといった目的で、今年から始めようとしている

ようだ。主要の道路は危ないので父兄が監視に入ったりするなど考えながら、今、企画しているようだ。12月の5日か、日曜日にやろうという企画を今、画策しているようです。

◎丸山は、子どもの数が減っている。

◎泉崎も、以前に比べたらとても減ってきている。大谷は細長いので、自治会によって違いがあると思うが。

◎たまに朝の学校登校時に、横断歩道での旗を降る当番をしているが、今の子どもたちは、おはようそこっちが言っても、あまり挨拶が返ってこない。学校側が言っているんですかね、知らないおじさんと話してはダメとか。何グループも私の前を通過するが、挨拶する人は半分も満たない。

◎行事などで時々、子どもたちと会うときに「こんにちは」なんて言われると気持ちいいし元気をもらえるが、確かに、自発的な挨拶というのは、少なくなってきているようだ。

6：この20年、30年の地区の変化

◎大谷の変化は、やはり区画整理^{註3}が区切りだったのではないのか。昭和50年頃だろうか。区画整理で道路もきれいになる。そして土地をお持ちの方も整理されたいという希望もあって、それから大きく住宅地が変わっていった。泉崎地区は、JR小山駅にも近いことが大きな利点で、東京へ通勤する人にも都合が良くマイホームを持つ場所として、人口が増えていった。

--

註3：大谷地区にかかるエリアの土地区画整理施工年度：小山市の土地区画整理事業（小山市ホームページ <https://www.city.oyama.tochigi.jp/soshiki/50/2798.html> より）城東（昭和45年～昭和56年）、犬塚（昭和48年～平成12年）、小山東部第一（昭和63～令和6年）、小山東部第二（昭和63年～平成30年）

◎だから最も変わったのは、農業が成立しなく

なったこと。知り合いの話を聞いても、農業自体を丸山地区でやるのはもう不可能だという声が多い。従業員などもいて専業でやっている方はひとり。他に何名か兼業で。

◎丸山地区の北側、要するに日本たばこの南側が農業の地区。皆さん、作業をやっているなどと思ってみると、友達から農地を借りて自家消費分を耕作している、半分趣味のような方も。田んぼについては、みんな貸して、タダ同然で。草が生えるよりもいいからということで人に貸している。または兼業で田んぼをやっている方ぐらい。

◎泉崎でも、自分が子どもの頃からするとだいぶ変わった。昔は、見渡す限り田んぼ、畑だったのかなど。ぽつんぽつんと雑木林がある。そういう風景。子どもも、そんな中で遊んでいた。遊びは、子どもたちが自分なりに考えながら、道具やゲームがなくても田んぼや畑で遊ぶのも遊びですという。あるいは神社の境内で鬼ごっことか、あるいは場合によってはソフトボール的なもので遊んだりしていた。今はもちろん雑木林もないし、一般の住宅、マンション、アパートに変わった。田んぼはおそらくゼロではないか。畑もやはりゼロに近いのかもしれない。家庭菜園程度にやっている人はいるが。

◎丸山に住み始めたのが1974年で50年前。周りにもまだ家があまりなくて、家が面する通りではうちが2棟目。周りは林がたくさんあったが、あれよあれよという間に住宅が、特にUACJの北一帯に住宅が増えた。

◎当時は、小山駅東の住宅も棟数が少なく閑散としていた。今の時期だとススキがあった。富士通の前、今の第一貨物あたりなどは、まさにススキの野原だった。

7：地域の困りごと～道路の状況

◎泉崎では、うちは学校も近いし、駅も近いの

で、やはり便利だと思う。

◎丸山もイオンモールと Harvest に挟まれて、割と便利な場所だと思う。泉崎と同じようにニュータウンも含めて、丸山の地区も通勤で小山駅に行く人が随分多い。以前は、新幹線通勤も利用したが、座席にポツポツとしか利用者もいなかった。今は、新幹線通勤が随分と増えている。都心まで 40 分少しで行ってしまうから。

◎小山駅までは、車で移動する人もいるが、自転車と原チャリが多い。駅東の駐輪場がすごい状態になっている。

◎地域の防犯パトロールの隊員をしていて、交通の状況に関して個人的に思うところが何か所かある。

◎例えば、車で来た方が例えば小山駅東口をぐるっと U ターンすると、ちょうど白鷗大学とヤマダ電機の間で東へ向かっていく道に行く。信号があるが、あれから東に行く道が一気に狭くなる。その合間に電柱が立っているので、車にも狭くて不便で、歩いている方、自転車の方にとっても危ない。昔からあの道は幅が変わらない。おそらくあそこの関係者から要望も出ていると思うが、道路を広げるといことになれば、土地を削ったり、いろいろな問題が発生して難しいのかもしれないが。

◎丸山に住んでいると、子どもたちが通う学校のエリアでの悩みもあるようだ。小学校から中学校に進学する場合に、小山中と第三中に分かれる。子どもたちは、どちらを選択すると良いのか、選択すべきなのかなどの話が出ている。

◎イオンモールと北側の市街化調整区域にお住まいの人たちは、道路状況の悪さに困っていると思う。道路が狭い。また、北側に行く道路が 3 本ほどメインとしてあるが、それが全て一方通行。ゴミを捨てるにも、ぐるっと一周していかないといけないという話も聞く。工場や介護施設もあり、交通量もある。車、自転車、バイクが行き交い、車が通る時は、幅が狭いので、

歩行者は、車が通過するのを止まって待っていないといけない。住んでいる人は不便を感じているのではないかと思う。

8：公園の役割について

◎困りごとというわけではないが、泉崎には公園が 3 箇所あり、公園の樹木のことは考えないといけないと思う。秋、冬になると、大きな木の落葉樹が、物凄いや量の葉っぱを落とす。美観を損ねていることと、雨が降ると、葉っぱもびちゃびちゃになって歩行に大変支障をきたす。木があることで夏は涼しくて良いし、緑がないと困るということはよく分かるが、あまりにどんどん大きくなるような木は、これから将来的にはどうするのか。何年か後には枝を切らなければならぬ。そうすると余分な費用もかかる。落ち葉の掃除にも余分な手間と余分な費用がかかるのではないか。たまに、一年を通して緑の常緑樹が植えられているところを見るが、ああいう木のほうがいいのではないか。

◎木が一番多いのは城東公園。泉崎では、公園の管理にご協力いただく人の集まりがあり、定期的に掃除をしていただいているので、落ち葉の状況は大きく違う。年に 2 回、小山市からも全市一斉清掃の号令を頂きながら、自治会も年 2 回は協力させてもらっているが、ただ、その一斉清掃の前にも秋になると葉っぱがすごく落ちる。公園は子どもたちも遊ぶので、枯れ枝が落ちたりすることも心配。

◎公園は地域にとって大切な場所で、年齢問わずに利用されている。また、災害の時の避難所だったり、防災的な面でも大切な場所。樹木については、最初に植えるときに、後々のことも考えたい。栃木県の木、とちの木も立派な木だが、非常に大きくなり、大きくなりすぎたらクレーン車で伐採するところを見ている。

◎丸山地区には公園はない。あるといいと思う

し、そういう声もある。落葉樹を植えれば葉っぱが落ちるし、ケヤキを植えればケヤキは大きくなる。それは当たり前で、だからその地域の住民の理解がどこまでコンセンサスを得ているかということだと思う。われわれから見ると城東の公園などは最高だと思う。その樹木の中で人間が癒されるのは、数字で表せないのではないかと思う。城東などは地区の方が清掃などをされているのをよく見る。だから、地域に密着して協力して維持して良いと思う。

◎公園以外に、残っている自然は、地区によってかなり違う。泉崎は、あってせいぜい城東公園に雑木林的な自然が残っているくらい。

◎泉崎の地名の由来もはじめに話したように、石碑として城東公園に残っただけで、その面影はない。川自体がもう上からコンクリートでずっとふさがっているから実際に目で見ることはできないし、他の湧水池や川の流れも同じような状況だと思う。

小山運動公園について

◎一方では、大谷地区ではないが、近いので向野の運動場（小山運動公園）に行くこともあるが、フェンスで囲まれたトラックも非常に立派なものがあり、プロが走るのか、プロを養成する公園なのかと驚く。野球場、テニスとかあるが、毎日が日曜日の我々が平日に行っても、誰も使っていないことが多い。土日などに、大会があると稼働しているが、それだけのために、これだけの施設を作って維持していくのは、どうなのだろうかと疑問に思う。遊具も多少はあるので、子ども連れの家族も来ている。隣は芝生があって池があるが、入っては駄目、釣りはやっては駄目と小山市の立て看板がある。私が小さいころは、自己責任だった。やっちゃ駄目と小山市が言っている立て看板だけが目に付く。一番、市民の稼働率が高いのは、歩道ではないか。

◎確かに、外周を皆さん歩いている。今の季節は特にいいというのもあるが、健康のために歩く人が多い。だから、あの公園を作った時の視点が違うのではないか。誰にアピールするための公園なのか、何のための公園なのか、という感じ。

◎運動公園内に樹木もあり、木陰もできる。バードゴルフができるスペースもある。住民に開放されていると言えば、されているが、やはり少し違うのではないか。

◎一方では県南の体育館の周りでは、子どもたちが遊べてバーベキューができる公園ができていて（小山総合公園）、あぁいったやり方もいいのではないかと思う。

◎そのとき、その時で、場当たりの、いろいろとつくってしまったのではないか、勝手にそう思っている。例えば、小山駅東に白鷗大学ができています。あそこは商業地域であって、もっと静かなところで勉強させるのが良かったのではないか。小手先で済ませるのではなくて、もう10年、20年と考えていく・・・。全てを満足させることは難しいと思うが。だからやはり公園というのは重要なファクターだと思う。何かと住民が集う場所だったり、癒される場所だったり、防災の拠点になることも含めて。

9：地区の困りごと～自治会の存続について

◎新聞でも時々取り上げられますが、どこの町でも自治会の会員数が減少傾向にある。そこに住めば自治会に加入するのが一般的なのかと思っていたが、これは任意なので嫌だよと言われて、無理に勧めることはできない。都市部で住宅が増えてくる地域では特に、未加入の方が多くなってきている現状がある。そうすると、未加入世帯のお子さんたちも地域のつながりからだんだん離れていってしまう傾向になるので、その点が寂しいことだと思う。泉崎では、

お囃子とかお祭りとか、自治会で進めさせてもらっていて、今年やはり3年ぶりにやったということで、非常に人気があった。そこで地域の子どもたちの声を聞いたり、子どもたちの笑顔などを見ると本当にうれしく思う。

◎やはり、昨今は、自治会活動をするに当たって、自治会の意義、存続意義がなかなか理解されなくなっているのをひしひしと感じる。要するに、若い人は自治会に入って何がメリットなの？という疑問が先行してしまっているように思う。必ずそこへ出てくるのはゴミ問題。ゴミの集積場所に対して自治会がある程度関与している、または許認可権があるということから、自治会に入るメリットはゴミ出しだけだとか、入らないと捨ててはいけないのかという方もいる。自治会そのものがどんどん高齢化社会になっているので、自治会そのものの役割も変わってきているし、昔のように名誉職ではなくなっている。今はなり手がいないというのが現実。そういう中で自治会活動そのものの意義を共有できていけるのか、これが将来にわたっては不安がある。何一つとって子どもの問題にしても、自治会の存続の意味あいを明確にしたいと思っているが、なかなか行き渡らないのが現状。

10：田園環境と都市環境の調和について

◎難しい問題だ。今、田園や農業というところで生活されている方と、非農業の方とのバランスがどうなのかというと、丸山地区の場合は先ほども言ったように、農業で暮らしている人はいない。かろうじて兼業で田んぼをやっている方がいる。そういう地区ですから、地区だけ見てもバランスや調和が取れているかということ、ちょっと違うのではないかなとは思っている。

◎通勤している人たちが多く実情では、丸山地区も小山駅というのに依存している印象は無視

できない。その中で、小山駅を中心に考えたときに、円を描いてみた場合には、当然ながら泉崎とか丸山は入るはずだが、調整区域で歯止めもあったりする。小山西側も、思川を境に考えたときに、西と東のバランスをどう考えていくかという課題もある。そこを組織として、小山市としてどう考えていき、どういう体制が取れるかというのは非常に大切ではないか。先ほど公園問題を例として「地域住民にとって公園とはなんぞや」という話ではないかと話したが、それと同じことがあちこちにあるのではないかと思う。

◎調和やバランスというときに、全体的な視点から見て、田園はそのまま残していきましよう、都市環境を進めていきましよう、そういった調和の取れたものを将来的に作っていきましようということを大きな狙いとしていくのかどうなのか。

◎近隣の自治体などでモデル地区のようなのはあるか、あるいは何とか県の何とか市はこういうふうなことを今取り組んでいる最中ですよというような参考になる事例もあるのか、その辺りの情報も必要になると思う。

2 | 大谷北部：自治会リーダーの方々 (2)

参加者：中久喜・東ニュータウン・泉ヶ丘・犬塚・土塔一より男性5名

実施：2022年11月21日 18時～19時半

場所：大谷公民館

1：大谷北部地区との関わりと現在の概況

◎中久喜：大学時代の4年間は外に出ていたがそれ以外はずっと中久喜に住んでいる。中学は北部から大谷中学校に通っていた。大学を卒業した後に戻って栃木市に通勤していた。会社を

退職する少し前から自治会の役を引き受けて活動している。

◎東ニュータウン自治会：30年前に小山市の大谷北部地区に引っ越してきたが、65歳になるまで約20年、東京の会社へ通勤していたので、ほとんど地域のことがわかっていなかった。6年前に自治会の役についたが、住んでいるところも30年前にできた、新しい東ニュータウン自治会で、ほとんど歴史がない地区になる。

◎東京への通勤については、当初はバスのルートがあったので、それを使ったり自転車や車を使ったり、家族の送り迎えだったり通った。小山駅からは新幹線通勤だった。

◎泉ヶ丘：同じ中久喜と言っているが、小山高専の北側が泉ヶ丘。川崎市の富士通で働いていたが小山市への転勤を希望してこちらに来た。理由は、水戸で暮らしている母親が一人暮らしだったので、自宅から通えるところを考えたため。それがもう50年近く前になる。最初は水戸から小山へ電車で通ったが、2時間かかるためなかなか難しく、水戸にも家があるが、こちらの泉ヶ丘にも家を建てて住むようになった。

◎住み始めてから30年、40年は、自治会はほとんど関係なく過ごしていたが、泉ヶ丘自治会もどんどん人が増えてきて、新しく入った人たちのほうが多くなった。昔から住んでいる人たちは自治会の会長をやらないということで、いわゆる新しく入った人たちが引っ張るような形になってきている。

◎住宅団地としての形成はイオン^{註4}ができてから。イオンのところは便利。それから最近またどんどん増えているのですが、50号線の南側がいっぱいになってきてしまって、最近、2、3年前だと思うが、もっと前、5年くらい前からか、北側にも家が建てられるようになってきている。うちが家を建てた時は、いわゆる既存宅地というところしか買えなかったが、今は変わっている。そういう点で人がどんどん増えてい

る。40軒、50軒ぐらいの造成地もできている。

註4：イオンモール小山 平成9年（1997）開業

イオンリート投資法人ウェブサイト (<https://www.aeon-jreit.co.jp/ja/portfolio/detail.0027.html>) より転載～「総合スーパー「イオン小山店」を核に約80の専門店を擁するRSC（広域商圏型ショッピングセンター）として特徴づけられます。1997年4月に開業した後、2008年10月に専門店区画を増床しており、安定的かつ長期的な運営実績を持つ物件です。商圏特性：東北新幹線、東北本線、両毛線及び水戸線が乗り入れるJR小山駅の北東約3kmに所在し、県道33号線及び県道339号に面した、アクセスに優れる物件です。栃木県南部に所在する小山市は、宇都宮市に次ぐ県内第2位の約16万人の人口を有しています。本物件の周辺には大型の工場があるほか、東側には小山東部工業団地もあり、工場勤務者世帯も多い地域です。商圏距離別人口は、3km圏で約4.7万人、5km圏で約13.2万人を確保しています。

◎犬塚：40年前に会社の転勤で、横浜から小山に来た。5年前に栃木県のシルバー大学に入学したが、その時に卒業した先輩が犬塚自治会の会長であったことから「自治会の役に」と声がかかり、自治会の役員として活動するようになった。

◎土塔一：私は先祖代々ずっと土塔に住んでいる。土塔一は、昭和電工と富士通、西は富士通、北は古河という会社のちょうど間にある。昔は、うちの自治会の真ん中を昔の50号線が通っていた。今の新しい50号ができる前には、こちらの道が50号線。みんな50号線とは呼ばないで「結城街道」や「往還」と呼んでいた。今は県道になっている。

2：地名の由来について

◎泉崎も、泉というのだから全部が沼だった。真ん中に弁天様という社があったが、それを移動してから埋め立てて富士通とかの敷地を造成した。その弁天様のところの脇に川が流れていて、馬洗場があった。川に入っていけるようになだらかな斜面で、馬を洗ったり、カンピョ

ウ（ユウガオ）を洗ったり、そういうことをやれる場所だった。ずっと川が流れていた。川は今は道路の下。

◎うちは馬ではなく、牛だった。牛に荷物を引かせたり、田んぼを掻いたり。

◎城東小学校の東側は、本来はずっと川。水も泳げるぐらいきれいで、昔は。田んぼの田植えの時に堰をとめると、ある程度の深さになるので泳ぐことができた。田植えは、今は早いけど、昔は6月頃だったから暖かくて泳ぐことができた。

◎昔は、いろいろなところに湧き水があったのではないか。

◎湧き水は、犬塚の金山神社（犬塚公園の東側）のところも今も湧いている。

◎犬塚の地名は、昔から、塚みたいな地形^{註5}がポコポコあったことに由来するらしい。畑作業に邪魔になっていたが、以前、陸橋を造るためのスロープを造るのに、その土を削って使えばちょうどいいとトロッコで押していったそう

だ。

註5：犬塚と言う地名の由来

『大谷郷土誌』（大谷地区わがまちげんき発掘事業推進協議会平成25年（2013））の犬塚集落の沿革（P9）より転載～「大きな塚（古墳）が先に開けた土地（小田林方面）から戌（いぬ）の方に見えたので、犬塚と称したと推定される」
また、犬塚自治会はホームページを開設しており、その中の「地名の由来」には、上記も含めて3つの説が紹介されている。<http://www.tvoyama.ne.jp/oy0273310/MATI/mati-04.htm>

3：この20年、30年の地区の変化

◎60年くらい前、大谷北部の中久喜から当時は大谷中学校へ、片道5キロの道を自転車で通っていた。当時はコマツがまだできていなくて、広大な荒野。砂利が敷いてない泥の道が2キロくらい直線であって、その荒野の中を自転車をこいで。冬の朝は霜柱が5段くらいあって、帰りはその霜柱が解けてぐじゃぐじゃになってい

た。その2キロの悪路を朝も帰りも苦労しながら通った記憶がある。

◎知らない人も忘れてる人も多いと思うが、今は、コマツ製作所の東側に東京鉄鋼があるが、第1次オイルショック^{註6}後に、東京鉄鋼からの周辺については油が出るのではないかと、ということで掘削が始まった。油は若干しか出なくて天然ガスが採れた。今は天然ガスは関東地方だと千葉県の茂原が有名だが、昔は何年間かコマツの東側にやぐらを立てて天然ガスを採掘していたという時代もあった。埋蔵量が少なくすぐに終わったが、第2次オイルショックの頃に、その天然ガスを採った後に石油を備蓄しようかという話も出たが、それは立ち消えになり工業団地化が進んだようだ。

註6：第1次オイルショック 昭和48年（1973）、第2次オイルショック 昭和53年（1978）
経済産業省 資源エネルギー庁ウェブサイト

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyoo/history4shouwa2.html>より転載～「第1次オイルショックのきっかけは、昭和48年10月に勃発した第4次中東戦争でした。OPECが原油の供給制限と輸出価格の大幅な引き上げを行うと、国際原油価格は3カ月で約4倍に高騰したのです。これにより、石油消費国である先進国を中心に世界経済は大きく混乱。石炭から石油へと舵を切り、エネルギーの8割近くを輸入原油に頼っていた日本も例外ではありませんでした」

◎50年前に転勤で小山の富士通に来たときには、小山駅から会社まで田んぼ道を歩いていった。たぶん15分か20分ぐらいでついたと思うが。西側は、けっこう店などもあり、町があったが、駅の東側は、少し行くともう一面が田んぼだった。そのころ100万円ぐらい出すと相当の広さの土地が買えた。その後、5年とか10年ごとにどんどん景色が変わった。泉崎あたりに天神さんとか神社みたいなものがあって、その辺を通ってから富士通へ行ったが、そのあたりにいくつかあった神社も次第になくなってしまった。

◎土塔の辺りは、場所によって田んぼだったり

畑だったり。城東公園の周りは全部田んぼ。郵便局から城東小にかけて田んぼ。それも膝ぐらいまでもぐる田んぼ。坪 1000 円だと言っても嫌だと言って誰も買わなかった。今を考えたら、買っておいたほうがよかったということになるが。

◎50 年前の 100 万と今の 100 万は全然違う。あこのころの 100 万は、本当に家一軒が簡単に建てられた金額だ。

◎田んぼ、荒れ地、畑。水戸線の周りはずっと向こうまで見渡せた。

◎犬塚のあたりなど、土地が少し高いところもあり、そこは家があり、低いところは全部田んぼ。

◎工場ができているところも沼地みたいなところを買って、それで土埋めて造成したと聞いている。1 メーターぐらい掘るともう水が出てくる。

◎大谷地区では、60 年前にきた富士通が建ててから、どんどん変わっていった。

◎小山地区に最初に工場ができたのが古河アルミで、戦時中は軍事産業で、日光から移転をしてくて今の地に。西山のほうに社宅ができて、その後の跡地を利用したのが東ニュータウン。

◎富士通は下館にあったが、移転する際に、古河が親だから（古河グループ）古河に聞いて「うちの近くがいいのではないか」と言われて小山に来たと聞いている。

4：農業の変化～昔のコンピョウづくりと今の農業

昔のコンピョウづくり

◎昔、大谷地区の農家は、かなり盛んにコンピョウ（ユウガオ）^{註7}を作っていた。コンピョウ問屋もあった。日本一の問屋だったと聞いている。

◎農家と問屋の間に仲買人というのがいて、実

際に農家に来て買い付けて、それから問屋に持っていく。だからそこでマージンを取る。

◎今から 10 年前ぐらいまでは、つくる農家があった。今は皆無、全くいない。

◎つくる人がなくなった理由は、やはり作業の手間が多くて大変で、農家も高齢化したことだと思う。朝早く起きて、コンピョウむきやって干して、それから今度は硫黄で蒸して漂白して。それから整えて出荷。手間がものすごくかかる。

◎コンピョウは、小屋で火を焚いて、二酸化硫黄で燻すと白くなる。それをまた干すために外に運び出す。なかなか大変。

◎朝は早いし。夜中から動いていて、昼間は昼まで、干したコンピョウは、表面が粘り気があったくっついてしまうから、それを 1 つ 1 つ剥がしていく作業がある。くっついたままだと商品にならない。

◎夕方は夕方で雷が鳴ってくると大変だ、取り込まないといけないとなる。だから、子どもの頃は、家がコンピョウを作っているのが大嫌いだった。夏の間、ずっとどこへも行けないから。

◎コンピョウ以外には、麦とかを作っていた。米だって今は天日干しをやらないで、みんな乾燥機だから楽になったけど、昔はみんな庭で何でも干してた。だから農家の庭は広いむしろを敷いて、全部そこへ広げたりして、干して乾燥させた。

◎敷地の地面には下藁と言って、どこの家でも藁を一面に敷いていた。霜が降った時に、地面がべちゃべちゃになってしまうので。今思えば、庭一面に藁があって、よく火事にならなかった。

◎コンピョウの他には葉タバコもやっていた。コンピョウの半分ぐらいしかやっていなかったと思うが。

◎乾燥小屋がある家は、だいたいタバコを作っ

ていた時期もある。

◎タバコも火を焚いて乾燥させる時には、夜に寝られないので大変だった。

◎父親が酒飲みながら寝ずにやっていた。

註7：カンピョウ

『小山市史 民俗編』（1978（昭和53）年発行）より、カンピョウに関する記載（P110～）を一部、引用して記載する。

1712年に壬生城主によって始められたと言われる栃木県でカンピョウ（ユウガオの果肉を細長く切って乾燥させたもの）栽培の主産地は「当市をはじめ、国分寺町、石橋町、南河内町、上三川町、壬生町などである。そしてその分布は洪積層火山灰土壌地域とほぼ一致している。これは、この作物が排水の良い土壌を好むことと、肥料として落ち葉を必要とすることから、落葉を用意に得られる平地林の多い洪積土壌地域に栽培されているのである。当市における栽培地は、旧桑村や旧大谷村を中心とした洪積台地上である」「カンピョウは「夏の米」ともいわれ、カンピョウ農家にとっては最大の現金収入源になる」

今の農業

◎今、土塔一では、米を生産して出しているのは、我が家だけだと思う。他に作っている人はいるが、自分の家で食べる分だけ。

◎中久喜では、おそらく今はやっている人は5軒ぐらい。あと5年ぐらいにはゼロになるのではないか。後継者がいない。愚痴を言いながら、日々頑張っている。

◎東ニュータウンは、住宅地区として開発された地区で、お住まいになっているのは地元の人がほんの少力で、ほとんどが横浜だ、東京だ、群馬だということから来た人が集まってできた自治会。歴史ある神社仏閣もないし、要するに住宅が建っているだけの地区なので、もちろん、田んぼや畑をやっている人はいません。

◎泉ヶ丘も、米は自分の家で食べる分だけ作って、あとは白菜やキャベツを作ったり、他の人が耕作できない畑をやってあげたりしている人が一人。他に4、5軒は自分のうちで食べる分だけ作っている人がいる。自分のうちで食べる分だけ少しつくって、あとは全部トラクターで耕しているだけで何も植えていない。

◎犬塚は、私はあまり詳しくないが、農家さんはいらっしゃるみたいだ。結城との境のところにはけっこう田んぼがある。春には消防署も来て、農業委員の方々が畔の野焼きのようなことをやっているようだ。

5：集落間の繋がりや自治会の分け方など

◎昔は、近隣の農家さんが小作農家として中久喜の田んぼを耕作していた時代もあった。

◎中久喜で生まれた農家の長男が跡を継ぐが、その下の子は継げないから、泉ヶ丘やウワ

（エ）ノハラへ行って耕作していた。

◎それもあるし、ニュータウンや犬塚の方から移っている人も結構いた。いろいろ便利だが、便利さの割には（以前は市街化調整区域で、税金など）安いから。

◎土塔一と土塔二の自治会は、愛宕神社でつながりがある。土塔二にあった神社が、昔、移転か何かで祀るところがなくなって、土塔一の愛宕神社へ合祀^{註8}してくれということで、合祀された。だから、今、この前の秋の例大祭の時もそうだが、昔から、土塔二の自治会長と公民館長にもきてもらって、一緒にやっている。

註8：愛宕神社への合祀

「土塔二公民館報（昭和61年6月30日発行）」掲載の「ふるさと散策 第3話 神部（じんぶ）様のこと」によると、明治の末ごろに土塔二の地区に移り住んだ人たちにより建立された「神部様」という神社の分社が、昭和12年に公民館の新築移転に伴い公民館の東側に移転され、本身は愛宕神社に合祀となった。

◎土塔は、自治会として規模が大きいから一と二と半分に分けたというわけではないのだろうか。

◎はじめから、独立した自治会のエリアだったのだろうか。

◎そこのところがよく分からない。

◎水戸線から南と北で分かれているわけでもなく、北にも土塔二の自治会のエリアがある。

◎犬塚は飛び地がたくさんある。区画整理が終わったところは何丁目とついて、それ以外にも、まだ字の犬塚と言う場所があちこちにかなり残っている。

◎何故、ここは大谷という名前になったかもはっきりわからない。大谷村になる時に何か由来があったとは思いが。

◎地区の中に大谷と言う町名や地名がついているところは無い。

◎勝手に想像しているのだが、中久喜には東深谷という字と西深谷という字がある。深い谷と書く。中久喜と犬塚が高台になっていて、ちょうどその境のところが谷になって、大川という用水堀が流れている。その先の西仁連川のところも、結城と中久喜との境のところがやはり低くなって谷になっている。結構大きな谷になっているので、そこから大谷という名前が来ているのかもしれない。その谷のようにになっている地形が横倉のほうまで続いている。

6：地域コミュニティの親睦行事

◎土塔一では、自治会のほかに育成会などはあるが、昔は、育成会の親は婦人会、もっと若ければ若妻会などがあつた。年に1回かな、観音講か観音様のときにみんなで集まってお茶飲んだりして、コミュニケーションを図っていた。男性の寄り合いはまだあるものもあるが、女性は、そういう集まりが随分なくなってしまったと思う。

◎老人会でも会長になる人がいなくなって解散になったことがあり、そうなるとうやほり楽しみが減ったと言うことで、誰かが発起して寿楽会というのを作ってやっている。年寄りとか若い人とか、そういう交流の機会が今は本当に少なくなってきた。

◎大谷北部として自治会同士の中でまとまって活動しているのは、消防の第5分団ぐらいではないか。昔は自治会ごとに消防団があつたが、今は北部地区は第5分団ということで合同でやっている。

◎自治会で運動会を開催して、お互いに招待しあつて行き来をしていたが、コロナでできなくなっていた。自治会連合で集まって競い合つたり、その前は、小山市全部が集まって運動会をやっていた時期もある。地区対抗だから盛り上がった。各自治会で選抜して選手を出していた。

◎泉ヶ丘は、昔は100軒ぐらいしかいなかったから、運動会というと毎回同じ人が走らなければならないので負担になって、結局10年前ぐらいに参加を取りやめていた。そしてバスハイクなど代わりの行事をやっていた。ところが最近300軒ぐらいになってくると小学生も多いし親も若いので運動会にも参加できる感じになってきていたところにコロナで中止になっている。

◎土塔一も、城東小学校の校庭を借りて運動会をやっていたが、来賓も呼んだりしてやるような大々的なものはコロナでできなくなって、代わりに、自治会の会館の前の庭がけっこう広いので、そこを利用してお楽しみ会的にやろうと言うことになった。走るコースも5コースくらい取れて、どんぐりの大木があるので、そこを回ってくるようにしたら100メートルのコースになるぞ、と。申し込み制にしていたが、申し込みしてない人も当日に集まってきた。出れば必ずもらえる賞品も用意していたので、集まった人みんなが出たら賞品が足りなくなるので申し訳ないが制限して開催した。

◎犬塚は13区あつて世帯数で2500ぐらい。大谷北小のグラウンドを借りて、毎年、皆さん楽しみに一大行事としてやっている。コロナになってから、小学校の運動会も分散してこじんまりやっているのに自治会が大きくやるわけにいか

ないし、特に学校から子どもたちの感染防止のために、子どもたちも参加する場合は、学校がやっているような体制でやってほしいと希望を言われて、それではなかなか難しいので今年も中止にした。

◎コロナの感染が広がる前は、5月の最後の日曜日に、城東地区の泉崎と土塔一、土塔二の自治会で城東フェスティバルという催しをやっていた。我々、中久喜からはお祝いを持って特別参加の形で応援に行っていた。今年は11月6日に「お囃子ステージ城東」（詳細既出 P39）という名前に変わって、大谷地区だけではなく参加してくれるところを呼んでお囃子の発表会をやっていた。お囃子ならそれほど密にならないということ。

◎昔はステージ城東と言って、泉崎、土塔一と土塔二が主催で始めた催し。24年前に、城東公園にステージができたことがきっかけ。カラオケ大会やお囃子や、それから三中のブラスバンドを呼んだりしていた。主催側の役員が高齢化で開催も厳しくなってきた、去年（2021年）に解散ということにした。それを小山東商工会議所が引き継いでくれた。時期はまた次は5月に戻したいと言っていた。

◎北部地区は伝統的に結構まとまって、いろいろやっています。

◎泉ヶ丘は、11月6日に公民館祭りを開催。コロナで飲み食いはできないから、展示会という形で。子どもたちの展示、絵画など大人の展示。農作物の直売や、魚屋さんに出店してもらったり、地区に朝鮮学校があるので、そこの人たちにキムチを作って持ってきてもらったり。なかなかの大盛況だった。来年は、多分、飲食も大丈夫になるのではないかな。うちはアユの塩焼きもやっている。釣った人たちから100円で仕入れて200円で販売。だいたい100匹は焼いている。

◎大谷北部では、9年前までは敬老事業を9月に合同でやっていた。敬老事業の対象者が増えてきたので、8年前から2班に分かれる形になって。泉崎、土塔一、土塔二グループと、犬塚、竹親会、丸山、中久喜、泉ヶ丘、ニュータウンというグループに分かれて、また増えたのでさらに細かく分けて。会場にするグランドホテルの部屋に入らなくなってしまったので。

◎内容は、各自治会からステージに踊りやお囃子を出してもらって、そういう演芸の発表の場のような感じで楽しんでもらっている。

◎お祭りは、子どもや若い人が集まるようなものをやらないと、今からは駄目だと思う。土塔一では、 frisbee のストライクアウトとか、子どもたちが喜んで楽しんでくれるものを工夫している。公民館の前の広い庭で。あとはキッズダンスとか、よさこいとか、そういうものも考えた方が良さそう。年寄りばかりでは活気がないし、昔からのお祭りも大事だが、新しいものも取り入れていかないと。今は盆踊りなんて言っても誰も踊っている人がいない。

◎犬塚は、老人会や育成会にも声をかけて、春は犬塚公園で桜祭りと称してやっている。舞台を作って第三中学校の人たちとか北小の子どもたちも集めて踊りとか・・・。あとはシルバーの人たちはグラウンドゴルフを一緒にやりませんかとか声かけして。広いからいろいろなことができる。育成会の人たちは焼きそばなどを作ったりしている。夏は、金山神社の境内で提灯をつけて盆踊り両方ともコロナで2年間中止してきたが、来年は復活できるかどうか。

◎犬塚はどんどん人口が増えてきた。アパートが建ったりして若い人も増えている。犬塚のちょうど真ん中にある金山神社は歴史も古くて、例大祭など祭事も多いが、若い人たちがいっぱい入ってきた関係で、誰もよく分かっていない。それで今年から、まず役員から学ぼうと、

役員研修として金山神社の縁起を学ぼうと、今年の12月の役員研修会は詳しい人に講演をお願いしている。犬塚は広報を出しているの、その中にも由来を毎回少しずつ書いて自治会の中にいる人たちも知ってもらおうと、そういう取組みを進めている。

7：田園環境と都市環境の調和について～農業の現状、土地改良区、区画整理

◎農業の現状に関しては、小山市の市長が理事長となる犬塚中久喜土地改良区というのがあ。これが高齢化してしまっている。先ほど、5年後には中久喜地区の耕作者がいなくなるという話をしたが、去年から農業法人が入り、最初は蕎麦を作ろうという発想で始まったが、蕎麦ができるような土地ではないためギブアップした。有機米を作ることに方向転換したが、農道は狭いは、土地のあぜとあぜの間の面積が狭い、大型の機械が入りづらい、非常にやりづらいということ。農道なども整備されている豊田地区や生井地区とは、状況が全然違っている。田園環境都市小山の将来30年後を見通したときに、30年なんかたたないで、もう5年後、10年後には、犬塚中久喜地区の相当なエリアが草ぼうぼうの荒地になってしまうことが容易に想像できるような状況だと考える。

今の環境、今の状況を維持することすらも大変。さらに今の状況を改善していくことになる、さらに大変なことになる。今のままだと、本当に取り返しのつかないような状況になってしまう。過去がどうだのこうだのと言ってみても、やはり将来、それなりに夢と希望を抱いて移り住んできた人たちもたくさんいらっしゃる。そういう人たちが将来、「こんなところに来たわけじゃないんだけど」とがっかりしてしまうことに大いになり得る地域でもある。このような状況は市にも伝えているのだが、本当に

重要な課題だ。

◎先ほども話が出たが、犬塚土塔地区の区画整理事業が始まるが、犬塚の産業道路から、33号線から西側のほうは、ほとんどもうやる余地がないように思う。

◎買い上げる部分で都市化が進んで、いじりようがない状況になりつつあると思う。

◎愛宕神社の北側、土塔4丁目地区は、地元の反対もあって、区画整理から取り残されたところもある。そうしたら市のほうでここは準工業地帯だから区画整理はやらないならやらなくても構わないということになった。だから、愛宕神社のところまでは区画整理ができていて、北側は昔のまま。道路も狭いところがあったり広いところがあったり、そういう場所。

◎愛宕神社から北側あたりは、昔、古河アルミという工場があり、鉋さい^{註9}を埋めたりしているので、その弊害もある。無償で土地を提供しているところもあるが、小山市の東出張所もそういうエリア。そういう問題も抱えているが、土壌改良をすればいい話なのだが、長年、何もやらずにそのままになっている。やる気の問題ではないか。先ほどの農業法人のことについても、法人の皆さんがやる気になっているのだから、私たちも応援している。しかし、応援したってどうにかなるような話でもない。

◎30年後を考える前に、これ以上悪くならないような対策を早急に打っていく必要がある。

註9：鉋さい～鉋滓。金属を溶融し精錬する時に出る非金属性のかす。(ウェブ辞書コトバンクより)

「古河電工グループサステナビリティレポート2014・ウェブ版」P62より転載～「小山地区(旧古河マグネシウム工場跡地)に保管している鉋さいの適正処分と、底地の土壌汚染に対する土壌改良工 事を実施してきましたが、敷地の一部は終了しました」(下線は風景社による)

https://furukawaelectric.disclosure.site/pdf/library/140/ja/2014_06.pdf
2014年以降のレポートには小山地区(旧古河マグネシウム工場跡地)に関する報告はない。

<https://furukawaelectric.disclosure.site/ja/themes/175>

◎現状に関していえば、中久喜にも道は狭くて本当に車が1台通れるぐらいの幅しかないところもある。

◎横倉もそうだし、他にも。開発の進みが早くて、開発したところだけが広がっている。広がっていきたり狭くなったり。

◎今から15年、20年ぐらい前は、犬塚中久喜地区も緑が豊かで良かった。

◎今は緑豊かでも、もう荒れている方の緑。

◎確かに今、区画整理やってきれいになった、うわべはきれいになったが緑はなくなった。林がなくなった。区画整理や宅地開発で隅のほうに公園を作ったから、そこでちょこちょこあるぐらい。それは結局、どっちを取ったかということになるのだろう。

◎土塔一は2つの問題がある。一つは、神社の古い枯れた木や、枯れた枝などの処分。もう一つは、古墳が大雨で崩れていくこと。古墳の上にはアタゴ神社が祀ってある。その古墳が大雨が降ると水で削られていっている。まだ、建物本体のところまでは（侵食が）きていないが、周りのコンクリート、犬走りというか、その下はもう土がない状態のところもある。自治会でみんなに出てもらってなんとか修復しようかといったら、県の指定文化財の古墳だから、触ってはいけないと言われる。議員さんにも相談しているが。これも、現状、どうにかしないといけない早急の問題。

◎神社の枯れた木は、伐採したものそのままだと、火事が怖い。火をつけられると全体が燃えてしまう。実際にそういう騒ぎが何回かあった。枯れた枝などで大きくないものは、小山市の一斉清掃ごみの袋をもらって、そこへ詰めて収集場所へみんな持って行って処分はしているが、大きな枝などはそれもできないので、置いたままで山になっている。そこで燃やせれば良いのだろうが、それもできないので困ってい

る。

◎犬塚でも課題はあって、ハードに関してはなかなかすぐ動ける話ではないので、陳情はしているが、自治会としては、ソフト的^{註10}な面に力を入れている。新しい人がたくさん来ていますから、犬塚の風土とか文化のこと、昔からの由来のことなど、その辺を自治会としても広げて皆さんに知ってもらい、住民間のつながりを持ってもらうようにしていきたい。そうでないと、新しい人たちは、ただ犬塚に住んでいるだけで、東京に仕事に行って帰ってきてという感じで、祭りをやりますよと言っても、「それは自分たちとは関係ないこと」という意識になってきているから、やはり少しずつでも変えていきたいと思い、「この地区にはこういうのがあるんですよ」という話をもっとPRしていこう、そういう活動に力を入れようとしているところ。

註10：参考 犬塚自治会ホームページ

<http://www.tvoyama.ne.jp/oy0273310/INDEX.HTM>

犬塚自治会公民館が運営するサイト

<http://oyamainuzuka.com>

小山地区風土性調査報告書 P61 グループインタビューより転載
～駅東エリアの方の話「もう少し自治会というか地域に見えるような活動をしていこうとやっているのです。自治会もホームページを今立ち上げようと思ってやっている。今の若い人は回覧だけ見せては分からない。回覧もQRコードで見られるようにするなど工夫をしているところで、大谷地区の犬塚では既に自治会のホームページを立ち上げているので、話を聞きに行つて、いろいろ動き始めている」

◎土塔一も神社ばかりかと思ったら、神社に不動明王が祀ってある。不動明王はお寺じゃないか、なぜあるのかという話になって。神社には持っていけないから、公民館の社務所のところへ置いて。もともとは神社と仏は一緒だった、その名残かなと思っている。

◎愛宕神社の入り口東辺りに寺があったようだ。

◎東出張所の南あたり、あそこは地名が寺山という。だから昔はお寺があったのだろう。

◎お寺さんがつぶれたときに神社で引き取ったのだろう。善光寺なども神仏一体だ。

◎中久喜でも会長さんたちが地域を案内する「中久喜ぶらり旅」というのがあって中久喜城跡を中心に3時間くらい歩いて案内してもらった。地域のことを知って、伝えていくのは大切だ。

3-1-2 大谷中部地区

1 | 大谷中部：自治会リーダーの方々

参加者：横倉・横倉新田・雨ヶ谷一・田間より男性4名

実施：2022年11月14日 18時～19時半

場所：大谷公民館

1：大谷中部地区との関わりと現在の概況

◎住んでいるところは横倉で、この台地の一番東の端。鬼怒川低地があって、思川低地がある。その間の本当の台地の縁のところに住んでいる。うちは分家で、分かれてからちょうど100年目。自分で4代目になる。

◎雨ヶ谷に生まれてずっと住んでいる。もともとは農家60軒くらい。それ以外が、後から移ってきた方達になるのかな。世帯数が2000を超えて大きな自治会になった。農家の意見はある程度まとまっても、いろんな意見が増えてきたので、まとめるのはなかなか難しい。親睦を深めるために、自治会としては8月に実行委員会を設けて納涼祭を実施している。ここ3年はコロナの状況を踏まえてメインとしては花火大会に。それから10月30日に雨ヶ谷の公民館が新築になったので、そこをスタートに雨ヶ谷の公民館ふれあい祭りを実施するようになった。2年間は実施していなかったが、今年は状況を確認して感染に注意しながら公民館祭りを実施できた。

◎横倉新田は、地理的には細長い自治会で、加入世帯は約1800くらい。本家が江戸時代に富山から来たという話は聞いている。同姓の家はみんな親戚になる。横倉新田には住宅地の中に音弥神社があり、親戚（故人）がそのいきさつを書いた本を出している。

畑の端っこのほうに祠として作ったもので、そ

れは茨城のほうから持ってきたと聞いている。それを大きくして、現在の音弥神社にしてある。安産の神様ということで、子どものお参りによく来ていた。子どもたちに赤飯を分けてくれた記憶がある。

◎茨城との県境に、南に流れる江川があり、その江川に沿って田間自治会がある。田間には、血方神社^{註11}があり、そこで、小山市の無形文化財のお神楽をやっている。ここ2年ぐらいはできなかったが、女の子の稚児舞もある。いろいろな踊りをほかから習って習得して、それで代々、次の人につないできたという何代にもわたって継続されていると資料には書かれている。

註11：血方（ちかた）神社

インタビューに参加された方から、昭和47年（1972）に血方神社が発行した冊子『血方神社と太々神楽』をお借りした。それによると、大正2年に書き残された由緒沿革（その正文は明治初年の本社再建の際の趣意書に書き残されているによると、当神社の創立の年は天徳4年（960）で、最古の記録は、江戸時代宝暦年間（1760）の下野神名帳であり、そこには「知賀多（ちかた）大明神、西田間、称揚寺」と記載されているとのこと、当冊子にも「この頃はすでに田間地区の守護神であったのである」と記述されている。

2：農業の変化～稲作と畑作、開墾、昔のカンピョウづくりと今の農業

稲作と畑作

◎この辺りは、昔から畑のほうが多い。
◎昔の価値観から言えば、お米の取れるところが一等地。お米は貨幣価値を持っているから。この辺は台地で、ほとんどが雑木林。昔から稲作がほとんどできない、二等地、三等地という評価。大谷は、台地を東西に輪切りにすると、北から南まで、どこを切ってもカマボコをいくらか並べたみたいになる。その中で、低いとこ

ろに、東に西仁蓮川、真ん中に大川が流れる。昔は、お嫁に行くなら「大谷は、食っていけないから駄目だ」と言われたような土地。

◎この辺に人が多く住むようになったのは、戦争が終わってから。

◎昔は米が取れないから、陸稲（おかぼ）にした。無理やりお米が作りたくて、畑だったところに周りを全部囲って高くして、そこに水をくみ上げて田んぼにした。

◎戦後の食糧増産という時期に、お米をどうやったら作れるかということで。今度は米が余ってきちゃったら、それはもうやらないでくれと転換された。自分たちが生まれる前後あたりは、お米が欲しい、なんとしてもお米を作りたいという気持ちが強かった。

◎陸稲も、うまくはっていない。金かかって安い米作っているようなものだった。

◎陸稲の水は、深く井戸を掘って組み上げて、何本かに分けていた。

開墾について

◎戦前、農家の次男坊、三男坊は外国に派兵されていた。戦後、戻ってきて、今度は国策で開墾という形で土地を分け与えられた。ここを一つの例に取れば、中島製作所が持っていた大きな土地も、開墾の対象になった。栃木では、那須の開拓も有名だが、ここでもあった。日本各地から開拓に来ていた。さっき、富山から先祖が移り住んだという話があったが、向こうは一向一揆があつて信長あたりのときにつぶされて、それでこっちへ移ってきた家もあった。だから、ここに長く住んでいる家も、いろんなところから来ている。

◎九州大学の教授で、この大谷地区の歴史をひもといた論文を出している人がいる。

昔の農業～カンピョウづくり

◎こちらは畑作なので農家の敷地自体は昔から

広い。'90年ごろまでユウガオ（カンピョウ）を作っていて、庭先に干す場所が必要なので、敷地が広がった。豊田地区などの水田地帯は、家の脇まで水田にしているようで、敷地は、こちらほど広くはなさそうだ。

◎子どもたちもカンピョウを干して、乾燥させて、という作業など手伝っていた。

◎それも自分たちの親の代まで。親が亡くなってから辞めた家が多い。

◎乾燥させるための小屋があった。そこで、漂白して乾燥させるのに硫黄（二酸化硫黄）を焚いた。かなり手間がかかる。

◎手間がかかるし、カンピョウの値段はかなり高かった。

◎乾燥は、うちは基本的に天日干しでやっていた。その後ちょっとあぶってからビニルハウスで扇風機で乾かす。夏場なので、ずっと外ではにわか雨が心配。雨が降ってきたら中に入れて、雨が上がったらまた出す。その作業自体が大変だから、ビニルハウスで。

◎もっと前は、ビニルハウスそのものがなかったから、みんな否応なしに天日に干して、雨が降りそうだとするとみんな家じゅう総出で雨に当たらないところにしまわなければならない。それが大変だった。

◎軒下へぱっと取り込んだり、家族みんなで大騒ぎでやっていた。

◎しまえるような納屋や下屋もあったかもしれない。

◎カンピョウも、ある程度乾いている状態だったらいいが、干して間もないとまだ乾いていなくて水分を相当含んでいるので重い。

◎繁忙期は、夏。朝、3時に起きて仕事しても3時では遅いなんて言われる。

◎裸電球みたいな照明をつけて2時ぐらいからやっていた。

◎次第に、安いカンピョウが輸入されたりして、作る人も減った。採算が合わないから。

◎今は壬生や石橋では作っている人もいる。

◎台地だから畑くらいしかできないところ。ユウガオ作らなくなって、今は他に、野菜はいろいろ。白菜、レタス、ブロッコリーとか。

今の農業

◎農家も減ってきていて、みんなだんだんやなくなってきている。

◎直売所に出している人もいるにはいるが。

◎農家でやっている人は、うちのほうには3人ぐらいしかいない。

◎専業はほとんどいないのではないか。

◎農家の人の数、戸数で言うと本当に数えるほどしかいない。1000戸の戸数に対して50とか60。比率からいったら10分の1、20分の1くらい。

◎私のおじいちゃん、おばあちゃんが畑をやっている、子どもはみんな勤めている。おじいちゃん、おばあちゃんが亡くなると、みんな農家は廃業。農家を廃業して、不動産屋へ土地を売ってしまう。横倉新田でも、そういうところが何軒かある。

◎市街化という線引きがあって、市街化地域の中に入ると、そこで農家をやっていると税金が高い。

◎税金が高いから割に合わない。

◎今、お米が安くて、1俵が1万ぐらいで、8俵採って8万。それで税金が8万。

◎1反歩で作っても税金払えない。

◎それでもうやっつけられなくなる。知人でも、大きくやっていた人が売り上げよりも税金のほうが高いからやっつけられないと言う。野菜を作るとか、果樹を作るといって、今度はものすごく初期投資が大きくなってしまふ。ハウスを1棟造ったって200万、300万。市街化の区域の中にそれを作ろうという、助成金はゼロ。農振地域に作れば市の補助は出る。市街化区域の中に大きなハウスを作りましようとい

うと、助成金ゼロ。泣きながらやっている人がいる。

◎だから今、農家を継ぐ人がいない。全部税金で持っていかれちゃう。

◎同じようなことは雨ヶ谷地区でもあると思う。

◎農業をするための条件がかなり悪い。例えば田間の場合は、市街化地域には入っていないが、近くに勤める場所がいっぱいあるから、みんなそっちへ行って働くから、家の農作業はあまりやらない人も多い。

3：地区の神社と歴史

◎雨ヶ谷に星宮神社があり、そこでは今月（11月）の24日、例大祭を予定している。星の宮神社^{註12}では、夏まつり、11月に例大祭、2月に小祭（しょうさい）をやっている。

◎横倉新田には、お囃子の会がある。横倉にも。雨ヶ谷にもあったが、なくなってしまった。

◎雨ヶ谷は、そういうお囃子の活動がないこともあって、公民館で新しい祭りを企画して、納涼祭をやっている。

◎横倉には稲荷神社^{註13}があって、これは平安時代にできたようだ。昭和7年ごろ調べた記録がある。これを作った人はそのころの大谷村北小、東小、南小の先生が集まって調べて作った資料。その資料で江戸時代の幕末に大谷がどうだったかを見ると、旗本が細かく分けて治めていた^{註14}。泉崎から南和泉まで16に分かれていて、石高と誰が納めていたかの記録もまとめている。横倉なんてあんな小さいところが4つに分かれて、それぞれ4人の旗本が治めていた。

◎資料には石高とあるが、米は、湧き水のあるところで小さく作っていたのだろう。台地の縁には湧水がある。

◎美田とか豊田とかは大きな低湿地で広く稲作

ができる。ここはもう水の湧きだすところにつくるしかない。大昔の田んぼの原型は棚田。湧き水を利用して土地を使っていた。益子とか茂木、あの辺は棚田が多い。あれが田んぼの原型だ。

◎そういう大事な資料は次にまたつなげなくてはならない。

◎こういった資料も、地域の誰かがまとめて残していくための資料として作っておくわけだが、読んでみると、記録がすごいこと、大切なことがわかる。

註12：星の宮神社

インタビューに参加された方から頂いた資料によると、平安時代の創立とされ、祭神は磐裂神（いわさくのかみ）。

註13：稲荷神社

『大谷村郷土誌』P3「（3）平安時代」に以下の記載がある。「本村の村社には稲荷神社を祀るものが二社ある。東野田の野田神社、横倉の稲荷神社がそれで、尚村社の攝社としては多くの稲荷神社が祀られてゐるばかりでなく、屋敷内に稲荷様を祀る家が多い。これは真言信仰に基因するもので、秩序ある部落を形成したのはおそらく此の時代であらう。本村の古社は多く此の時代に創立されたものと思ふ」

註14：江戸時代末期の各字の領主について

同誌P5「（8）徳川時代」によると、泉崎、土塔、犬塚、中久喜、横倉（4つに分割）、雨ヶ谷（2つに分割）、田間、塚崎は、徳川の直轄領として、それぞれが旗本の知行所（将軍が家臣に禄として与えた）であった。武井、東野田、南和泉は、壬生藩が治めていた。また「全新田」という字名が代官領として記載されている。

4：横倉の遺跡

◎大昔から、人が住む条件としては、水場に近いところで、住むためには高台が必要。水に浸かってしまわないように。大谷は台地だから、その台地の縁に沿って大昔から人が住んでいた跡は多い。

◎発掘するとかなり出る。

◎横倉は、遺跡や古墳^{註15}があつたりするが、ただ、米の増産だなんだやっているときには、いちいち遺跡が出てきたら困ってしまうので見つ

けてもまた埋めてしまうのが多かった。

◎国道4号線を造るときも、4号線と結城に行く道がぶつかるところを、道路を造るための調査で発掘したら、どんどん出てきた。そこだけで古墳は七つぐらいある。

◎ここにありますが、標識が立っているだけで特に何もしていない。その中の一つが今度の道路を造る時の調査で見つかった。しょうがなく掘ったら、二重にも三重にも1000年以上、2000年以上前の遺跡が出てきて。その上に今度は何百年か後の遺跡が重なって出てきた。

◎古墳は前方後円墳。そのほかに円墳と方墳といろいろ見つかった。

◎家の敷地が古墳になっているところもある。

◎だから本当に台地の縁の部分に、昔から人が住んでいた。高台の本当に高いところになると、今度は井戸を掘っても水が出てこないから。思川の西側だったら、自噴の井戸もたくさんあったみたい。掘ったにしても、2、3メートル掘れば出てくるが、この辺りは、10メートル以上掘らないと出てこない。

◎今の新しい技術だったら井戸は50メートルでも100メートルでも掘れるだろうけれど、昔の人が手掘りで10メートルなんて掘ったら命がけだ。

◎この辺で畑で何か耕していると、壺とか何か昔のかけらがたくさん出てくるが、いちいち探しているのも面倒くさいからトラクターでうなっちゃう。

◎ときどき若い子がかけらを探しているが。

◎この辺では、今はやらなくなったけど、昔はゴボウなどを掘るのにトレンチャーかけると出てきちゃうこともあった。

註15: 同地区には「横倉遺跡」と「横倉戸館遺跡」がある。横倉遺跡～『栃木県埋蔵文化財調査報告書第182集 横倉遺跡一般国道4号(新4号国道)改築に伴う埋蔵文化財発掘調査』(1995.9 栃木県教育委員会(財)栃木県文化振興事業団)には次の記載がある。「小山市域の新4号国道関連の発掘は、昭

和55年度から着手し(略)横倉遺跡は小山市南部に所在し、昭和63年度から平成元年度にかけて試掘調査を行い、平成2年度に本調査を実施しました。その結果、旧石器時代から近世に至るまでの遺物が出土して(略)本遺跡の中心となる時期は中世であり(略)中世小山の集落の様子を探るための一資料に」

横倉戸館遺跡～『栃木県埋蔵文化財調査報告書第190集 横倉戸館遺跡 一般国道4号(新4号国道)改築に伴う埋蔵文化財発掘調査』(1997.3 栃木県教育委員会(財)栃木県文化振興事業団)には次の記載がある。「平成2年度に発掘調査を実施し(略)旧石器時代から江戸時代にかけての各種の遺構・遺物が発見されております。特に縄文時代後期のもと思われる埋蔵は、当時の人々の埋葬方法を窺い知るものとして、小山市域の歴史にあらたな資料を加えることになる(略)」

5: 大切に守っていききたいもの～祭りやお囃子、公民館祭り

◎血方神社のお神楽はずっと継承していききたい。今の神楽師さんは地元の方で、継承できているが、次の世代がなかなか見つからないという難しさもある。今、60代以上が中心。それでもやはりなんとか次の世代に教えて、覚えてもらって継承していききたい。

◎稚児舞は、昔から田間で生まれた女の子がやってきたが、子どもも少なくなってきたので、近隣の、例えば雨ヶ谷とかの子供にもお願いして踊りを練習してもらっている。4月第2土曜日曜が本番。2022年はコロナの関係で稚児舞はできなかったが普通の神楽の舞はやった。

◎横倉新田のお囃子は、子どもたちも一緒にやっている。もう40年以上は続いているのではないか。夏祭りに神輿を出して、盆踊りでは踊りの音頭とりに日光和楽のお囃子を。小学校のグラウンドを借りて櫓を立ててやっている。コロナ禍では中止だったが、練習は継続している。例年、5月の連休後から練習を始める。去年は、11月6日だったかな。駅東の城東公園で商工会議所主催のお囃子のイベント(既出:P39)があり、それにも出てくれというので演奏してきた。駅の東、4号線の東の地区のお話会に声が

かかって集まった。

◎お囃子は、横倉新田から旭町（小山地区）に、この10年近く教えに行っている。自治会で言えば、旭南自治会になるのかな。

◎横倉は、間々田の寒沢から教わっている。40年ぐらい前か。

◎雨ヶ谷は、公民館祭りをやっている。元々の公民館が、新しい道路がかかるので移転しなければいけなくなり、新築しよう。それまでより広い公民館を作っていただけだったので、これを機に公民館祭りをしようということになった。公民館でやっている講座で作った作品の展示や、公民館を利用して舞踊などをやっている人たちの発表の場として。

◎多世代が参加する機会に。子どもさんと呼ばば、父兄さんが来ると思うので。今年（2022年）はバルーンアーティストを呼んで風船で作品を作って。そうすると当然、それを事前にPRしていれば、お子さんが見えますので、お子さんが見えれば家族も来る。子どもさん優先の催し物を考えたりしている。

◎横倉では、同じ名前前の公民館祭りで、子どももそうだが地域に住んでいる人の交流があるといいね、ということで、10年くらい前に始まった。模擬店のようなものを作ってみたい、手打ちの蕎麦を作るとか。蕎麦の種をまいて作ってそこから全部手作りで。これがなかなか大変。小豆も自分のところで作った小豆を使ってあんころもちを作ってみたり。数はあまり多くないが農産物の直売みたいなことも。

◎雨ヶ谷でも、販売は何にしても、その量がどのくらい捌けるかが分からない。依頼されたほうもこれぐらいかなと準備して余るのも困ってしまう。そうすると、前年の実績がある程度把握できていれば、このくらいは大丈夫かなという形で行ける。今年、野菜は完売だった。

◎雨ヶ谷でも、そばを自治会の方が手打ちで打って食べてもらっていたが、前日から準備が入

って当日はもう注文を受けてから茹でて、とても大変。自治会の役員が焼きそばを焼いたりしているので目配りができない。だからやはり今年はコロナの関係もあって、キッチンカーに全部お願いした。そうすれば自治会の役員はある程度目配りができるので。キッチンカーの方々にも呼んでくれてありがとうと言われた。

◎展示見るだけでもいいが、やはり、一緒に飲んだり食べたりと、それができなかつたらお祭りにならない。

◎そこでおしゃべりもできるだろうし、普段顔を合わせない人が合わせることが多いから。納涼祭にしてもふるさと祭りにしてもそうだが、コロナでやりたいんだけどできない。2年、3年やらないと、やるのが億劫になってしまう。

◎前は、どんな準備をしていたんだっけ、と。こういうものを準備して手配してやったというのをだんだん忘れちゃう。

◎お神輿でも、稲荷神社が一応主体で声を掛けるが、子どもたちがお神輿を担ぐときは、母親たちも手伝って、子どもの肩が当たって痛いから一生懸命トンボに布を巻いたりしたが、中止になって何年かすると、次にやるときに「この布はなんですか」になっちゃう。理由はどうあれ、2、3年、間が抜けると、もう一回、再開するのはとても大変。

◎育成会の人たちが一緒にやることも、役員がみんな変わってしまうから、2年、3年続けてやっている人はほとんどいないから。みんなゼロからになってしまう。誰かがやってくれて、そこに参加するのは簡単でいいが・・・。

◎やはり主催でやるということは大変なエネルギーが要る。

◎地域の中で、自分たちでやるから意味があるが。

◎結構遠くから歩いて来てくれた方もいる。

◎田間地区でも、何年か前まで、そういう公民

館祭りをやっていた。うちの親の代ぐらい*の秋には、菊祭り。愛好家がいるので、よしずを屋根に作って菊を飾った。自治会には、いろんな愛好家、得意な人もいて、写真とか、書道のうまい人、絵を描いたりとか、アートフラワーとかいろいろなのを作ったり、そういう展示や発表の催しもよかった。蕎麦を茹でてふるまったり、テントを張ってやっていた。そういう地域のつながりは、ふだんはなかなか行き会えない人とも顔を合わせることができるのは、みんな喜んで、にこにこしてやっていた。

6：解消したい困りごと～平地林の消失

◎獣害については、野田のあたりでイノシシが出ると聞いたが、田間はどうだろうか。

◎野田にはいる。

◎見ると平地林がどんどん造成で減ってくるので、野生動物がどんどんすみかがなくなって民家のあたりに出てくる。

◎大雨で遊水地が冠水したときにあそこから逃げ出したのがあちこちに居ついてしまったのではないか。

◎畑に野菜でも作っている地域に住みつくると食べ物には困らないから。

◎この10年20年で、平地の林も極端に減った。

◎減ったというのだって、横新のあたりも結構減っているんじゃないか。

◎減ったというより、なくなっているぐらいの勢い。みんな住宅が建っちゃってしまっている。

◎最初にも話したが、もともとの戸数が、戦後25年ごろのときは60とか40とか。住むところと畑ちょこちょこあって、あとずっと一面が林だった。それが今なくなっちゃった。50戸、60戸だったものが1000戸に増え、2000戸に増えるから、自然林もなくなる。

◎子どもの頃は、周りは林。カブトムシもいっぱいいた。遊び場だった。

◎昔は広葉樹。落葉広葉樹の落ち葉を集めて、畑の堆肥にした。

◎そんなに大昔のことではない。自分たちが覚えているから。

◎いやいやながら、子どもの頃は落ち葉集めの手伝いもした。

◎薪も、かまどや風呂の燃料だった。

7：田園環境と都市環境の調和について～宅地開発

◎本当に住宅が増えた。人が集まってくるのは何なのだろうか。そんなに増えてほしくはないと思うのだが。

◎新しい住宅地をつくる時に、もう少し規制をかけてもいいと思う。申請を出しさえすれば何でも出来ますではなくて、生活道路というのかな、それが前もってきちんと整備できたところに、人が移り住んで来てくれるのだったらいいのだが、あちこち虫食いだらけの状況になっている。

◎つくってしまったから、いろいろ困った、どうしましょう？では困る。

◎開発業者がいろいろなところが入ってしまう。自分のところでなるべく有効活用しようとする、その区画内の道路しか考えない。それで隣の開発業者は当然、自分たちのところも有効活用しようとする、最低限の道路にしてしまう。だから、そこそこが、意外とつながってなかったりする。

◎学校の先生が家庭訪問するときに、みんな迷子になってしまうそう。待っているんだけど先生が来ない、どうしたのか聞くと、道が分からないんですと。

◎通り一本違うと目的地に行けなかったりする。

◎行き止まりになったりする。

◎小山市を俯瞰的に見れば、思川の向こう側が緑でこちら側が住宅という。だから「バランスの取れた」なんて言葉が出てくるのだろうけど、この地域だけでバランスとかを考えると、駅までの距離がどれくらいあるとか4号線が近いとか、そういう移動の意味ではいいと思うが、アパートの延長みたいな感じで住宅をぼこぼこ作られたのでは、落ち着かない。隣との距離をせめて10メートル置くぐらいの余裕を持った作りができたなら、もっといいと思うが。

◎もともと家がぽつんぽつんとしかないような、隣との間が空いているような時代に生まれ育ってきたので・・・。

◎分譲団地で、お隣と壁一枚ぐらいの感じのところでは居心地が悪い。

◎そういう面では何か落ち着かない。

◎田園環境都市を考えるとすれば、住環境ということをもう少し大切に入れられたらいいなと思う。

◎人間を一つの歴史で見たときに、何代も続くようなところは本当に少ない。だいたい戦後、それも戦後どころか昭和の50年ぐらいに移ってきた人が多い。それというのも、日本各地で炭鉱がみんな閉鎖になったのが昭和47年から50年。九州で炭鉱閉鎖があって、その後に今度は夕張の炭鉱が閉鎖。そこで仕事なくなった人が、仕事を求めて東京へまっすぐ行くのでなくて、ここ、小山が一時停止の場所だった。仕事なくなった人を受け入れていたのが今の東京鉄鋼など。コマツなどは、川崎とか向こうで募集した人間がこっちへ来る。鉄鋼あたりは青森にも工場があったから、夕張から青森に出てそこにとどまる人もいたし、こっちへ来る人も結構多くいた。だから炭鉱関係の人も結構多い。昭和50年と言ったらまだ40～50年前。人が増えてきたのは、そこから。コマツとかいろいろな工場が稼働して、それに関連する人が増えて

きてもいる。ヨロズもそうだし巴もそうだ。巴も青森出身者関係が結構多い。

◎あのころはまだ50号線も砂利道だった。おそらくその地域で、あなたは50年前にどこに住んでいましたか？と聞くことがあれば、自分は横新にいました、田間にいました、横倉いましたという人は、本当に少ないと思う。

◎だから、小山市の未来に何を残したいか？とか、どうのこうの言われても、ぴんとこない人が多いと思う。人の移動や動きの少ないところだったら、残したいとか繋ぎたいとかという言葉も出てくるのだろうが、ここは動きがあるから。よく言えばダイナミックだというし、悪く言えば落ち着かないように思う。

2 | 大谷中部：子育て世代の方々

参加者：横倉・横倉新田・塚崎より、地域サークル「桜小町 MAO」「地域学習サークル 20's」の女性4名
実施：2022年12月19日 13時半～15時
場所：大谷公民館

1：大谷中部地区との関わり

◎鹿沼の、鹿や熊も出るような自然豊かな地区から嫁いで、子供二人と夫の核家族で塚崎に住んでいる。こちらにきたときに、一番驚いたのは、靴に土がくっついている人がいないということ。鹿沼では、周りが田んぼや畑など土の地面ばかりだったので、家の玄関土間も常に土だらけ。大谷は、ある程度がコンクリートやアスファルトだから、その差を感じた。買い物は便利だし、都会だなあと驚きました。

◎私も移住者で、東京生まれの東京育ち。栃木出身の夫と結婚して東京で子育てを始めたが、10年くらい前、上の子供が小さいときに、横倉

に家を持って家族で小山に引っ越した。夫は都内の会社で働いているので、いずれ栃木に戻りたいといっていたが、まだ先だと思っていた。だけど、良いタイミングでこちらに来ることができたと思う。高齢者になってからのUターンだと、いろいろ大変なこともあると思うし、何より新幹線も止まる駅があって夫も都内の会社にこれまで通りに勤めることができるので。

私の父親の実家が宇都宮市にあって、子供の頃から、そのおじいちゃんおばあちゃんの家に遊びにきて、田んぼで凧揚げしたりした楽しい記憶がある。両親も還暦前くらいに、都内から宇都宮の父の実家に戻らなければいけなくなって、それで母がとても苦労していたのを見てきた。都内で暮らすには必要な運転免許も、母はもちろん持っていなかったし、親戚や友達もいない土地にはなかなかなじめなくて。そういうこともあって移住を決断した経緯がある。

◎田園が広がる豊田地区で兼業農家の家で生まれ育って、結婚を機に横倉に引っ越してきた。夫の職場に近いことと、お互いの実家のちょうど真ん中ぐらいの位置で、行き来しやすいところなので、横倉を選んだ。

◎東京で生まれて子どもの頃に間々田に引越し、中学1年で野木に引っ越して、結婚を機にまた小山市に戻り、初めは喜沢に住み、今は横倉新田に住んでいる。住んだところを振り返ると、間々田は、まだお店も家も少なかった時期で交通量も少なく、それほど危険もなかったし、子どもだったこともあって間々田駅へも多少遠いところへも歩いて行っていた。多分、大人になった今はもう歩けない、歩こうと思わない距離。喜沢に住んでいた時はHarvestが近かったのでベビーカーを押して出かけていた。今は便利だけど、わくわくしながら買い物したりできる施設がないのが、少し残念。そういう場所があると日々楽しいだろうなと思う。

2：子どもたちの過ごし方

◎子どもたちは、ほとんどゲームです。

◎今、住宅地とか建売とか多くて、その住宅地ごとに小さい公園を可愛く作ってくださっているが、それが活かされていない気がする。もったいない。町内で清掃などはやるのですが・・・。

◎子どもたちは外遊びよりゲームだし、物騒だし、コロナだし。なかなか公園では遊ばない。道路も狭くて車とすれ違うのも危ないから、子どもだけ行ってらっしゃいというのも難しい。

◎私は、本当に山に近いところで子ども時代を過ごしたので、外で遊んで、自然になっているものを取って食べたり、男の子はタケノコを掘って怒られていたり、柿をとって食べたら渋かった思い出がある。別に登山の格好をしなくても山に登って遊んでいた。

◎鹿沼に住んでいたのも、夏は川で泳いでいた。親が交代で見守りにきてくれて。しばらくして、水洗トイレの下水が流されるようになったから、川で泳ぐのは禁止になった。水洗トイレが流されてしまうから川で泳ぐのは禁止になってきたりとか。川で夏は本当に泳いでいたし。自然の中で。

◎大谷は都会でいいのだが、緑も少ないし、土も少ない。のびのび遊べるところや、さっきの話のように、大人もワクワクして過ごせるところがない。Harvestへ行くと休日は混んでるし。

◎公園のことで言うと、うちの子どもたちは公園で遊んでいる。中学生が部活の練習をしていることもある。

◎うちの分譲地の場合は、分譲地の真ん中にあるので、面積も小さくて・・・。そこで大きなこえで遊ぶと、周りの住宅に迷惑がかかってしまうような場所。中途半端なスペースで小さくて遊具もない。

◎家を建てるには中途半端な角地に、何もでき

ないから公園を作っておきましたみたいな中途半端さを感じてしまう。

◎公園というより、空き地・・・。

◎公園ではなくて、ただの原っぱみたいなところも近所には無い。

◎秘密基地が作れるような場所がない。

◎やんちゃできるところがない。

◎広いスペース使って遊びたい時は、学校から帰って、また学校へ行って校庭で遊ぶ。

◎バドミントンとか、本当に広く使いたいときは校庭に行く。

◎小学校の校庭には、小学生は入れるけど、最近、中高生はダメだと言われて入れないようだ。

◎放課後は皆、習い事も忙しいし。学童に行っている子は帰ってくるともう夕飯の時間という感じで、本当に家の近くで、外で遊ぶという機会は、私たちが子どもの頃に比べてかなり減っていると思う。

◎宿題自体も昔より多くなっているように思う。私自身が子供の頃はもっと遊んでいた。

◎土日の過ごし方は、時間があれば、公園に行ったりもするが、ごろごろしているか、家族で出かけるか。それぞれの用事で個別に出かけることも多い。

◎ゲームと YouTube で動画を見て終わってしまう。

◎そんな過ごし方が、今の子にしたらきつと普通。親と一緒に買い物に行こうと言っても「いえ、大丈夫です」みたいに断られる。

◎今の子供たちは、体力などはきつと昔の人に比べたら劣る。目だけが疲れる。

◎コロナの感染で行動制限される時期も入ったから、余計に動かない。

◎外に出かける、外で遊ぶというきっかけを、どんどん失っている。

◎親としても、コロナもあったし家にいてもら

ったほうが安心というのは正直なところ。

◎家庭の事情もそれぞれで、人と関わらないでほしい家もあれば、出て行ってほしい家もある。職業とかにもよると思う。

3：桜小町 MAO について

◎横倉新田にある、ひまわり幼稚園の保護者の会「ひまわり会」が母体になった、主に幼稚園グッズをハンドメイドでつくるサークル。お箸を入れるケースや、サイズごとの上履入れ、ランチョンマット、お弁当を入れるものなど、園の学園祭の中で販売して、お母さんたちに大好評だった。そこで知り合って、子どもが卒園した後もつながっている。交流自体も楽しいし、卒園後もハンドメイドでつくることを続けたいという人も多いし、卒園したあとも「桜小町 MAO」として続けている。

◎子どもが幼稚園に入った当初、引っ越してきたばかりで知り合いも少ないし、裁縫の手作りでグッズを作るのも苦手だったので、ひまわり会の活動に助けられた。見ず知らずのものからのリクエストにも答えてくれて。それから一緒に活動していくうちに「つくってみたら？」と勧められたり、教えてもらったりしていた。

◎子どもが卒園した後は、ハンドメイドでつくったものを必要な人に販売したら楽しいのではないか、ということで、最初は、近所の人や知り合いに声をかけて、ガレージセール的にメンバーの家の庭や駐車場で開催していた。それが10年くらい前かな。

◎そして、定期的に開催できる場所を探していたときに、地域の企業のショールームができて、利用させてもらえないかと連絡をしてお借りできたので、通園通学マルシェとして開催するようになった。それから8年近く続いている。

◎自分でつくるものが売れる喜びや、喜んで買

ってくれる人たちの存在があった。

◎ハンドメイドが苦手な人は、とても助かると言ってくれて、充実感があった。

◎世代の差もあり、もっと上のお母さん世代だとみんなミシンをやっているから、それができて当たり前のことなのかもしれないが、年齢が下がるにつれて作らない世代になって、できるだけ市販のものを利用したいという人も多いようだ。私たちは、そのはざまの世代的な感じで、つくることが好きな人も多いし、つくる人と、つくってもらう人とお互いいい関係が築ける。

◎入園した頃は素人だったのが、次第に作れるようになって卒園の頃は、先輩になってしたの世代に教えることができたり・・・。

◎子どもが卒園しても、気付いたら何十年もサークルにいた！という感じで、そこで仲良くなったお母さんたちとは、その後、小学校、中学校へ進んでも交流できたり、何か困ったことがあったら相談できる関係に。保護者は、子どもが成長するほどきっかけが減ってしまう。地域の幼稚園で、良い関係を作れたのはとても良かった。

◎この8年で、情報の発信と収集の仕方は変わってきたと思う。

◎若いお母さんたちとの世代の差も感じることもある。

◎インスタで情報が出ないと興味持てない、買わない・・・という層も。

◎はじめの頃は、チラシを作って、お店に置いてもらったり、せつせとポスティングしていた。SNSでも頑張っけて告知するようになって、情報の広がる範囲も大きくなった。

◎可能な限りは下野新聞社などに広報して事前告知の記事を書いてもらったりするようになってきたので、大谷だけでなく小山市内に広く周知ができている。

◎茨城県の水戸などからも来てくれる。

活動を通しての効果

◎違う世代との地域の交流が生まれた。公民館まつりにも出店させてもらって、年長者の方たちとの繋がり、交流が生まれている。この活動をしていなければ生まれなかった交流だと思う。今でも仲良くしてくれていて可愛がってもらっている。

◎公民館での交流や活動は年配の方が多いので、私たち世代も若手の部類かな。

◎人のつながりが暖かいし、公民館で、中学生のクリスマス会を開いたり、夏祭りもあったり、いろんな交流が盛ん。学校の吹奏楽部の発表の場も作ってくれた。

◎公民館祭りは、とてもいい企画だと思う。

◎クリスマス会は別の公民館でやったが、こちらでも、子育て世代だけではなく、おじちゃんたちの演奏や、手品や読み聞かせをやってくれたりして、世代間の交流ができた。

◎自分にとっての意味としては、このマルシェの活動を通して「社会に出た」という感覚があったこと。マルシェは仕事というわけではないが、幼稚園や家族の範囲で動いていて、身近なサークルで楽しいねと活動していたところから一歩外に出て、レンタルルームの企業さんとやりとりしたり、お客さまを集客できて喜んでもらったりしたことで、一歩、社会に出たような感覚があった。その頃は仕事をしていなかったこともあって、自分自身の成長だったり、感動だったり、安心感とか楽しさとかということも感じられる場を地域の中につくることができたという満足感も得られたと思う。

◎同じように思う。個人的には小山市のふるさと納税の返礼品に桜小町 MAO 中のメンバーとして出品もできているので、とてもいいステップが踏み出せている。

4：地域学習サークル 20's

◎簡単に言うと、いろんなテーマで親子で学ぶ機会をたくさん作って活動しているサークル。もともと地域の親子で味噌づくりやクリスマス会などを行っていて、その延長で2017年か2018年くらいに始めた活動。桜小町MAOの活動が始まり、その後さらに、地域との交流だったり習い事では習えないような学びだったりとか、そういった違ったものを親子で学ぶ機会をたくさん作りたいと始めた。特にお金をかけずに無料でできることはなんだろうということで、思いつくままにいろいろ企画して、ずっとやってきている。

◎企画の一つに新聞スクラップづくりがある。これは、活動を広めるために新聞に載るにはどうしたらいいかと考えて、下野新聞の新聞をスクラップしていく活動を考えた。新聞社も関心を持って掲載してくれたが、子どもたちが新聞に興味を持ついい機会になった。何事でも自分事になると、関心、興味が湧く。子どもが関心を持つと大人もうれしい。孫が新聞に載るとじいちゃんやばあちゃんも喜ぶ。そういう機会をたくさんつくる。

◎小山市の出前講座を利用すると費用もかからない。夏休みの課題をよりよく解決するにはどうすればいいかと考えて利用した。例えば選挙のポスターを描く課題が出て、子どもに、ただ描きなさいと言っても描けない。選挙管理委員会に電話をして相談して、市の出前講座として職員の人に来てもらって、いろんなことを教わる時間をつくった。実際のポスターや投票箱を持ってきてくれて、こうやって鍵をかけて使うとか、選挙にはこんなにお金がかかっているとか・・・。親子で学べて対話もできて、こんなに予算がかかっているんじゃ投票に行かなきゃね、という話もできたし、ポスターも描くことができた。

◎出前講座で消防署に見学に行ったこともある。映像を見せてくれたり、実際、消防本部に電話をかけて緊急事態を伝えるということを親子で体験させてもらって、そういう体験を踏まえて、火災予防のポスターを描く。そのテーマに関する学びや体験がないと絵は描けないし、良い機会になる。

◎コロナ禍になってからは、すぐに4月からオンラインでの活動を始めた。現役の小学校の先生たちを講師に招いて、オンラインで百人一首をやったり、家庭学習の進め方などについて保護者の悩みなどを聞く機会を取り入れたり、ICTを活用したものも。今も毎月ずっと継続してやっている。先生たちに学校の状況を聞いたり、先生たちも子どもたちに聞いてくれたり、保護者の悩みも聞いてくれたり・・・。早くからオンラインには親しむことができたので、学校からオンラインの取組みが入ってきたときは親も子もすんなりと慣れ親しめた。

地域での交流

◎公民館では将棋大会も毎月開催してきた。30回を超えた頃、コロナ感染が拡大してしまってストップしてしまったが、感染も治まってきて、今は、近くにある老人ホームで年に2回という形で開催させてもらって、地域のお年寄りたちと交流している。5歳の子と95歳の人が向き合って同じ盤で戦うのは、どちらにとっても、今しかできないこと。今を大切に、今やらなくていつやるんだという気持ちで動いている。未来ばかり見ていると、その間に子どもたちは、あっという間に育ってしまう。大切な学ぶ機会を失ってしまうので、今を大切に地域の中でも動きたい。

◎老人ホームとは、クリスマス会やハロウィンなどの行事を一緒にやっている。そういった施設に自然に子どもたちや保護者が入ることで、お互いにとってもいい体験になる。子どもが行く

と、それだけでお年寄りの人たちは喜んでくれて元気になる。子どもはそういう存在。そのままでもいい。何かをして褒められる存在でなくて、そこにいることそのものが、子どもの価値。施設に行くようになって、そういうことを理解できてきた。

◎大谷地区は、野菜やお米も採れて豊かな地域なので、横倉の自治会長さんと協力して、農業体験も行っている。サトイモができたからおいでという連絡をいただき、メンバーに声をかけて親子で掘る。親も、サトイモが、どんなところにどんなふうに見えるのかを知らない人が多いので、とても貴重な体験。ヤーコンも収穫体験をした。学校給食にも出しているヤーコンだが、どんなふうになっているのか、どんな葉っぱになっているのか、何も知らない。体験すれば分かる。子どもたちは、サトイモやヤーコンが給食に出たとき、土の上でなっている畑の様子を思い出して食べることができる。そういう食育のリアルな体験も大切にしたい。

◎参加者は、毎月やっているオンラインは15名ぐらいが参加している。大きいイベントだと60人ぐらい、小さい規模だと2、3人で開催することもある。その企画や状況に合わせて人数を調整しながら開催している。

5：地域のコミュニティ

◎私たちは、こういう活動をしているので、世代間の交流があると思っているけど、特に活動していない人は、普段の生活の中に、あまり交流はないのかもしれない。

◎出会う機会があまりないのでは。

◎三世帯同居の家庭も少ないと思う。

◎新しい住宅地は核家族ばかりだと思うが、古くからの家が残る地域は、同居もある。

◎若い世代は行事に出てくる人も多くはない。地域の体育祭とか、若い人の出席率があまり良

くないと、参加した若い人が何回も何回も競技に出ないといけなくて大変そうだったりする。うちの自治会は、いろいろと大変だから、来年から運動会は無くして、その代わり、みんながやれる簡単なスポーツのレクリエーション大会のように変えていくようだ。

◎そうして続けていくことも、大切だと思う。

◎自治会自体も、周りではけっこう入っている家庭が多い。ゴミ出しのこともあるし。

◎私は移住者で、周りにも移住者が多いが、そういう私たちは、ずっと地元に住んでいる人たちのように、親世代から受け継いだコミュニティが無い。

◎引っ越してきて、繋がれるコミュニティがあるのはすごくありがたい。人が集まるきっかけや活動の場が大事だし、必要だ。母親同士の繋がりの活動を、子どもたちもみているから、自分たちが大人になったときに、親がサークルを作って楽しそうにやっていたからと思い出して、自分たちも何かを始めるかもしれない。そういうふうに引き継がれていくと良いと思う。

6：大谷中部地区の住みやすさと住みにくさ

◎住み心地は今のところいいと感じている。

◎ちょっと行けば城南とかで買い物はできるが、子どもが大きくなってくると、高校進学のことを考えると、駅が遠いので大変そうだと思う。バスの本数が少ないというのが、一番のネック。子どもも中学生とかになって、Harvestにも遊びに行くが、バスの本数が少ないので、乗り過ぎしたり乗れなかったりして次のバスになると、帰りの時間がけっこう遅くなる。秋冬は、夕方すぐに暗くなるので、人が多く乗る時間帯だけでも、もう少し本数が増えると安心。

◎便利なところだけど、どちらかと言えば、完全に車社会だから、自分が高齢になったときも心配になる。高齢の方が運転している車も多い

が、無謀な運転をされているのを見かけることが多い。そういうこともあって、やっぱり、もっとバスの本数や路線が充実していくと助かる。

◎自分が車に乗れなくなった時のことを考えると、やっぱり怖い。今は、買い物にも便利だし、かといって都会すぎず、けっこう静かなところもあって良いと思うけど。

◎昔から、神鳥谷に駅ができるという話があって、以前、地域のお年寄りの方と話したときに「あの駅の話、何十年も前から出ているけど全然進まない」と聞いたことがある。

7：田園環境と都市環境の調和について～宅地開発

◎自分が分譲地に住んでいるが、もともと木が生えていたところが伐採されてできた分譲地。他にもどんどん新しい分譲地が、やはりたくさん木が切られて作られている。最近では、カブトムシが普通の住宅地の庭の木にとまるぐらい、住む場所がなくなっているようだ。自分もそういうところに住んでいながら、自然が減ってしまうのは寂しいと思う。でも街に人が増えると活気が出るから良いと思うし、木は残して欲しいと思うが、なかなかそうも言えないし、ずっと複雑な思いがしている。

◎私も大谷に来る前は、他の地区で、家の目の前でホタルが普通に飛んでいたところに住んでいたが、今はもうホタルがいなくなっている。また戻ってきたら良いと思うが、それを地域の人に求めるのはまた違うことかもしれない。そのバランスが難しい。経済を考えれば人が増えたほうが断然いい。でも自然が減っていくのは寂しい。田園環境と都市環境のバランスよくというのが、そこが苦しいといつも思う。

◎人が減ってしまうと、その地域の立場が弱くなると思う。人が多いところは、その意見

が反映されやすくなってしまっているので、強い。だから、田舎のエリアは自然を残して、と、都合よくそういう風には言えないと感じるところもある。

◎都内に住んでいた頃、こちらの夫の実家に遊びに来ると、近くが林だった。散歩するのによかった。あるとき帰省したら、その林の一部が住宅地になっていて、そしてまた次の夏に来たら、また林が半分切られて、住宅になっていた。そういうところに住んでいるが、そのことも少し切ない。

通学路に木陰が無い

◎夏場に日陰ができるような公園がほとんど無い。夏、子どもたちは、学校から帰ってくるたびに、みんな顔を真っ赤にして歩いている。途中で木陰がある場所があれば、そこで一回涼んで、涼しくなったらまた出発できるのでは無いか。道路にも木陰が無いし。本当に日射病になりそう。親としては何もしてあげられないから、そういう場所ができるといいと思う。

東京との比較

◎東京と比べたら、東京は車社会ではないので徒歩圏内に公園がたくさんあり、場所にもよるが施設や子供が遊ぶ場所もある。子どもたちはボール禁止のところも多いけど、公園などの遊ぶ場所もあって、児童館もあって、1年生から6年生まで入り混じって遊べる。大学も周りに多いから、ボランティアサークルの大学生なども児童館に出入りしていて、子どもたちの面倒をみてくれたり、一緒に遊んだりしてくれる。大人にとっても、川沿いなどが整備されているので川沿いの道をずっとマラソンすることもできた。都内だからと言って、公園がないとか自然がないとか、そういうことは感じたことは全然なかった。神社も多くてお祭りもやっているし、子どもたちも神社に集合して遊ぶときもあ

る。だから、そういう意味では、都内の生活と大谷での生活の違いは少なくて……。違いといえば、都内は、田んぼや畑がないこと、カエルの声が絶対に聞こえないこと、星が見えないこと……。

◎都会と比べたら、夜が暗いので、特に女の子の帰りが遅くなるのが心配。つい車で送迎をしてしまうことも多い。子どもたちが自分でバスで移動するとか、自分の足で歩いていくとか、そういう自立した行動はできにくい地域かもしれない。親の送迎の負担や子どもの自立を考えると、歩いて行ける範囲の環境整備もとても大切だと思う。

8：子どもたちの将来と親世代の将来

◎子どもが進みたい方向に行って、自分らしくいられるところで過ごしてくれればいいので、将来は大谷地区に戻ってきても、外に出て行っても、どこでもいいと思う。

◎地元でずっといたとしても、今は世界とも繋がることのできるツールもあるので、それはそれでいいと思う。

◎子ども云々というより、うちの親は分譲住宅地に住んでいるが、同じ時期に同じような世代が家を買ったので、みんな同じように年を取って、近所がみんなおじいちゃん、おばあちゃんばかり。私たちのところも、子どもたちが大人になったときに同じ状況になるはず。親の住宅地では、ごくたまに、古くなった家を壊して、そこに新しい家が建って若い人がぽつぽつと入ってきているようなので、それで活気が出て、おじいちゃん、おばあちゃんばかりの寂しい住宅地にならないようになると良いと思う。

◎私たちのところも、同じ世代で固まって住んでいるので、みんな一気に高齢者になっていく。

◎車が乗れなくなったら、遠くにいけないか

ら、使わなかった公園が再活用されて、とてもいい憩いの場になっているかもしれない。

◎そうなってもやっぱり、コミュニティは大事だと思う。

◎未来に向かって何か考えてやっていくのは良いと思うが、未来に向かって時間をかけて準備していく間に、子どもたちは中学生、高校生へと育っていくので、自分の子どもの今になかなか反映されない。一番大切なのは、正直なところ、自分の子どもたちの「今」に、より良い環境を作ってあげたいということ。やるなら今しなくて、本当に必要なことを絞り込んで、やっていきたい。

3-2 アンケート調査結果(概要と考察)

大谷北部・中部地区で実施したアンケートについて、ここでは、主要な設問の結果について概要と考察を掲載する。設問内容によっては、既に調査を終了した田園部の生井地区・豊田地区や都市部の小山地区の結果との比較も行う。

質問票と、単純集計・クロス集計の詳細版は別添資料(アンケート集計結果報告書)「アンケート調査結果 報告書」に掲載する

回答数/回答率について

- 回答数:596件(郵送:561 ネット回答:35)
うち集計締め切り後に届いた3通は無効とし593件の回答で集計を行った。
- 郵送での回収率 22.5%
対象2,500について、宛先不明で還付されたもの5通を除外した2,495を母数とした。

1: 回答者の属性について

1-1 設問【1】の集計結果

-1 性別

男性 46% :273名	女性 50% :298名
--------------	--------------

その他 11名 無記入 11名

-2 年代(回答数が多い順)

40代	21%	70代以上	33%
50代	20%	60代	
70代以上	18%	50代	41%
30代	16%	40代	
60代	15%	30代	26%
20代以下	10%	20代以下	

無記入 2名

-3 世帯人数(回答数が多い順)

4人以上の世帯	33%	197名
2人世帯	29%	170名
3人世帯	22%	131名
本人1人世帯	14%	85名

無記入 10名

-4 職業(回答数が多い順)

会社員	40%	235名
無職	25%	148名
パート/アルバイト	18%	108名
学生	6%	37名
公務員	5%	28名
自営業	3%	16名
団体職員	1%	5名
農業(専業)	0%	0名
農業(兼業)	0%	0名

その他 10名、無記入 5名 無効 1名

調査票での「無職」の表記は、「無職(退職者・主婦・主夫等含む)」

-5 お住まいの大字

-6 地域活動の経験

>別添資料(アンケート集計結果報告書)に掲載

-7 大谷北部・中部地区との関わり(回答数が多い順)

選択肢	%	名
栃木県外で生まれ育ち、当地区へ移り住む	50	296
県内他市町で生まれ育ち、当地区へ移り住む	23	139
小山市の他地区で生まれ育ち、当地区へ	10	61
当地区で生まれて一度も外で住むことなく今も	7	39
当地区で生まれ、就職で外へ、その後戻った	3	17
当地区で生まれ進学・就職で外へ、その後戻った	2	14
当地区で生まれ、進学で外へ、その後戻った	2	10

無記入 17名

集計結果を、生まれた県や市町でまとめ、その割合を見ると

栃木県外で生まれた		50%	73%
栃木県内の他の市町で生まれた		23%	
小山市で生まれた	大谷北部・中部地区	14%	24%
	他の地区	10%	

無記入 17 名

コメント欄の記述

大谷北部・中部地区に他所から移り住んで来た人や U ターンした人には、コメント欄にその理由を記入してもらった。(コメント回答 464 件) 主な理由を表に挙げ、コメント欄の記述から一部を紹介する。

コメント要旨	回答件数
仕事に関する理由	144
結婚に関する理由	91
子育てに良い	16
仕事や結婚にプラスして挙げられている主な理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅の新築や購入 (都内より広い・安い等) ・ 新幹線を利用できる利便性 ・ 住みやすい ・ 賃貸の家賃が安い ・ 買い物に便利 	

記入コメントより

◎仕事のため。家賃が安く生活費が安い。素晴らしい地区だと思います ◎仕事の関係で宇都宮に移住して、小山市の自然の美しさに惹かれ、小山市に家を作りました。
◎結婚。夫の通勤のしやすさと、実家への行き来が出来る場所だから ◎結婚を機に。自営業を開業するにあたり適地と思えたため ◎結婚し夫と自分の通勤地の中間地点でもあり、アクセスがいいので ◎結城市に住んでいたのですが、小山市の方が便がいいので家族で引っ越しました。住みやすいので、一人になってもそのまま小山に暮らしています ◎都内に住んでいたが、家賃が安くて移り住んだ。

1-2 集計結果より

主たる回答者像について

以上の結果より、主たる回答者像は、「他県や他市町から、主に転勤などをきっかけに移り住んだ 会社員、または退職者の男女の方々」と考えられる。年齢については、20 代以下を除いては、30 代から 70 代以上まで、15%~20%の間であり、突出して多い年齢層がないという結果になった。

先行調査地域の、田園地帯である生井地区・豊田地区、都市部の小山地区の回答者の属性を比べると下のようになり、大谷北部・中部地区は、小山地区の傾向に近く、都市部としての特性が出ていると言える。

ただし、アンケートの実施方法の違いも、この際には影響している面があることも留意しておきたい。小山地区と大谷北部・中部地区では、無作為抽出でのアンケート郵送で実施し、生井地区・豊田地区では自治会を通しての全戸配布での回覧でアンケートを配布した。3 世代同居の世帯も多い地区では、回覧物は昼間に自宅にいても多い 60 代以上の方が対応することが多くあり、回答者の年齢層の分布に反映されていると推察する。

	生井	豊田	小山	大谷北中
男性	65%	62%	45%	46%
女性	27%	33%	52%	50%
60 代以上	75%	68%	46%	33%
30 代以下	2%	5%	18%	26%
地区出身	66%	60%	17%	14%
県外出身	11%	10%	58%	50%

2：生活圏について

2-1 設問【2】の集計結果

選択肢から1つを選ぶ

-1 仕事や学校へ通っている地域

-2 日常的な買い物や用事で出かける地域

-1 仕事や学校へ		-2 日常的な買い物等	
行先	回答数	行先	回答数
大谷北部・中部	93	小山地区：駅東	205
小山地区：駅東	79	大谷北部・中部	194
県内の他の市町	75	大谷南部	78
茨城県	53	小山地区：駅西	25
大谷南部	38	茨城県	20
東京都	36	県内の他の市町	13
小山地区：駅西	32	宇都宮市	12
間々田地区	21	間々田地区	10
埼玉県	19	東京都	10
宇都宮市	16	その他	6
その他	14	埼玉県	4
桑地区	9	桑地区	3
絹地区	4		
豊田地区	4	-1 無記入 91名 無効 3名	
穂積・中地区	3	-2 無記入 7名 無効 6名	
群馬県・千葉県	2		
寒川・生井地区	1		

2-2 集計結果より

ふだんの生活圏では、-1の通勤・通学で東京都、茨城県、宇都宮市などに通う人も一定数いるものの、-2の日常的な行動においては、33%の人が大谷北部・中部地区で完結しており、大谷北部・中部+小山地区（駅東）のエリアでは、そこだけで67%の人の行動が完結していることがわかる。-3の特別な買い物や会食は、小山地区（駅東）、宇都宮市、県内の他の市町、東京都が上位にきている。

選択肢より2つを選ぶ

-3 休みの日に「特別な買い物」「会食」「イベント」等でよく出かける地域

-4 休みの日に「自然の中でリフレッシュ」「アウトドアスポーツ」等で出かける地域

-3 特別な買い物や会食等		-4 自然の中で・・・	
行先	回答数	行先	回答数
小山地区：駅東	221	県内の他の市町	225
宇都宮市	169	茨城県	120
県内の他の市町	129	大谷北部・中部	86
東京都	123	群馬県・千葉県	65
小山地区：駅西	100	小山地区：駅東	64
大谷北部・中部	99	小山地区：駅西	54
埼玉県	70	宇都宮市	51
茨城県	68	その他	50
大谷南部	41	大谷南部	42
その他	17	東京都	32
群馬県・千葉県	13	埼玉県	32
間々田地区	12	桑地区	18
桑地区	8	間々田地区	15
絹地区	2	絹地区	11
穂積・中地区	2	寒川・生井地区	10
豊田地区	2	穂積・中地区	7
寒川・生井地区	1	豊田地区	3

-3 無記入 17名 無効 2名

-4 無記入 90名 無効 6名

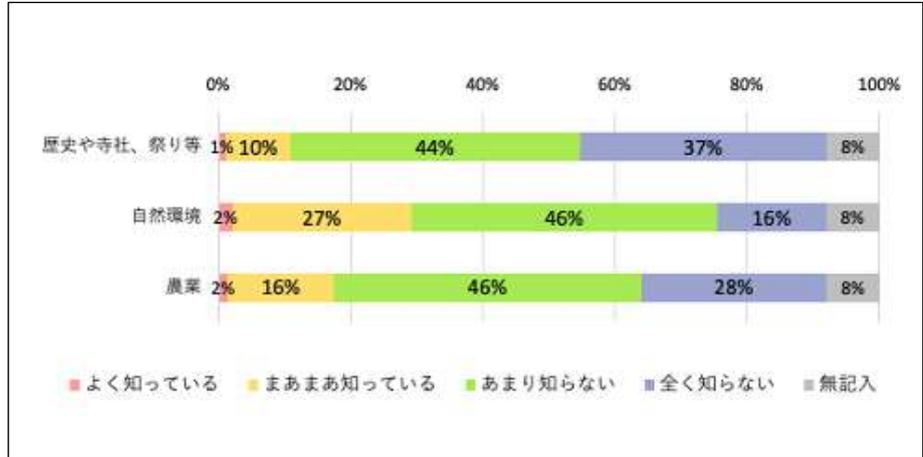
県内の市町では、選択肢には「宇都宮市」を挙げそれ以外は、「県内の他の市町」という選択肢を用意し、具体的な市町名はコメント欄記入を促した。-3の特別な買い物や会食などの行き先のコメント欄の上位は、佐野市32名、栃木市21名、上三川町13名である。佐野市はアウトレットモール、栃木市は福田屋百貨店、上三川町はインターパークが主な行き先であると推察される。同様に、-4の県内の他の市町の内訳上位は、那須町58名、日光市46名、栃木市46名である。

3：大谷北部・中部地区の地域資源への認知度・関心度

3-1 設問【3】の集計結果

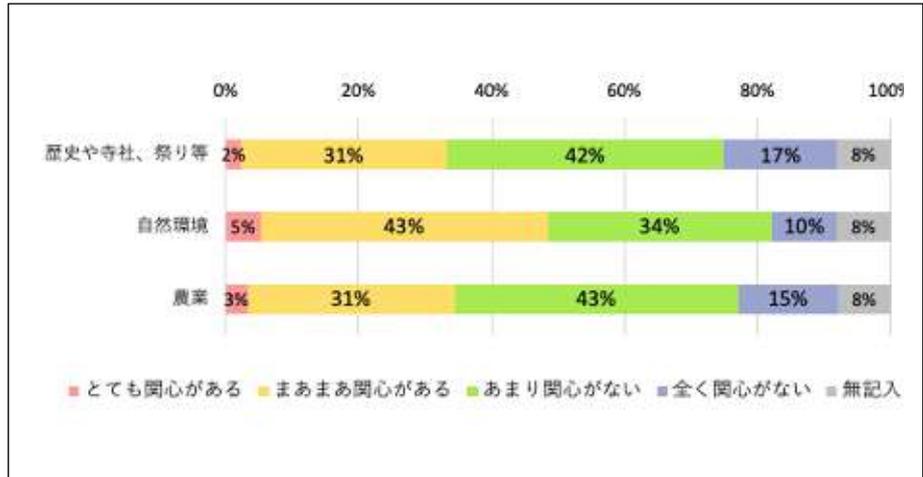
A 認知度を把握する

- (1)地区のなりたちの歴史や、
近隣に残る城跡や神社や
寺の歴史、由緒、祭り等を
知っていますか？
- (2)地区にある公園、街路樹、
平地林などについて
知っていますか？
- (3)地区内の農業について
どのような地域でどのよ
うな農業が行われている
か知っていますか？



B 関心度を把握する

- (1)地区のこのような歴史、
祭り、伝統芸能に
関心がありますか？
- (2)地区に残る自然環境に
関心がありますか？
- (3)地区の農業に
関心がありますか？



●年代別の集計結果

- (1)大谷北部・中部地区の歴史や寺社、城跡、祭りについて

単位は%（無記入、無効の数値は表に含まない）

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	11		81		32		59	
	1	10	44	37	2	31	42	17
～20代	2	16	62	19	5	31	43	19
30代	0	4	34	59	1	27	40	28
40代	0	10	50	33	2	28	48	15
50代	1	13	45	34	3	37	39	13
60代	2	9	42	37	2	30	42	10
70代～	3	10	25	38	2	30	38	14

(2)大谷北部・中部の公園、街路樹、平地林などについて

単位は% 無記入、無効の数値は表に含まない

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	29		62		48		44	
	2	27	46	16	5	43	34	10
～20代	10	38	41	9	7	40	40	12
30代	0	19	53	25	3	38	37	19
40代	1	25	49	18	3	41	40	7
50代	2	29	47	14	4	51	29	8
60代	2	30	42	15	11	46	25	9
70代～	2	25	43	13	5	41	33	6

(3)大谷北部・中部地区の農業について

単位は% 無記入、無効の数値は表に含まない

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	18		74		34		58	
	2	16	46	28	3	31	43	15
～20代	3	24	59	12	3	33	40	22
30代	1	12	39	45	3	22	42	29
40代	1	13	51	28	2	27	50	13
50代	1	19	45	27	1	45	38	8
60代	1	14	46	29	4	34	42	10
70代～	3	17	42	22	6	26	40	13

3-2 集計結果より

大谷北部・中部地区の地域資源3項目について、どの年代も平均19.3%が「よく/まあまあ知っている」、平均38%が「とても/まあまあ関心がある」と答えている。この若干の増加には、「知らないが関心はある」層の存在が読み取れる。関心度について「関心がある」が「関心がない」を上回るのは(2)の自然環境のみであり、右表のように豊田地区、小山地区より認知度、関心度より低い結果(回答者の年齢層の違いにもよるが)であることと併せて今後の検討課題と言える。

●3地区の比較

認知度は「よく/まあまあ知っている」、関心度は「とても/まあまあ関心がある」の合計数の割合%を記載。小山地区(3)は、市域全体の農業について尋ねている。回答者に、地域のことをよく知る高齢者が多い豊田地区は、認知度も高いと考えられる。

		豊田	小山	大谷北中部
(1)歴史	認知度	52	27	11
	関心度	50	54	33
(2)自然	認知度	40	39	29
	関心度	45	65	48
(3)農業	認知度	37	25	18
	関心度	57	51	34

4：地域の困りごと

4-1 設問【4】の集計結果

質問「あなたが「無くしたい」「解消したい」「解決したい」と考える大谷北部・中部地区の困りごとは、どんなことでしょうか？」グループインタビューでの成果をもとに設定した18の選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答する設問とした。

●回答が多い順（数字は回答人数）

- 1 路上や公園などのゴミ・ゴミ出しマナー・171
- 2 公共交通の不便さ・・・・・・・・・・159
- 3 道路（幅、繋がり具合など）状況の悪さ・155
- 4 交通渋滞・・・・・・・・・・104
- 5 選択肢が少ない教育環境・・・・・・・・102
- 6 地域でのコミュニケーション不足・・・・80
- 7 空き家・空き地の増加・・・・・・・・73
- 8 台風や大雨による道路の冠水被害・・・・72
- 9 地域の集まりや寄り合い・・・・・・・・70
- 10 騒音など住環境への影響・・・・・・・・66
- 11 治安の悪化・・・・・・・・・・60
- 12 買い物の不便さ・・・・・・・・・・56
- 13 子どもが外遊びできる場所の減少・・・・51
- 14 選択肢が少ない働く場所・・・・・・・・51
- 15 地域の担い手・後継者不足・・・・・・・・48
- 16 昔からの風習・・・・・・・・・・42
- 17 農業の担い手・後継者不足・・・・・・・・28
- 18 祭りや伝統芸能の担い手・後継者不足・・20

その他・無記入・無効は記載していない

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、5つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

交通や移動に関すること 474名 33.7%	公共交通の不便さ、道路状況の悪さ、交通渋滞、買い物の不便さ
生活環境に関すること 442名 31.4%	路上や公園などのゴミ・ゴミ出しマナー、空き家・空き地の増加、道路の冠水被害、騒音など住環境への影響・治安の悪化
教育環境や就労に関すること 204名 14.5%	外遊びできる場所の減少、選択肢が少ない教育環境、選択肢が少ない働く場所
地域コミュニティに関すること 192名 13.6%	昔からの風習、地域の集まりや寄り合い、地域でのコミュニケーションの不足
担い手・後継者不足 96名 6.8%	地域活動、農業、祭りや伝統芸能の担い手・後継者不足

5-2 集計結果より

ゴミの問題が、同じ都市部の小山地区と同様に最多となっているが、当地区では、どの年代でも上位3つに入る「道路状況の悪さ」を含め、「公共交通の不便さ」「交通渋滞」と、移動や交通に関する困りごとが際立っている。担い手不足については（農業に関してはグループインタビューで継承者不足の話題が多く出たが）現時点でのアンケート調査ではそれほど深刻な問題となっていない。

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え）

20代：回答 58名	30代：回答 95名	40代：回答 113名	50代：回答 119名	60代：回答 92名	70代～：104名
1 道路状況の悪さ	1 道路状況の悪さ	1 公共交通が不便	1 公共交通が不便	1 ゴミ問題	1 ゴミ問題
2 公共交通が不便	2 教育環境	2 道路状況の悪さ	2 ゴミ問題	2 道路状況の悪さ	2 空き家・空き地
3 教育環境	3 交通渋滞	3 ゴミ問題	3 道路状況の悪さ	3 公共交通が不便	3 道路状況の悪さ
4 買い物の不便さ	4 ゴミ問題	4 交通渋滞	4 交通渋滞	4 コミュニケーション不足	3 公共交通が不便
5 コミュニケーション不足	5 公共交通が不便	5 教育環境	5 道路の冠水被害	4 教育環境	4 コミュニケーション不足
5 住環境への影響					

5：大切に守り継ぎたい地域の宝

5-1 設問【5】の集計結果

質問「あなたが「大切に守っていききたい」と考える大谷北部・中部地区の小さな自慢は何でしょう？」グループインタビューの成果をもとに設定した12の選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答

●回答が多い順（数字は回答人数）

- 1 買い物の利便性・・・235
 - 2 街路樹や公園、平地林など
まちなかに残る自然・・・212
 - 3 交通の利便性・・・179
 - 4 まちなみや景観・・・125
 - 5 地域に残る歴史ある史跡、神社やお寺・・・117
 - 6 地域の工業・・・74
 - 7 各地域に残る歴史ある建物や古木・・・65
 - 8 公民館で行われる祭りやイベント・・・57
 - 9 消防団や自治会活動等、地域の
助け合いの活動・・・51
 - 10 各地域に残る祭りや風習、伝統芸能・・・49
 - 11 趣味やスポーツの地域のサークル・・・45
 - 11 地域の商業・・・45
- その他・無記入・無効は記載していない

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、4つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

利便性に関すること 414名 33.0%	交通の利便性 買い物の利便性
歴史的な 地域の資源 231名 18.4%	各地域に残る歴史ある史跡、神社やお寺、各地域に残る祭りや風習、伝統芸能、各地域に残る歴史ある建物や古木
地区に残る 自然環境 212名 16.9%	街路樹や公園、平地林など まちなかに残る自然
地域コミュニティに 関すること 153名 12.2%	公民館で行われる祭りやイベント、消防団や自治会等、地域の助け合いの活動、趣味やスポーツの地域のサークル活動・
地域の景観 125名 10.0%	まちなみや景観
地域の産業 119名 9.5%	地域の工業、地域の商業

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え）

20代：回答 58名	30代：回答 95名	40代：回答 113名	50代：回答 119名	60代：回答 92名	70代～：104名
1 街路樹や平地林	1 買い物の利便性	1 買い物の利便性	1 買い物の利便性	1 街路樹や平地林	1 街路樹や平地林
2 買い物の利便性	2 交通の利便性	2 交通の利便性	2 街路樹や平地林	2 買い物の利便性	2 交通の利便性
3 交通の利便性	3 街路樹や平地林	3 街路樹や平地林	3 交通の利便性	3 交通の利便性	3 買い物の利便性
3 まちなみや景観	4 まちなみや景観	4 まちなみや景観	4 史跡、寺社	4 まちなみや景観	4 まちなみや景観
4 史跡、寺社	5 史跡、寺社	5 史跡、寺社	5 まちなみや景観	5 史跡、寺社	5 史跡、寺社
					5 公民館での催事

5-2 集計結果より

スーパーなど日常の買い物に利用する店舗の多さは、特に子育て世代のグループインタビュー

でも語られた通りの結果となった。また小山地区と同様に都市部で生活する人々にとっては、地区に残された自然環境を守りたいとする声が多い。

6：暮らしの価値観

大問【6】として、個人の暮らしの中での充足感や豊かさをどう考えているかを問う質問を設けた。これは、SDGsの推進や持続可能な地域社会運営の構築を考える際に、生活者の価値観とそれに基づく行動様式の考察も必要不可欠であるという見地からの対応となる。

(1)については、全国的な傾向と比較するために内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」(1現在の生活について(4)現在の生活の充足感)と選択肢を同じくしている。同調査では、この質問は、昭和49年(1974)から継続されているので、経年での国民意識の変容も確認することもできる。

(1)(2)については、田園部・都市部の調査結果が出揃ってからの比較検討のデータとするため、ここでは単純集計の結果の掲載にとどめる。

6-1 設問【6】の集計結果

(1) 「日頃の暮らしの中で「充足感を感じる」のは、どんな時ですか？」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

- 1 ゆったりと休養している時・・・375
 - 2 家族だんらんの時・・・329
 - 3 趣味やスポーツに熱中している時・・・326
 - 4 友人や知人と会合、雑談している時・・・277
 - 5 仕事に打ち込んでいる時・・・177
 - 5 勉強や教養などに身を入れている時・・・87
 - 6 社会奉仕や社会活動をしている時・・・31
- その他13名、無記入13名

(2) 「あなたにとって「豊かさを感じる幸福な暮らし」は、どのようなことでしょうか？ 豊かさや幸福の実現に「最も大切だと思うもの」は？」 *選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

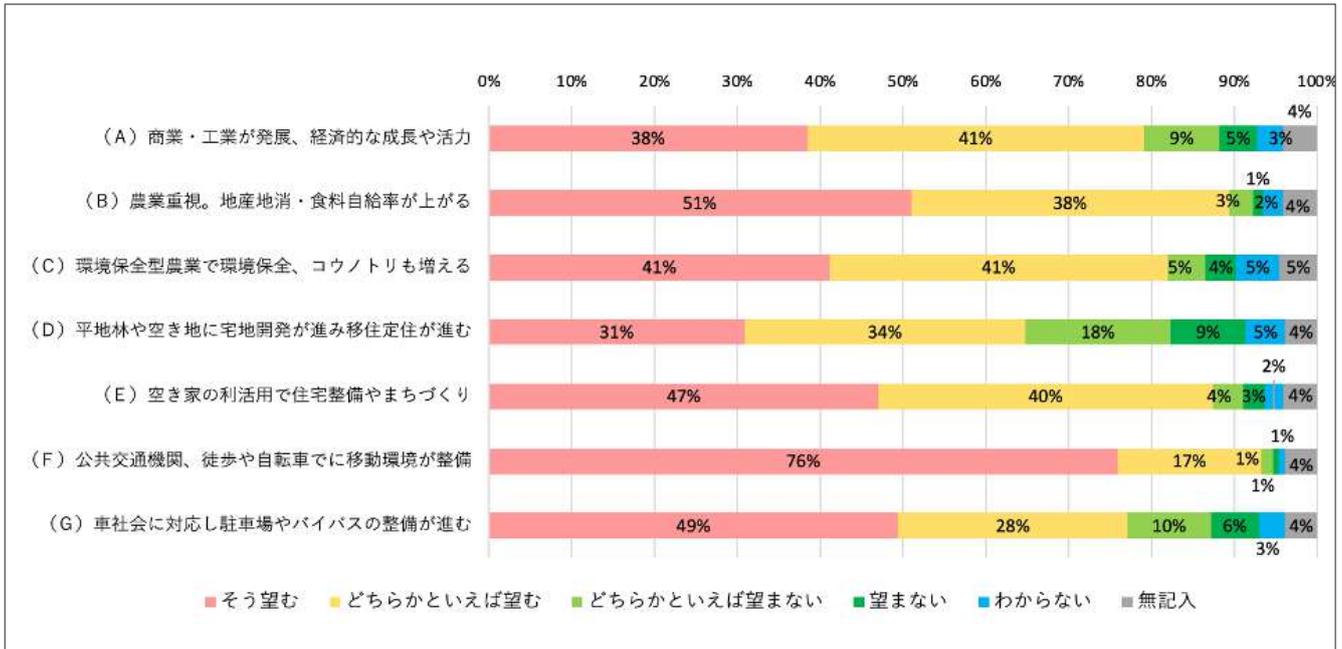
- 1 心も体も健康でいられること・・・420
 - 2 好きなことをする時間のゆとりがあること・・・281
 - 3 好きなことができるだけのお金や資産のゆとりがあること・・・280
 - 4 老後、災害、犯罪や戦争などの心配がなく、安心して安全に暮らせること・・・222
 - 5 家族や親戚、友人や地域の人たちと助け合って生活すること・・・94
 - 6 自然に恵まれた環境の中で、またはその近くで暮らせること・・・89
 - 7 モノはあまり所有せずに、できるだけシンプルに身軽に暮らせること・・・86
 - 8 家電や車など物質的に満ち足りた環境で暮らせること・・・57
 - 9 家庭菜園や花づくりなど、土に触れる時間があること・・・46
 - 10 困っている人の役に立てる活動や、地域、社会の役に立てること・・・44
 - 11 情報や商品が手に入りやすく文化芸術に触れる機会が多い都会で暮らせること・・・39
 - 12 住んでいる地域でつくられている農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・26
 - 13 地域の伝統や文化を絶やさず継承し、次の世代に引き渡す活動ができること・・・14
 - 14 社会的な地位を築き、名が知れた存在になること・・・5
 - 15 日本各地、世界各国の農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・4
- その他5名、無記入8名

7：望ましい小山市の都市環境のあり方

7-1 設問【7】の集計結果

質問：「最後に、小山市のこれからのまちづくりについて、お考えやご意見をお聞かせください」
 (1) 「20年後、30年後の望ましい小山市の都市環

境のあり方について、ご意見をお尋ねします。
 AからGそれぞれについて、選択肢の中からお考えに合うものを選び、番号を「回答欄」にご記入ください。（後略）
 選択肢①そう望む②どちらかといえば望む③どちらかといえば望まない④望まない⑤わからない



●支持・共感者が多い順（「そう望む」「どちらかといえば望む」の割合の合計が高い順）

* 選択肢の文末「・・・小山市」は省略

- 1 93% (F)公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む
- 2 89% (B)地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている
- 3 87% (E)空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にした住宅整備やまちづくりが進む
- 4 82% (C)環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている
- 5 79% (A)商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている
- 6 77% (G)車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる
- 7 65% (D)空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える

●「そう望む」の割合が高い4項目

- 1 76% (F)公共交通機関の整備や・・・
- 2 51% (B)地域の農業が大切にされ・・・
- 3 49% (G)車社会に対応して、駐車場や・・・
- 4 47% (E)空き家の改修や利活用が進み・・・

●「望まない」の割合が高い3項目

- 1 9% (D)空き地や平地林などに新しい宅地・・・
- 2 6% (G)車社会に対応して、駐車場や・・・
- 3 5% (A)商業・工業が発展し、工業団地も・・・

●年代別の回答結果

		全体	20代 58名	30代 95名	40代 113名	50代 119名	60代 92名	70～ 104名
A 商業・工業が発展し、工業団地 も増え経済的な成長や活力が重 んじられている小山市	そう望む	38	36	40	33	41	35	45
	どちらかと言えば望む	41	47	37	47	41	41	32
	どちらかと言えば望まない	9	7	8	11	9	11	8
	望まない	5	7	7	4	4	4	2
B 地域の農業が大切にされ、地産 地消が進み、市域内の食料自給 率が上がっている小山市	そう望む	51	53	44	46	47	59	59
	どちらかと言えば望む	38	40	40	44	50	30	24
	どちらかと言えば望まない	3	5	6	5	2	0	0
	望まない	1	0	2	2	0	0	2
C 環境保全型の農業によって自然 環境も良好に保たれ、コウノト リも増えている小山市	そう望む	41	40	36	31	38	50	55
	どちらかと言えば望む	41	40	41	50	52	34	23
	どちらかと言えば望まない	5	5	8	7	2	3	2
	望まない	4	5	9	4	2	1	2
D 空き地や平地林などに新しい宅 地開発が進み定住する若い世代 や移住者が増える小山市	そう望む	31	41	38	25	26	24	37
	どちらかと言えば望む	34	38	32	38	32	35	30
	どちらかと言えば望まない	18	10	13	22	25	18	12
	望まない	9	5	9	11	9	12	7
E 空き家の改修や利活用が進み、 あるものを大切にした住宅整備 やまちづくりが進む小山市	そう望む	47	53	49	42	41	52	49
	どちらかと言えば望む	40	40	34	43	52	36	34
	どちらかと言えば望まない	4	3	7	8	1	1	1
	望まない	3	0	5	5	2	0	2
F 公共交通機関の整備や、徒歩や 自転車で安全・快適に移動でき るまちづくりが進む小山市	そう望む	76	86	76	72	78	73	76
	どちらかと言えば望む	17	10	19	24	18	17	11
	どちらかと言えば望まない	1	2	2	2	2	0	1
	望まない	1	0	9	2	0	1	1
G 車社会に対応して、駐車場やパ イパスの整備など、車での移動 が快適になる小山市	そう望む	49	74	65	55	42	34	37
	どちらかと言えば望む	28	14	23	29	33	28	31
	どちらかと言えば望まない	10	5	3	9	11	15	15
	望まない	6	2	3	3	10	12	3

●参考：3地区の比較 *数字は割合%

		豊田	大谷北部中部	小山
A 商業・工業が発展し工業団地も増え、経済的な成長や活力が重んじられる	そう望む /どちらかと言えばそう望む	70	< 79	≒ 78
	どちらかと言えば望まない/望まない	14	14	13
B 地域の農業を大切に、地産地消が進み、自給率が向上する	そう望む /どちらかと言えばそう望む	83	< 89	< 91
	どちらかと言えば望まない/望まない	3	4	4
D 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える	そう望む /どちらかと言えばそう望む	64	< 65	< 70
	どちらかと言えば望まない/望まない	20	< 27	> 20
E 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にしたい住宅整備やまちづくりが進む	そう望む /どちらかと言えばそう望む	92	> 87	= 87
	どちらかと言えば望まない/望まない	5	< 7	= 7
F 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む	そう望む /どちらかと言えばそう望む	84	< 93	≒ 94
	どちらかと言えば望まない/望まない	3	2	1
G 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備などで、車の移動が快適に	そう望む /どちらかと言えばそう望む	81	> 77	≒ 76
	どちらかと言えば望まない/望まない	13	< 16	= 16

7-2 集計結果より

本設問の趣旨

本設問は、田園環境と都市環境の調和が取れた未来の小山市のあり方を考えていくにあたり、その基盤となる「産業、宅地開発、交通政策」について、各地区ごとに「積極的支持/共感」から「不支持」の軸の上で、市民の考えを確認していくものである。項目としてあげたことは、これまでのグループインタビューでも語られているように「開発か自然環境保全か」「工業優先か農業優先か」などの「二者択一」で語るのには非常に難しい側面がある。「未来の子どもたちのために自然環境は残したいが、開発もして人を呼び込まないと地域が廃れてしまう」など、多くの市民の意識には「どちらか」では割り切れないある種のジレンマが存在する。それではどうするか？という小山市の未来へ姿と、そこへの道のりを市と市民で意見交換を重ねながら探っていくのが、未来ビジョンの策定であり、そのための参考資料として、本設問の結果はディテールを読み解きながら活用していくものとした。

結果の概観

7項目は、A/G/Dがどちらかという「開発志向」の内容だが、その3項目が下位に並ぶ結果となった。大きな差異が出たわけではないが、先行調査の地区と同様に、総じて、「商業・工業が発展し経済的に発展すること」「平地林や空き地に宅地造成を進めること」より、「農業・環境保全を大切にすること・空き家などあるものの利活用をすること」への支持・共感が高い傾向にあり、また、車社会としての利便性より、車がなくても移動しやすい環境を望む声の上回っている。

当地区の「宅地開発」について

聞き取りでもアンケートの自由記述でも、この30年、40年での地区の変容～平地林が皆伐され宅地造成が進んだこと～への意見や言及が多い。上記表の3地区の比較では、項目DとEに注目したい。3地区ともに「D平地林を潰すことによる宅地造成」より「E空き家の利活用」への支持が高いが、不支持率で見ると、当地区では、Dへの不支持率（赤字）が豊田地区・小山地区より若干ではあるが高くなっている。

7-3 自由記述の内容について

【7】では下記のように自由記述の欄も設けた。
(2)最後に、お考えやご提案を自由にお書きください。

*例えば、上記のAからGであげた例以外に、20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方として、お考えがありましたら教えてください。*また、小山駅周辺の都市環境を持つエリアも、それを取り込む田園環境が広がるエリアも、バランスと調和がとれ、より良い関係を作りながら持続可能なまちづくりを進めていくために、小山市が大切にしていけるべきこと、具体的なご提案など、自由にお書きください。

295名から回答があり、別添の「アンケート集計結果報告書」では、回答をテーマごとに掲載した。複数の項目の記述がある場合は分割して掲載している場合もあり、また、明らかな誤りと認識できる表記は書き換えているが、基本的には原文のままの記載としている。ここでは、分類したテーマと、一部のテーマについては、意見やコメント内容の概要を記す。

A 都市環境のあり方

1 自然環境の保全 (13件)

今現在も平地林が伐採され開発が続く状況を懸念する声が多くあり、人間はもちろんだが野鳥や生き物の生息場所が減っていることへの懸念が強い。下記のように市民の意識を高める必要性にコメントされた意見もあった。

◎今回のアンケートで自然豊かな小山市を守るために私含め市民一人一人の意識を高めることが重要だと改めて思いました。

2 田園/都市の調和や連携 (23件)

多様な視点からの意見が集まっており、今後の意見交換の参考になると考える。特に都市部と田園部それぞれの現状の把握においては、利便性や生活状況の格差に言及する声もある。具体策の提

言を含む意見を1つ紹介する。

◎(A)のように商業・工業が発展するためには、初期投資がかかるため、既存の農業・地産地消が進むために、若い人の力が必要。特に小山西のエリアの空いている農地を活用したり、若い方が集団で農業が出来るように、調整区域を一部開放し、新規で農村のような場所を作り受け入れる。お金を生み出せるツール(仕組み)を作る。農協を経由せず、直接販売ルートや地域クーポンなどを活用し、小山市内で回る経済の仕組みを。

3 農業 (12件)

耕作放棄地の活用や食料自給率などに関する言及、若者が働ける農業体制の構築などの意見が寄せられている。「一度、農地を壊してしまうと元には戻らない」「行政のテコ入れが必要」「公共事業が率先して企業型農業を」など。

4 商工業の誘致や振興 (6件)

アンケート全体を通して今以上の開発を行わず平地林や農地の保全を望む声が多いが、「大谷地区による商業・工業の発展がすべて。その可能性と土地は十分にある」「田園環境都市ではなく技術革新都市構想を」とする意見、他の4件は大型ショッピング施設の誘致を希望する意見となっている。

5 都市部の開発と生活環境 (29件)

市域全体のインフラ整備、JR 小山駅周辺の開発、空き家・空き地の諸問題についてという3分野での意見が寄せられている。

B 移動と交通

6 車での移動について (33件)

集まった意見は、主に、道路の不具合(渋滞箇所が多く改善されない、線路沿いの道路環境が事故を誘発、道路の接続の悪さ等)、歩行者と自転車への配慮が足りない道路環境、ドライバーの交通マナーの悪さ・・・という3つに大別される。

7 公共交通について (35件)

オーバスへの要望、新幹線に関する要望がある

が、最も多いのは、高齢者の方、また現在は問題がなくても高齢になり免許返納して以降の生活を想定しての公共交通機関の整備を希望する声が多くなっている。

C 生活と福祉

8 教育、子育て世代・若い世代について (24 件)

9 高齢化社会について (11 件)

10 地域コミュニティ・共生社会について (10 件)

70 か国の 7000 人の外国人の方が暮らす小山市 (3/18 市民フォーラムにて) で特に外国人の方々が多く住む当地区では、小山地区と同様、外国籍の方々のゴミ出しのルールを守っていないことを指摘する声もあるが、アンケートでは「共生社会」という観点から、以下のご意見もある。
◎外国人の人も、将来は地域と交流が活発に行われているようになってほしいと思う

◎近年小山市に多くの外国人の方が暮らすようになりました。コロナの影響もあり、地域から孤立してしまうケースもあると思います。そういった方々へのケアが必要だと感じています。また、小中学校に通う外国人児童生徒への支援も不足しています。小山市の将来を担う子どもたちに国籍は関係ありません。今後の充実した支援をお願いしたいです。

また、若い世代だけではなく、高齢者だけではなく、多世代が心地よく暮らせるまちづくりを望む声が多い。

11 安心安全な環境について (7 件)

街路灯の増設や夜の通りの治安への不安、また工場からの騒音や空気(オイルミスト臭のある風)などについての意見が寄せられている。

D まちづくりの進め方 (13 件)

「近隣市町との広域での連携まちづくり」や、「多額の公金を投入しない今あるものでのまちづくり」、「成功事例を参考にスピーディに」、「全ての点でデジタル化が遅い。アンケート自体も全

てデジタルで」等、さまざまな視点からのご意見があった。ビジョン策定の進め方で小山市が重視している各地区ごとの現状の把握に共通すると考えられるご意見があるので記載して紹介する。
◎中央集権型ではなく、それぞれの地域を大切にしていってほしい。地域の学校を核とした街づくりができないか。欧米のコミュニティスクール的な地域の人の情報交換、学びの場として学校の活用ができないか。大人の学ぶ姿は子どもにとって、いい刺激になるのではないか

E その他 (62 件)

ほとんどが運動施設、大型商業施設の誘致などの要望であるが、「まずは市民への小山の良さのPRの強化」「災害が少ない小山として首都移転誘致を」なども。市民意識の改革に言及したご意見を記載して紹介する。

◎環境を整える事も大切ですが、それは少しずつ発展する物ですが、それを利用するのは人です。人の正しい認識、モラル、常識を身につけさせる事を原点に戻り、教育に細かな人作りを取り入れる事が大切であると思います。今は先生の中にも世の中の仕組みや道路上の交通規則、やってはいけないことを、信念を持って指導出来る人が少ない様におもいます(ごみのポイ捨てが多すぎる)

F 複合的なコメント (26 件)

ここでも具体的な提案も多くいただいている。全件を別添の「アンケート集計結果報告書」に記載している。

4 参考資料

4-1 キーワード抽出

アンケート及び聞き取りの内容から、テキストマイニングという解析ツールを利用して「よく話題に上った」キーワードの抽出を行った。解析は「ユーザーローカル テキストマイニングツール」による。<https://textmining.userlocal.jp/> テキストマイニングは、一般的に使用される「私」「思う」などの意味が薄い言葉ばかりがランキング上位にこないよう、調査対象に特徴的に使用される「コウノトリ」などの単語を重視する統計処理法が用いられる。

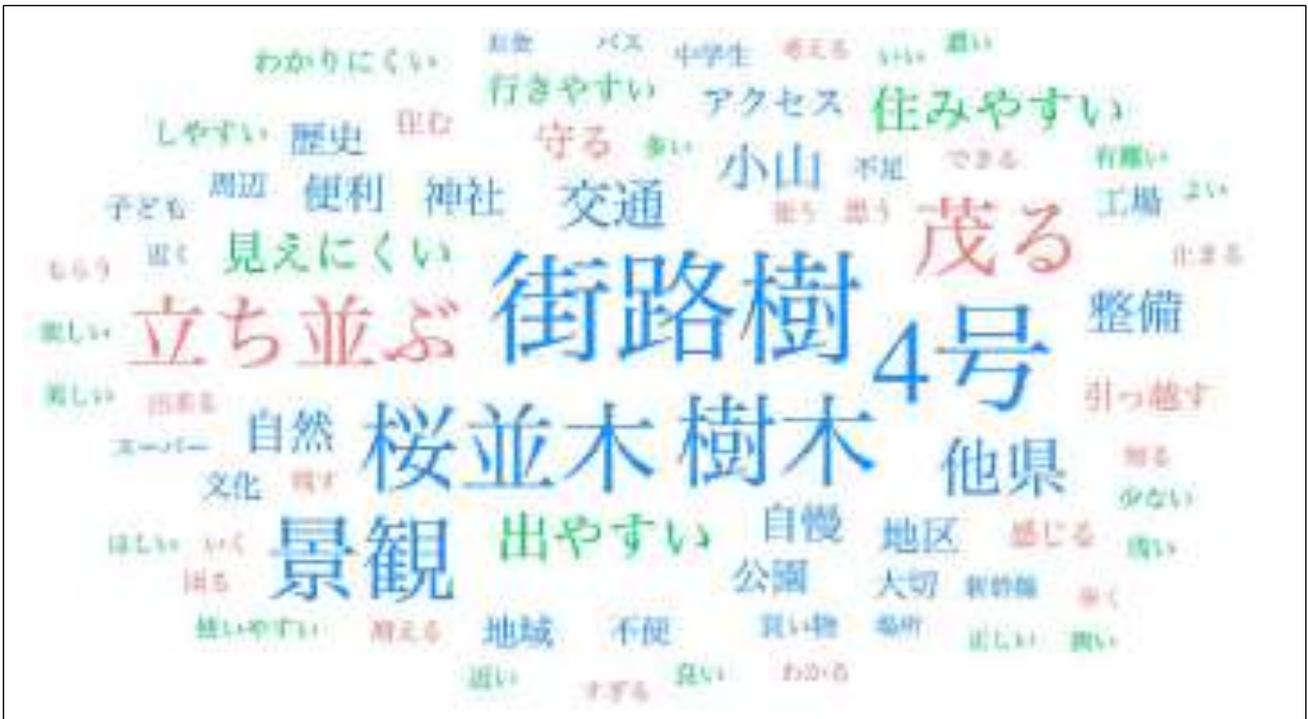
解析に用いたテキストデータは、アンケートの設問【4】【5】【7】の自由記述全文を対象とし、グループインタビューの解析に用いたテキストデータは4件の聞き取り書き起こし全てを1本にまとめたデータを対象とした。

1 設問【4】 困りごと	7,782 字
2 設問【5】 大切に守りたいもの	3,292 字
3 設問【7】 望ましい都市環境	25,530 字
4 グループインタビュー全件	73,435 字

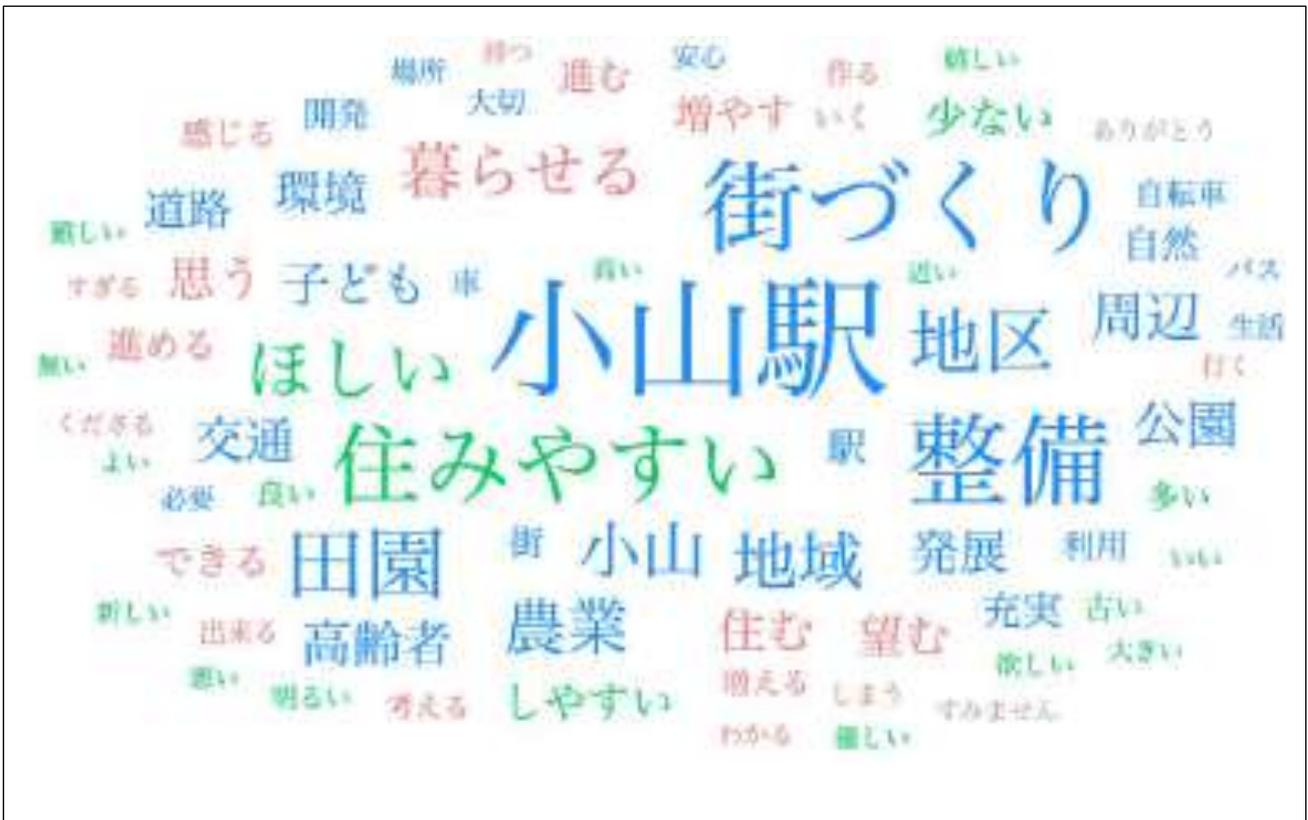
1 | アンケート【4】 困りごとを尋ねた設問の自由記述



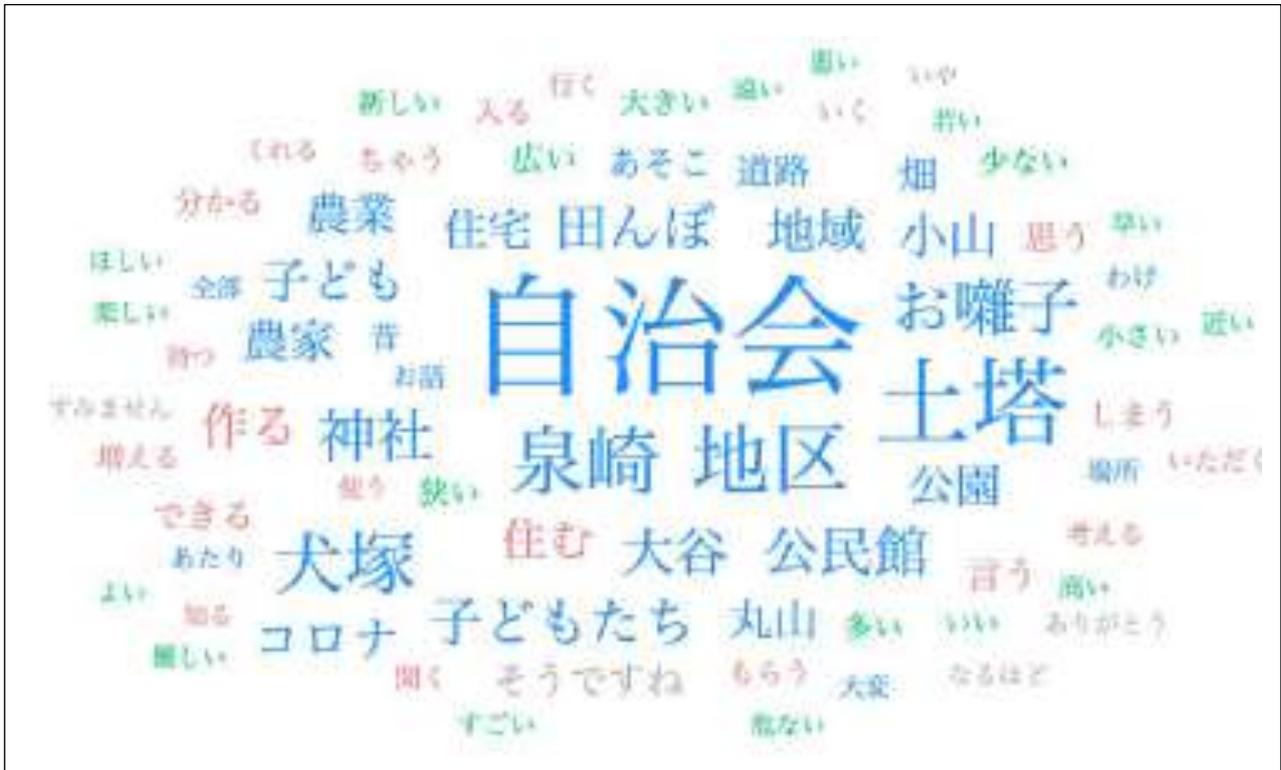
2 | アンケート【5】大切なものを尋ねた設問の自由記述



3 | アンケート【7】望ましい都市環境について



4 | グループインタビュー全件



4-2 地区別の世帯数・人口の変化

国勢調査に基づく小山市統計年報より、5年ごとの地区別世帯数・人口数の変化を整理した表を次頁に掲載する。

地区別の人口が多い、小山地区、大谷地区、間々田地区、桑地区の増減率を比較してみると、右の表のようになる。各期間において、大谷地区が最も高い増減率で推移してきたことがわかる。ただ、小山地区同様、その増加率の値は年々小さくなってきており、直近の5年間では、間々田地区の方が、増加率が高い。

人口が多い地区の人口増減率

	H12-17	H17-22	H22-27	H27-R2
小山	6.00%	5.57%	2.50%	△1.60%
大谷	7.30%	6.30%	4.90%	2.10%
間々田	2.70%	1.50%	3.60%	2.70%
桑	△0.40%	0.10%	△1.30%	0.90%

増減率は、増減数÷前回調査時の人口

地区別 世帯数・人口の変化

国勢調査に基づく小山市統計年報（H19年度版～R3年度版）を箕田編集

世帯数の変化					
	2000	2005	2010	2015	2020
	H12	H17年	H22年	H27年	R2年
小山市総数	公開データ無	57,225	62,884	65,792	69,624
小山		20,202	22,791	23,791	24,724
大谷		14,003	15,923	17,061	18,197
間々田		8,983	9,578	10,325	11,239
生井		653	630	624	615
寒川		495	481	465	463
豊田		2,205	2,295	2,293	2,594
中		756	772	780	747
穂積		1,881	1,882	1,787	1,792
桑		6,545	6,984	7,191	7,769
絹		1,502	1,508	1,475	1,484

人口の変化					
	2000	2005	2010	2015	2020
	H12年	H17年	H22年	H27年	R2年
小山市総数	155,198	160,150	164,454	166,760	166,666
小山	46,719	49,508	52,331	53,632	52,800
大谷	35,473	38,051	40,441	42,438	43,311
間々田	25,990	26,703	27,095	28,060	28,825
生井	2,534	2,323	2,121	1,907	1,722
寒川	1,909	1,761	1,653	1,495	1,331
豊田	7,833	7,644	7,407	7,086	7,194
中	2,963	2,775	2,637	2,465	2,181
穂積	5,083	4,952	4,679	4,258	4,088
桑	21,013	20,938	20,953	20,678	20,860
絹	5,681	5,495	5,137	4,741	4,354

▽増減率 = 増減数 ÷ 前回調査時の人口 赤字は増減率マイナス8%以上

人口の増減数(左)と増減率(右)								
	H12 ▷ H17		H17 ▷ H22		H22 ▷ H27		H27 ▷ R2	
小山市総数	4952	3.20%	4304	2.70%	2306	1.40%	△94	△0.10%
小山	2789	6.00%	2823	5.70%	1301	2.50%	△832	△1.60%
大谷	2578	7.30%	2390	6.30%	1997	4.90%	873	2.10%
間々田	713	2.70%	392	1.50%	965	3.60%	765	2.70%
生井	△211	△8.30%	△202	△8.70%	△214	△10.10%	△185	△9.70%
寒川	△148	△7.80%	△108	△6.10%	△158	△9.60%	△164	△11.00%
豊田	△189	△2.40%	△237	△3.10%	△321	△4.30%	108	1.50%
中	△188	△6.30%	△138	△5.00%	△172	△6.50%	△284	△11.50%
穂積	△131	△2.60%	△273	△5.50%	△421	△9.00%	△170	△4.00%
桑	△75	△0.40%	15	0.10%	△275	△1.30%	182	0.90%
絹	△186	△3.30%	△358	△6.50%	△396	△7.70%	△387	△8.20%

5 調査結果の整理

ここでは、調査成果をもとに、大谷北部・中部地区の特性についての整理と、今後、田園環境都市ビジョン策定に向けて、当地区での調査成果から見えてくる、市と市民とで意見交換を重ねて行きたいテーマについて言及したい。

5-1 当地区の特性について

調査成果からはこの3つの特性が見えてくると考える。この3点を通してこれから必要となる「視点」「テーマ」について提案したい。

- (1)多様な層による住民構成
- (2)この50年近くに及ぶ区画整理や開発により、田畑や平地林が大幅に減少し、まちの風景が大きく変わってしまった地域。
- (3)自治会や育成会、また有志の子育て世代等を中心に、それぞれのエリアで、公民館祭りなど親睦の行事が活発に展開されている。

5-2 (1)(3)より～多様な層の交流と相互理解

①地元の方々と新住民

グループインタビューでは、日頃より自治会活動に尽力されているリーダーの方から「分譲団地などに引っ越してきた新しい住民の方々への自治会活動への理解」を促す努力と、その難しさについても言及があった。そこでは「子どもたちが地域活動(特にお祭り)に参加しながら育つこと」の大切さや、また、子どもたちが参加することで親世代の交流や地域への理解が深まることも語られた。

一方、アンケートの自由記述では「移住者なので、大字を聞かれても自分がどこに住んでいるのかわからない」という(アンケート作成時に次回から考慮すべきことでもあるが)ご指摘もあった。また、アンケートの地域資源への認知度において

は、小山地区よりも低い値になっていることもからも、新住民の方々には「通勤や通学、買い物などの利便性は享受しながらも、自分が住んでいる土地への興味関心はほとんど持っていない」とい層が多いと推察される。

②外国籍の方々

P79に記載した状況の中で、新住民の方々と同じく、大谷北部、大谷中部それぞれに、どう相互理解を進めていくかが大きなテーマとなる。

③多世代での交流

子育て世代のグループインタビューでは、分譲団地では三世同居の家庭は皆無ではないかという話であった。ここでもやはり、多世代の交流の機会は意識して創出しないとますます少なくなっていくことが予想される。

今後のテーマとして

●多様な層が住む地区として、その交流などを通じた相互理解を進めるとともに、多様な層が住むからこその「持続可能性」をどう持てるか?という視点での意見交換も必要ではないかと考える。

交流や相互理解については、例えば、北部の中久喜地区で自治会リーダーの皆さんを中心に進んでいる中久喜城跡の環境整備と、地区の歴史を知るためのまち歩きを実施する取組みや、中部のお母さんたちによる、農家や高齢者の方たちとの交流の生まれる学び活動の取組みなど、参考となる事例がある。

アンケートの【7】自由記述において、このような意見があった。問いとして重要だと考えるので記載して紹介する。

◎交通や買い物の利便性やメリットばかりに執着し、小山市・地域に愛着のない人ばかり集まっていないでしょうか?

5-3 (2)より～平地林や農地の保全

この数十年で、地域の風景が大きく変わってしまったことについては、アンケート【5】の「大切に守りたいこと」についての自由記述でも、その変容を嘆くコメントが複数ある。以下に2つを記載して紹介する。

- ◎大切に守っていききたいことはありません。結城から越してきた頃は田畑が広がっており、夏はカエルの声が響き、冬は霜柱を踏んで歩いていたのが懐かしくなっていました。とても残念です。
- ◎小さな子が遊べる雑木林や散歩道などが少なくなり、どんどん宅地の開発が進んで住居が多く立ち並び始めて、景観も変化しています。あまり、自慢できることはありません。(近所の住民の方は親切で住みやすいと思います)

また、【7】の自由記述より、今後、意見交換や検討を進めていく際の課題につながると考えるコメントを2つ記載して紹介する。下線は風景社による。

- ◎最近、自宅周辺を含めて平地林が新しい住宅地になっています。こんなに新しい家が木を切って建てられていいのか、と思います。もともと住宅などがあった場所に新しい家が建つのは良いと思いますが、平地林はそのまま何か整備をして活用できないのでしょうか？緑が少なくなることの不安はあります

- ◎里山の環境を保全し、市民が自由に散策でき親しめる公園を各地区にできるだけ整備すること。既存の雑木林を活かし、収入につながるような仕組みを作る事。林の所有者が林を維持していく中で何か儲かるような側面がないと、宅地か太陽光パネル設置へと推移し、虫や鳥獣の命を守れず、地表温度が上昇してしまうことが懸念される。人間の繁栄だけを考えた開発を転換し、木陰助成金、生態系維持助成金など、実行できる勇気が欲しい。

今後のテーマとして

- 平地林、雑木林、耕作放棄地などについては、潰さないで維持、または保全することで、どのような価値が見出され、どのように活用し、あるいはどのような新たな価値を創出していくことができるか。その意見交換を、関係各課はもとより、企業、事業所、市民の方々と交えて意見交換を進めていくことが必要だと考える。

／以上

参考・引用文献

本報告書を作成するにあたり引用した文献を中心に、小山市、小山地区の地域調査・研究を行う上で参考となると思われる文献をまとめる。文献は、作業の中で主にどの分野の情報を得るために用いたかに基づき、仮に項目を分けて整理した。

1 風土の定義

藪田稔編『神道』弘文堂、1988年

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年

思川の自然調査委員会『都市の清流…思川を歩く』（小山市教育委員会、1994年

和辻哲郎『風土—人間学的考察』岩波書店、1979年

オギュスタン・ベルク『風土の日本—自然と文化の通態』篠田勝英訳、筑摩書房、1988年

廣重剛史『意味としての自然—防潮林づくりから考える社会哲学』勁草書房、2018年

廣瀬俊介「風土形成の一環となる環境デザインについて：人文科学における研究成果の参照による風土概念検討を通して」『景観生態学』21(1)、日本景観生態学会、2016年、15-21頁
<https://doi.org/10.5738/jale.21.15>

2 地質・地形

小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年

金森定敏「思川の地形と生物」小山市史編さん専門委員会

編『小山市史研究』6、小山市教育委員会市史編さん室、1984年、25-36頁

小山市教育研究所編『小山市郷土文化研究誌 第13集』小山市教育研究所、1971年

国土地理院 | 地理院地図

<https://maps.gsi.go.jp>

国土地理院 | 明治期の低湿地データ | 原典資料: 第一軍管地方二万分一迅速図原図 (明治13-19年)

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc_meiji.html

国土地理院 | 空中写真閲覧サービス

<https://geolib.gsi.go.jp>

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター | 地質図 Navi

<https://gbank.gsj.jp/geonavi/>

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー

<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>

田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127(10)、2021年、635-648頁

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2021.0019>

木森大我・須貝俊彦「DEM-GIS 解析からみた、氷期の開析地形による制約下での鬼怒川の完新世堆積作用と地形変化」日本地球惑星科学連合2019年大会発表ポスター HQR05-P06 予稿 (PDF)

<https://confit.atlas.jp/guide/event-img/jpgu2019/HQR05-P06/public/pdf?type=in&lang=ja>

3 気候

小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年

五十嵐典夫ほか『益子の歴史』益子町、1983年

栃木の自然 編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997年

気象庁 | 過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

4 生物と生態系

Millennium Ecosystem Assessment 編『国連ミレニアムエコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』横浜国立大学 21世紀 COE 翻訳委員会責任翻訳、オーム社、2007年

栃木県 | レッドデータとちぎWEB

<http://tochigi-rdb.jp/>

環境省 | 生物多様性センター | 自然環境調査 Web-GIS

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

山本勝利・楠本良延・椎名政博・井手任・奥島修二「農村景観構造に基づく生物生息空間の評価」『システム農学』23(1)、システム農学会、2007年、1-10頁

https://doi.org/10.14962/jass.23.1_1

本田計一「鱗翅目昆虫とアルカロイド」『化学と生物』36(6)、日本農芸化学会、1998年、359-367頁

<https://doi.org/10.1271/kagakutoseibutsu1962.36.359>

服部保・田村和也・小館誓治「フジバカマ生育地の現状と保全」『ランドスケープ研究』63(5)、日本造園学会、1999年、477-480頁

<https://doi.org/10.5632/jila.63.477>

佐渡トキファンクラブ「トキのためのお米を食べる」

<https://toki-sado.jp/ikimonohagakumu/>

5 歴史

「再発見 しもつけの史跡 117 中久喜城跡 (小山・国指定)」『下野新聞』2021年8月19日、23面

小山市教育委員会文化振興課文化財保護係「中久喜城はこんな城です。」

6 地形と陸上・河川交通

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編II 近世』小山市、1986年

阿部昭、橋本澄朗、千田孝明、大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998年

『第123回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019年

高橋修、宇留野主税『鎌倉街道中道・下道』高志書院、2017年

今井敏行「集落内道路の整備診断手法に関する一考察」『農村計画学会誌』1(2)、農村計画学会、1982年、26-35頁
<https://doi.org/10.2750/arp.1.26>

奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977年

奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979年

「日光道中絵図巻5_野木宿より小金井宿まで」国立公文書館デジタルアーカイブ

<https://www.digital.archives.go.jp/item/1603304>

7 遺跡

「栃木県埋蔵文化財調査報告第189集 八幡根遺跡」栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団

8 農業

『栃木県下都賀郡誌(復刻版)』千秋社、2004年(「下都賀郡小誌」「下都賀郡制誌」を合本収録)

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企画部市史編さん室、1979年、26-47頁

高木正敏「近世林野入会の成立——七世紀後半期下野国を中心として」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』4、小山市教育委員会市史編さん室、1982年、45-65頁

農業農村工学会「平野の拡張、新田開発」

<http://www.jsidre.or.jp/tabata3-a/>

栃木の食事編集委員会編『日本の食生活全集 09 聞き書き 栃木の食事』農山漁村文化協会、1988年

衛藤君代「かんぴょうのもどし方」『調理科学』24(2)、日本調理科学会、1991年、175-180頁

https://doi.org/10.11402/cookeryscience1968.24.2_175

有江力・難波成任・山下修一・土居養二・木嶋利男

「Pseudomonas gladioli を定着させたネギまたはニラの混植によるユウガオ つる割病の生物的防除」『日本植物病理学会報』53(4)、1987年、531-539頁

<https://doi.org/10.3186/jjphytopath.53.531>

9 工業

田島康弘「大都市における工業化の進展と農村の対応—栃木県小山市開拓集落の場合」『地理学評論』48(10)、日本地理学会、1975年、742-755頁

<https://doi.org/10.4157/grj.48.742>

10 信仰・祭礼

小山市史編さん専門委員会編『小山市史民俗編』小山市、1978年

宇井浩道・中村裕『称揚寺誌』常光寺、1991年(非売品)

中村裕『血方神社と太々神楽』血方神社、1972年

11 地名

菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年

12 大谷地区郷土誌

大谷地区わがまち元気発掘推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年

「土塔二公民館報 昭和62年6月30日号」土塔二自治会

栃木県小山市年開発部区画整理課編『犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌』小山市、1998年

「ぶらり中久喜魅力マップ—歴史と未来文化のまちづくり中久喜」中久喜地区まちづくり推進協議会、2020年

田園環境都市ビジョン 基礎資料
大谷北部・中部地区

2023年3月

小山市